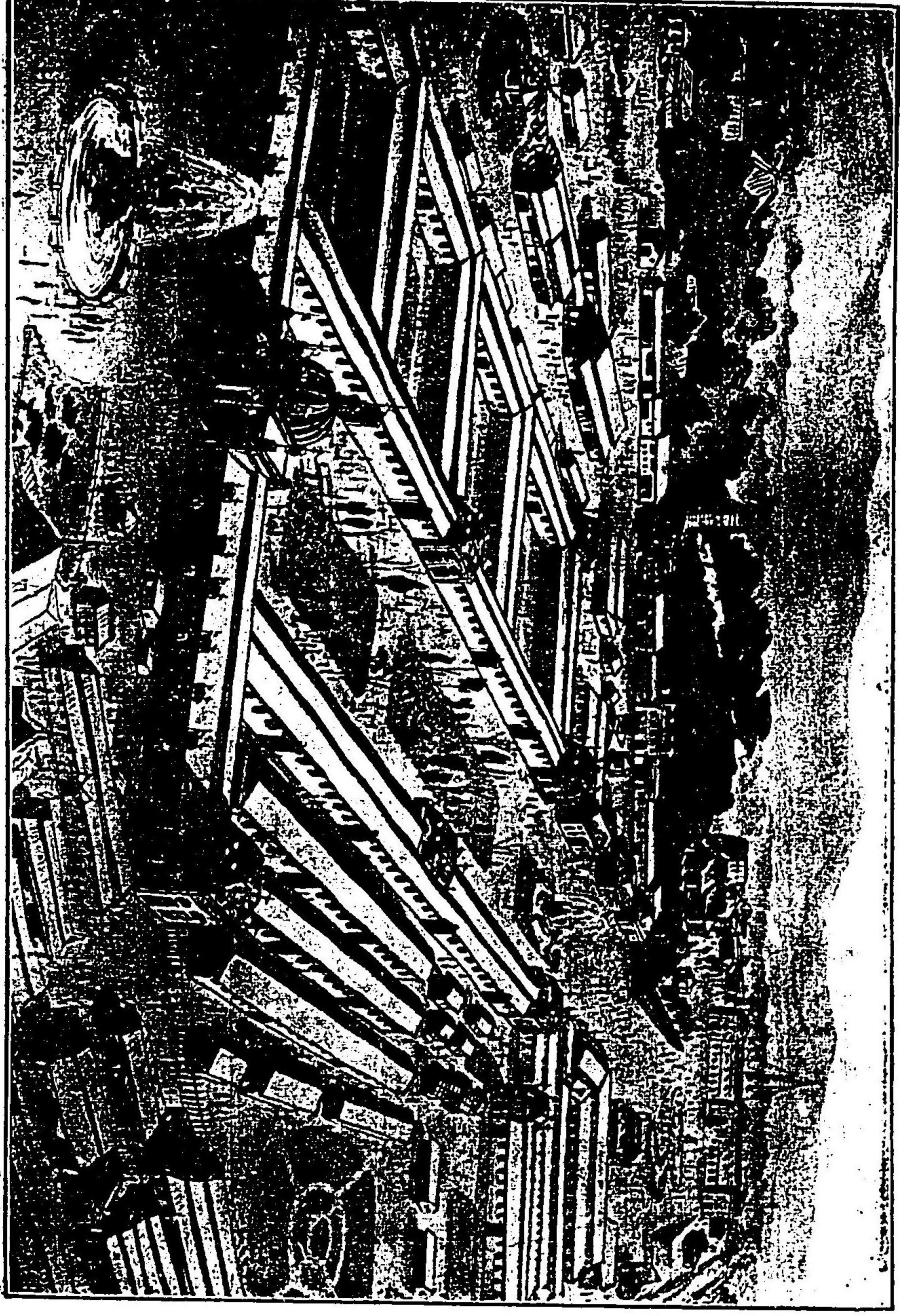


大阪毎日新聞記者山下雨之助編

博覽會及

大阪附近名所案内

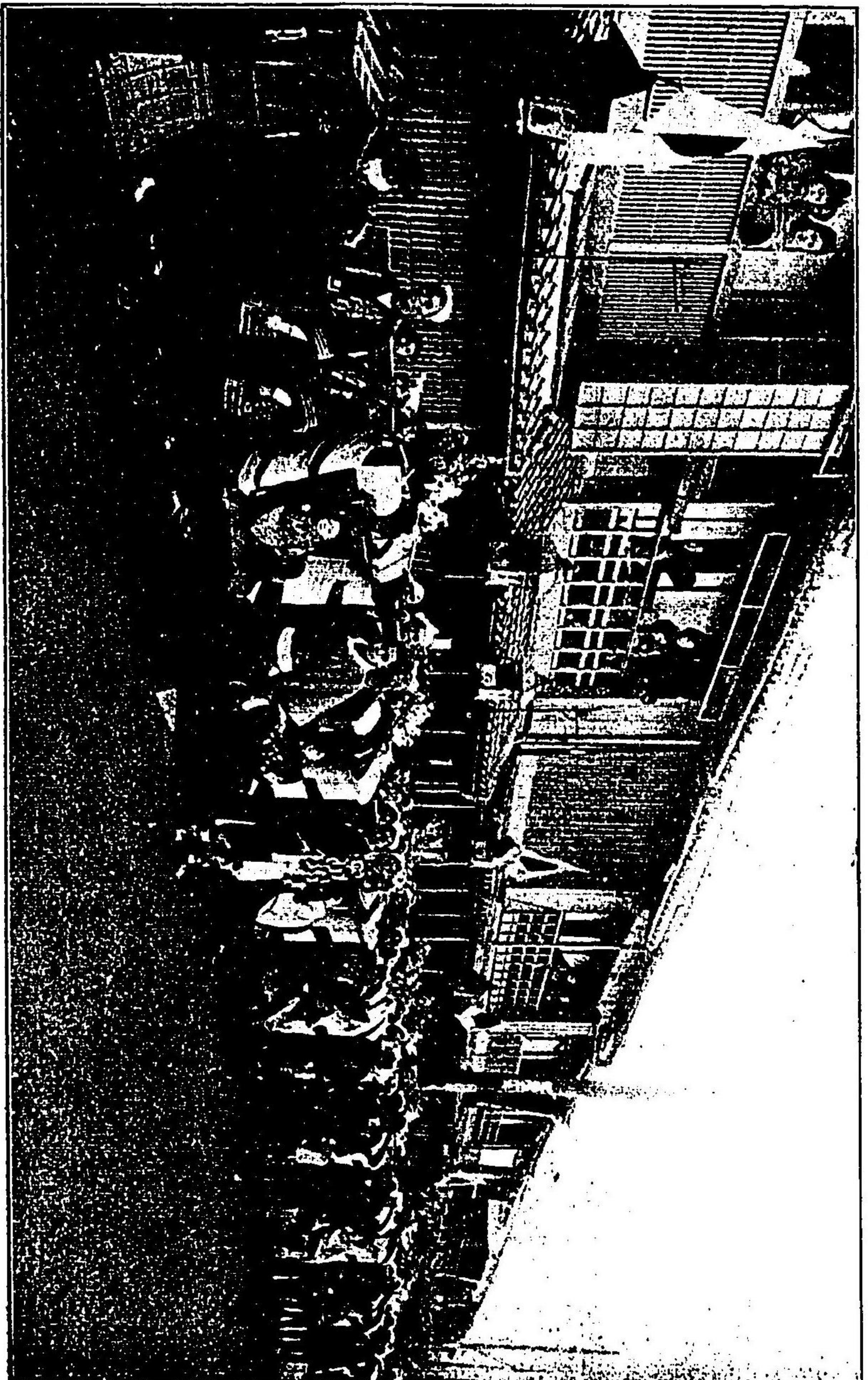




第五回博覽會俯瞰圖

南地五花街の芦遊踊



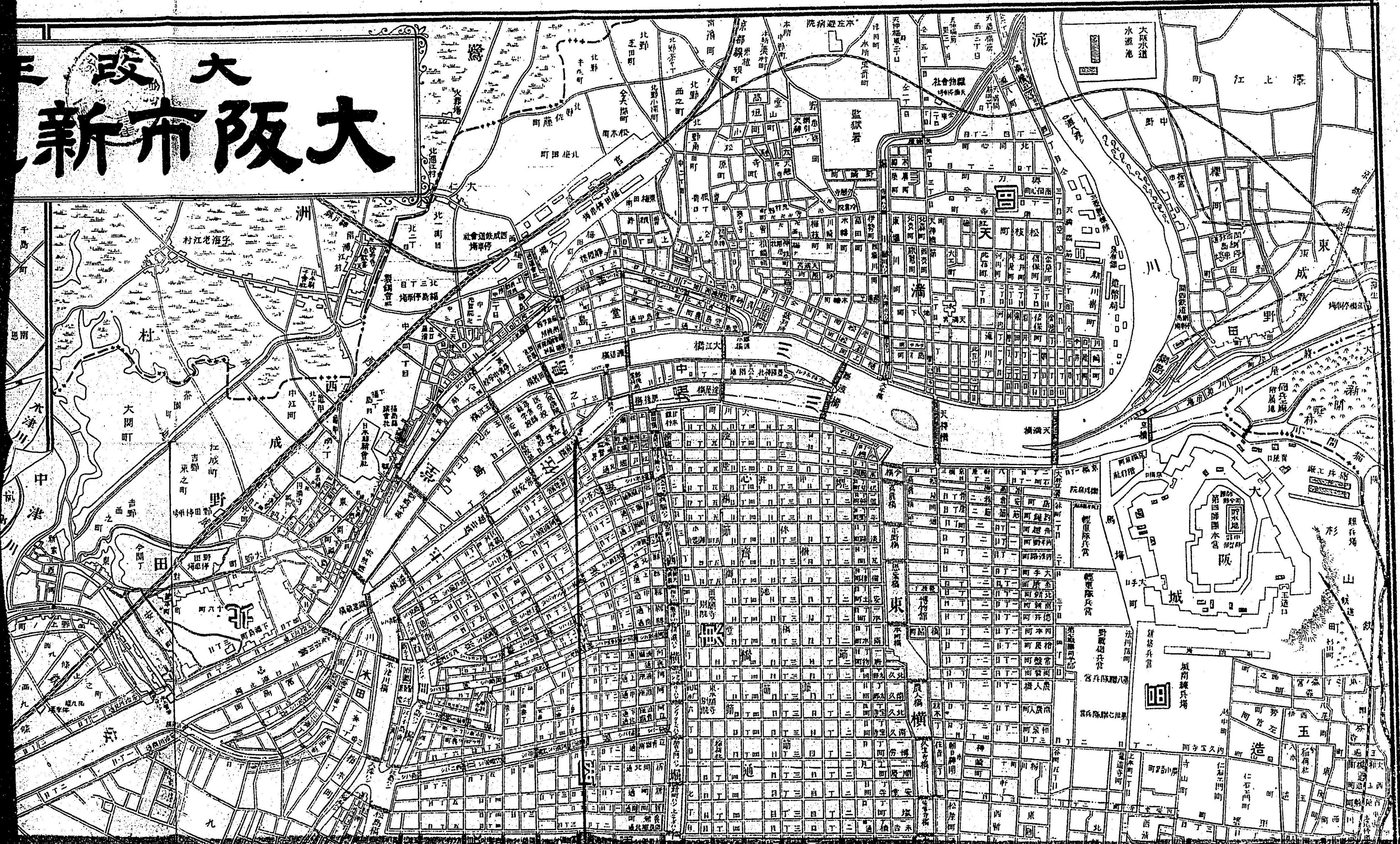


十一月廿二日の寶惠院

女市の事 神市の賀社神吉住



大阪新市改



築港設計圖

大阪新市改正地圖



博覽會土產目次

博覽會の案内

場内飲食店

大阪及附近名勝案内

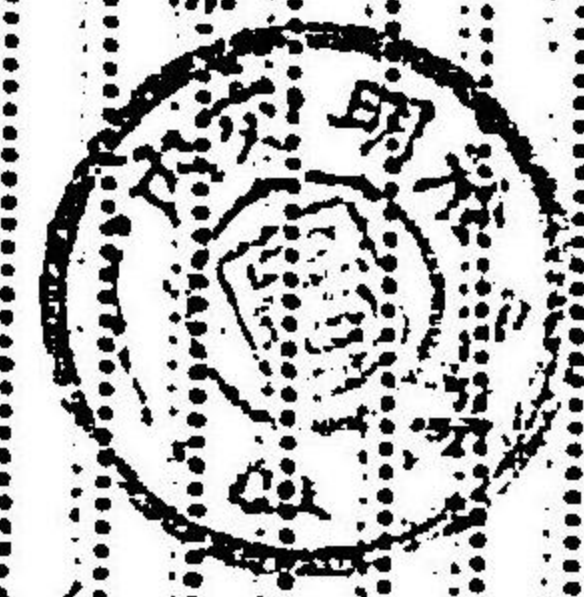
東區の部

- 博覽會場.....二
- 會場案内.....二
- 出品部類目録.....三
- 場内飲食店.....三
- 東區の部.....一
- 大阪府.....一
- 高麗橋.....二
- 鴻池.....二
- 大川町.....三
- 羅波神社.....三
- 座敷神社.....四
- 御靈神社.....四
- 内平野町の神明.....五
- 朝日神明.....六
- 玉造の稻荷.....六
- 箕田山産湯の稻荷.....六

- 森の堂.....七
- 味原池.....七
- 仁徳天皇皇居の跡.....七
- 生國魂神社.....八
- 北向八幡宮.....八
- 羅波御堂.....八
- 津村御堂.....九
- 東區内の劇場と寄席.....九
- 東警察署.....九
- 東區役所.....〇
- 天満橋.....〇
- 天神橋.....〇
- 羅波橋.....〇
- その他の橋.....〇

西區の部

- 大阪府廳.....一
- 大阪築港.....二
- 瑞軒山.....二
- 尻無川.....二
- 竹林寺.....三
- 松島の遊廓.....三
- 八千代座.....三
- 九島神院.....三
- 茨住吉.....四
- 元外國人の居留地.....四



519

- 古川.....一五
- 阿彌陀池.....一五
- 土佐の稲荷.....一六
- 廣教寺.....一六
- 雜喉塔.....一六
- 永代源.....一六
- 長堀の材木市.....一七
- 堀江の遊廓.....一七
- 明樂座.....一七
- 四ッ橋.....一七
- 新町の廓と新町橋.....一七
- 陶器神社.....一七
- 汐見橋の停車場.....一八
- 区内の劇場と寄席.....一八
- 川々の橋.....一八

▲南區の部

- 四天王寺.....一九
- 茶臼山.....一九
- 那羅彌寺.....二六
- 一心寺.....二六
- 合邦社.....二六
- 安曇天神.....二七
- 大江神社.....二七
- 勝安院.....二八
- 堀井の清水.....二八

- 清水寺.....二八
- 遊行寺.....二八
- 關帝堂.....二九
- 紅葉寺.....二九
- 隆泉寺.....二九
- 新菊庵.....三〇
- 葛津の宮.....三〇
- 吉助の牡丹.....三〇
- 新、舊の梅屋敷.....三〇
- 二ッ井戸.....三一
- 日本橋.....三一
- 名古屋の毘沙門.....三一
- 道頓堀.....三一
- 千日前.....三一
- 自安寺の妙凡.....三一
- 竹林寺の大師.....三一
- 阪町の天満宮.....三一
- 法善寺.....三一
- 難波停車場.....三一
- 淡町停車場.....三一
- 廣田の社.....三一
- 今宮神社.....三一
- 來山の頭.....三一
- 木津の大黒.....三一
- 難波八阪神社.....三一
- 難波瑞龍寺.....三一

▲北區の部

- 三津八幡宮.....三五
- 三津寺.....三五
- 心齋橋筋.....三五
- 順慶町.....三六
- 道幣局.....三六
- 泉布觀.....三七
- 水道水源池.....三八
- 母屋寺.....三八
- 源八の渡し.....三八
- 櫻の宮.....三八
- 櫻の宮と網島停車場.....三九
- 網島の大長寺.....三九
- 園分寺及び鶴滿寺.....三九
- 天神橋筋.....四〇
- 天神神社.....四〇
- 堀川の戎神社.....四一
- 天満市の側.....四一
- 太融寺.....四一
- 不動寺.....四二
- 圓頓寺.....四二
- 寒山寺.....四二
- 夕日神明宮.....四二
- 露の天神.....四三
- 梅田停車場.....四三

▲府下の部

- 大日寺.....四三
- 源光寺.....四三
- 浦江の歡喜天.....四三
- 妙徳寺.....四三
- 福島の天神.....四四
- 逆棹の松.....四四
- 野田の藤.....四四
- 龍如上人の書置.....四四
- 曾根崎新地.....四五
- 堂島.....四五
- 商品陳列所.....四五
- 商業會議所.....四五
- 中之島公園.....四六
- 豊國神社.....四六
- 大阪ホテル.....四六
- 大阪納涼堂.....四六
- 大阪郵便電信局.....四六
- 渡邊橋と筑後橋.....四六
- 大江橋.....四六
- 淀屋橋.....四七
- 川口の波止場.....四七
- 北區内の劇場と寄席.....四七
- 住吉神社.....四八
- 天下茶屋.....四八

- 阿倍野神社.....五〇
- 國分寺.....五〇
- 舍利寺.....五〇
- 長柄の繁塚.....五〇
- 崇禎寺.....五〇
- 大願寺.....五〇
- 江口の里の若堂.....五一
- 大阪府下の四公園.....五一

▲府下泉北、泉南(和泉國)二郡の部

- 家原寺.....五二
- 百舌鳥神社.....五二
- 大鳥神社.....五二
- 信太森.....五二
- 大師神社.....五二
- 源寺公園.....五二
- 久米田寺.....五二
- 牛瀧山大威徳寺.....五三
- 水間寺.....五三
- 大嶋山.....五三
- 金熊寺.....五三

▲府下三島郡の部

- 尾持寺.....五四
- 持持寺.....五四

▲府下北河内郡の部

- 久安寺.....五四
- 池田町.....五四
- 木の部.....五四
- 妙見堂.....五四
- 箕面公園.....五四
- 佐太神社.....五五
- 毘陀神社.....五五
- 服部天神社.....五五

▲府下中河内郡の部

- 星田の妙見.....五六
- 四條畷神社.....五六
- 野崎の觀音.....五六

▲府下南河内郡の部

- 石切劍箭神社.....五六
- 枚岡神社.....五六
- 瓢箪山稻荷.....五六
- 木村長門守の墓.....五六
- 物部守屋の墓.....五七
- 顯聖寺.....五七
- ▲府下南河内郡の部
 - 觀心寺.....五七
 - 金剛寺.....五七
 - 光瀧寺.....五八

▲堺市の部

- 安福寺.....五八
- 道明寺.....五八
- 土師神社.....五八
- 豊田神社.....五八
- 壺井八幡宮.....五八
- 水族館.....五九
- 大漢公園.....五九
- 開口神社.....五九
- 香院.....六〇
- 方違神社.....六〇
- 向泉寺.....六〇
- 南宗寺.....六〇
- 海會寺.....六一
- 天安寺.....六一
- 少林寺.....六一
- 引接寺.....六一
- 旭蓮社.....六一
- 祥雲寺.....六一
- 菅原神社.....六一
- 東本願寺の別院.....六一
- 妙國寺.....六一
- 本派本願寺別院.....六一
- 神明社.....六三
- 七堂塚.....六四

▲市内協賛會加盟旅宿案内

- 東區の部.....七一
- 西區の部.....七五
- 南區の部.....七九
- 北區の部.....八三

▲大阪市内諸官衙所在地

-八五

▲大阪及び附近四季遊覧案内

-八七

▲京都及附近の案内

- 七條停車場.....九一
- 番御所.....九三
- 仙洞御所.....九三
- 三條大橋.....九三
- 東山.....九三
- 加茂川.....九四
- メングライン.....九六
- 南禪寺.....九六
- 水觀堂.....九六
- 若王寺.....九六
- 平安神宮.....九七
- 黒谷光朝寺.....九七

- 真如堂.....九七
- 銀閣寺.....九七
- 吉田神社.....九七
- 修學院離宮.....九七
- 智恵院.....九七
- 團山公園.....九八
- 八坂神社.....九八
- 東大谷.....九八
- 高臺寺.....九八
- 八坂塔.....九八
- 建仁寺.....九八
- 清水寺.....九八
- 四天谷.....九八
- 大佛方廣寺.....九八
- 豊國神社.....九八
- 帝國京都博物館.....九九
- 三十三間堂.....九九
- 稻荷神社.....九九
- 先斗町遊廓.....九九
- 新京極.....九九
- 藥師.....九九
- 安養寺.....九九
- 錦天神.....九九
- 五條大橋.....九九
- 六角堂.....九九
- 因幡藥師.....九九

- ▲神戸及附近の名勝案内
- 東本願寺.....一〇〇
 - 東山.....一〇〇
 - 天龍寺.....一〇〇
 - 三尾.....一〇〇
 - 仁和寺.....一〇〇
 - 金剛寺.....一〇〇
 - 北野神社.....一〇〇
 - 淡川神社.....一〇一
 - 相生橋.....一〇一
 - 神戸郵便電信局.....一〇一
 - 殿島神社.....一〇一
 - 海岸通.....一〇一
 - 米利堅波止場.....一〇一
 - 榮町通.....一〇一
 - 元町通.....一〇一
 - 三宮神社.....一〇一
 - 歌舞伎座.....一〇一
 - 舊居留地.....一〇一
 - 遊園場.....一〇一
 - 湊山温泉.....一〇一
 - 縣立病院及商業學校.....一〇一
 - 安養寺山.....一〇一
 - 廣嚴寺.....一〇一

- 安養寺.....一〇四
- 神戸地方裁判所、神戸區裁判所.....一〇四
- 西門筋.....一〇四
- 福原遊廓.....一〇五
- 多聞通.....一〇五
- 大黒座.....一〇五
- 仲町通.....一〇五
- 相生町.....一〇五
- 相生座.....一〇五
- 鎮西筋、有馬路.....一〇三
- 川崎造船所.....一〇五
- 淡川.....一〇五
- 兵庫庫.....一〇五
- 七宮神社.....一〇六
- 明治座.....一〇六
- 殿島神社.....一〇六
- 兵庫警察署.....一〇六
- 米穀取引所.....一〇六
- 兵庫郵便電信支局.....一〇六
- 築島寺.....一〇六
- 新川.....一〇六
- 龍福寺.....一〇六
- 長樂寺.....一〇六
- 平相園塔.....一〇七
- 觀音堂.....一〇七

- 茶御所石標.....一〇七
- 藥仙寺.....一〇七
- 新川遊廓.....一〇七
- 和田神社.....一〇七
- 和田町.....一〇七
- 檢校所.....一〇七
- 鐘淵紡績會社支店.....一〇八
- 句梅.....一〇八
- 眞野浦.....一〇八
- 洲野川.....一〇八
- 洲野島.....一〇八
- 長田神社.....一〇八
- 旅館及料理屋.....一〇八
- 鷹取驛.....一〇九
- 清友園.....一〇九
- 禪昌寺.....一〇九
- 鷹取山.....一〇九
- 須磨浦.....一〇九
- 桐敷天神.....一〇九
- 須磨寺.....一〇九
- 現光寺.....一〇九
- 關屋趾.....一〇九
- 千森川.....一〇九
- 一の谷.....一〇九
- 内瓦殿.....一〇九
- 鐵拐嶽.....一〇九

- 戦の演
- 教盛榮
- 厄除八幡
- 旅館及料理屋
- 鹽屋
- 舞子
- 海神社
- 千童
- 遊女塚
- 旅館及料理屋
- 明石
- 大丸神社
- 明石城
- 天山寺
- 旅館及料理屋
- 天細梅林
- 金峰松林
- 屏風夕浦
- 手枕松
- 相生松
- 尾上鐘
- 鶴林寺
- 石堂殿
- 觀音殿
- 會根松
- 障光寺

目次

○戦の演	11
○教盛榮	12
○厄除八幡	13
○旅館及料理屋	14
○鹽屋	15
○舞子	16
○海神社	17
○千童	18
○遊女塚	19
○旅館及料理屋	20
○明石	21
○大丸神社	22
○明石城	23
○天山寺	24
○旅館及料理屋	25
○天細梅林	26
○金峰松林	27
○屏風夕浦	28
○手枕松	29
○相生松	30
○尾上鐘	31
○鶴林寺	32
○石堂殿	33
○觀音殿	34
○會根松	35
○障光寺	36

博覽會土産

(大阪及び附近の名所案内)

蓬花 合編



博覽會の案内

第五回内閣勸業博覽會は、本年二月一日より七月三十一日に到る迄、約五百五十日間、わが大阪今宮に開會する事となり。さればこの博覽會見物の爲に、遠近よりわが大坂に入り込み来る人無慮幾萬を以て數ふるに到るべければ、これに對する市の設備、將たその見物の旅客に與ふる便宜なご、くさぐさの用意は、彼の去る二十八年、京都岡崎町に於いて開會されたる、第四回の博覽會の折の設備と比較するに、月籠の差が管ならず、今この書を編するに當り、開卷第一、先づ博覽會場及びその附近の案内を申すは、獨り吾が大坂市が全力を盡せる多大の設備を誇らんとするよりも、遊覽の旅客の順序として、この大阪の地を踏む足一步他に先んじて、南今宮のはとどり、この會場に到り玉はん事を信じたればなり。

その一、博覽會場

(二)

▲會場 是大阪市南區天王寺今宮、及び堺市大濱公園、の二箇處よりなる。今宮にある

本館とし、堺大濱にあるを附屬水族館となす

本館を分ちて農業及園藝、林業、水産、採鑛冶金、工業化學、工業染織、製作工業、機械、教育學術衛生經濟、美術工藝、の十部とし、これ等凡ての出品物を陳列するに

は美術館、工業館、農林館、機械館、教育館、水産館、動物館、水族館の八館を立つ、但し動物館に限り諸種の營養及び便宜上その開期を限り、即ち五月一日より十五日ま

で、及び同二十六日より六月九日迄の二回に限りて開會する規定なりと。

▲觀覽 觀覽の時間は通例午前八時開門、午後五時閉場の規定なれども、時により伸縮あるべし、又ある場合に限りて全く觀覽を停止する事ある旨告示しあるも、これは極めて稀有の事に屬し、某々の一箇を時に停止する以外、全然博覽會の凡てを觀覽せしめざるやうの事は萬々なかるべしといふ、觀覽券は平日一枚五錢、日曜及び大祭日は倍額十錢、堺水族館は平日三錢、日曜及び大祭日同じく倍額六錢の規定なり、最もこの觀覽券は獨り今宮及び堺の會場附近にて賣捌けるのみならず、凡て下受負の制度になり居れば、開會期日に到れば市内到るところの旅店その他にその賣捌を開始すべしと

いふ。されば物馴れざる旅客などが會場附近にて、東西に彷徨し、徒らに煩悶して、一枚の切符を購ふに、兒戯に類する、子を取ろくの遊びの如く珠數繼ぎになりながら、可借愚かしき空時間を費さんよりは、豫め自己が止宿せる旅宿なかに就て購求なし置く方途に便宜なるべしと思はる。これは編者が老婆心のみ、取捨は讀者が御勝手次第たる事いふ迄もなし。

▲會場の案内 觀覽の心得ともいひ得べきものは前項記載したれば、次には順序として會場の案内記を掲げんに、先づ正門は日本橋の通りを一直線に南に突當りて少しく東へ寄りたるところにあり、此處を南區惠美須町一丁目といふ。彼の十日戎にて名高き今宮の戎神社附近なり。戎神社に就ては、別に大阪の案内の部に詳しく記述しあれば茲には略して記さず、借その正門を入れば、突當れる正面に、一箇の大なる塔門あり、その左名に居流れて棟をなしたるが各種の陳列館にて、前記各部門に別れたる館以外、事務局及び審査所あり、家舎舎あり温室あり、通運館あり臺灣館あり、その他各府縣の出品協會が設立せる接待所、飲食店、廣告揭示場、茶店休憩店等、その數を計るべからざるばかり多くの建物ありて、何れも専任の技師が意匠を凝せる築建になるだけ、壯麗目を驚かすともいはいふべし。陳列館築建の技師は、文部省の技師久留

(三)

正道氏といふ。この種の意匠も最も得意とする由なり。

(四)

◎陳列館及び各種の出品協會が設立せる建物以外の建造物は、各官衙の特別館、加奈陀館、音楽堂、体育場、教育會附屬休憩所、不議館、喫茶店、及び郵便電信局等にて別に温室の附近には、全國數奇者よりの出品にかゝる花卉盆栽の陳列あり。然して飲食店、休憩所等は多く工業館及び教育館の後方に設立する筈なり。

◎場内の偉觀 毎回の博覽會に、必ず大噴水器の出品あるが如く、今回も亦二箇の大噴水器を据付あり。その一は東京美術學校教授千頭庸哉氏の意匠になれ、る四方正面のクラシック式、高さ七丈五尺、幅三丈八尺、その中央に高さ一丈八尺、幅一間二尺の滝を落し、内部には七色の電燈を点じて回轉せしめ、時々刻々その色彩を變化せしむ。即ち恰も天空より七尺の水の落下せる姿を現するものなれば、夜間に是を視る時は、その美觀確に人の眼を眩するあるべし。今一箇は美術館前に据付られたるものにして、直徑六丈の地中より一丈余の大岩石を現はし、その上に楊柳觀音が左手に柳枝を携へ、右手に水瓶を持つ像を安置す、水は即ちその水瓶より噴出する仕掛にして、實に無量巧徳の水を世上に撒布するものに擬したるなり。觀音の像の下には三人の兒童あり、其内の一人は水盃を持って、上より落下する彼の水瓶の水を受け、一人は伏て

噴水に戯れ、一人は三羽の鷺鳥を追る彫刻物なり。水面よりの高さは三丈にして内觀音の姿の高さのみは一丈六尺、童子の高さ各五尺、東京美術學校教授河邊正夫氏の意匠になり、製作は同じく高村光雲氏主任として調製す。

◎臺灣館 臺灣が吾邦の領土となりたる以來始めての博覽會なればその奮發にや、同地の官民は大奮發にて場内に臺灣館なるものを設立したり。場所は美術館の東北にして、各種の色彩を施し、一見極めて見事なる建造物なり。遊園地は美術館の裏手にて入口には臺灣風の樓門を設け、左右に複道を造り、左右に篤慶堂共同賣店を備ふ、共同賣店の後面には臺灣喫茶店、臺灣料理店などの設けありて、その料理店と喫茶店との中間には池を穿ち數頭の水牛を放つ。別に中央の空地には、臺灣産の樹木を植へて風致を保たじめ、然してその又中央に舞樂堂を建つ、舞樂堂の中には絶えず臺灣の音楽を奏する筈なれば、居ながらにして此内に居るものは遠き臺灣内地にあるの思あるべしといふ。

◎郵便電信局 場内より各地に郵便至乃電信を發送せんとするには、特に大阪郵便電信局より設立したる臨時支局の設計あり。場所は場内逢阪の邊りにありて局内に電話所あり。別に場内數ヶ所に自働電話機を設置し、又郵便投入函を設け、その最寄に郵

(五)

便切手發賣所を置く。大阪の博覽會協賛會にても又その接伴所内にて切手端書を受賣をなすといへり。

◎救急所 場内にて不意に發病したる人の爲に大阪府警察部及び私立大阪衛生會より特に場内に救急所を設置しあり。

◎ウォーターター、シニート 先年クラスエーの博覽會にて催したる一種の舟遊びにして四十呎の高臺上より乘客を乗せたる小舟を、軌道によりて水中に墮落せしむれば、舟は水を別て殆ど水底を行くばかり深く、波間に隠れて進行するも、乘客は衣類を濡さず極めて安全に對岸に着し上陸する事を得る趣味ある興行物にて、場内の東方、逢阪の柵上を越たるどころにあり。

◎不思議館 世界の不思議ともいは言ひ得るものを蒐集したる一種の理學的興行物にて、彼の巴里の萬國博覽會にて開催し喝采を博したるものなり、場内には無線電信、X光線、顯微鏡の反射燈、活動大寫眞、月世界大望遠鏡、天然採色寫眞實體鏡、光線舞踏光りの女王、電氣作用速成アイスクリュー、電氣扇等を見物せしむ、中に就て最も見るべきものは光りの女王の舞踏なり。今左に編者の友人某氏が、この「光りの女王」をその宿所なる北濱五丁目の日本ホテルに訪ひたる記事を大阪毎日新聞紙上に掲げたるものを借り來りて、一斑を紹介する事とすべし

●新來の女優カーメンセラー

記者は去一月十五日今度渡來せる米國の女優カーメンセラーを北濱五丁目の日本ホテルに訪ふ先づ刺を通するや始めに出で來りたるは紅顔肥滿の一男子にして彼は女優と共に同伴したる米人なるが記者を導き樓上東北隅に當れる一室に案内するや一個の女性椅子に寄り室の中央の卓子に向かひ入口を背にして何か頻りに書きつゝありしが記者の室内に入るを見て急に立ち上り「ニヤカと微笑を浮べ記者を迎へたり。應て紅顔生先は記者を介し互ひに初對面の口上を述べ記者は先づ優に向ひ今回優の來れる理由及び優は如何なる技藝を得意とするかを尋ねしに優は徐ろに語り出すには優が今回來れる目的は第五回博覽會の餘興として舞踏を演ずるにありて其主唱者は荒木和一氏なるが舞踏といふも普通の舞踏にあらず常に電光の裡にありて演ずるものなれば優の名刺にも「光りの女王」と記せり而して舞踏に應用する電光の数は十四種ありて別に十種の弧光燈を用ゐる其一個の光りにても能く大阪全市の半ばを照すといへば如何に強烈の光力なるかを知るに足るべし、又縦六七寸、幅四五寸の玻璃板數十枚あり之は無色にて模様あるものと彩色を施したるものあり例へば英米等の國旗又は旭日、星、海

等を現はしたるものあれば蜘蛛と蜘蛛の巣を寫したるものもありて一言掩へば幻燈の種板の如きもの見れば差支なし之に電光を透せしめ舞臺に反射せしめ其光りの中にて演舞するものなれば紅白赤紫様々の色模様に入り亂れ入り違ひて光彩陸離美観目を奪ふべし以上は装置の大略なるが舞踏の数は八種ありて其の内にも「夜の舞」「朝の舞」「火の舞」「白銀の舞」等は殊に美麗なり一寸説明を爲れば「夜の舞」の演技者は金銀の飾りある黒色の衣裳を着けて登場し之れに電光をわはせ掛けて舞踏するなり「朝の舞」は先づ幕を捲き上げるや優は絹布の長さ衣裳を着し現はれいで之に強烈なる八種の電光を反映せしめ舞踏次第に佳境に進むやこゝにいよいよ名に負ふ朝の舞の壯觀を呈するなり、此衣裳は優獨特の考案に成り地質も日本の織物にて拵へたるものにして色は純白にして此衣裳は優が多くの衣裳中最も珍重する所なりといふ、次に「火の舞」は始め暗黒の裡より忽然として現出し舞踏を始むるや一點の微光現はれ出で次第に膨脹し遂に優を全く焰の中に包むものにして頗る奇觀を呈し最後に演する「白銀の舞」は舞臺に銀の飾りを施し恰も玻璃の編みたる如き衣裳を着け舞踏を始むるや花影珍瑤として相映じ美麗言語に盡されず此舞踊は至て腕方の要ものなれば力量のるものにあらざれば到底演するに能はず優の如き窮蹙たる姿なるにも拘らず試みに

其二の腕をみれば肉は非常に發達して男子も及ばざる程なりと以ていかに腕力の要るかを知らし足らん幸ひにして喝采を博すれば當地を打揚げたる後神戸、東京、横浜等にて興行する心算なりと此舞踏は今より約十年前始めて米國に於て行はれ今は歐洲各國に入り巴里にても盛に行はるゝ由云々。

以上の記事によるも、如何にその美麗にして、壯觀なるやを想像するに難からざるべし。博覽會中の餘興としては、これに上越すものはあるべからず。

◎その他 各種の賣店に至りては、何れも新を競ひ奇を衒ふ。中にも東京戎ビールのビヤホールの如き、その無法に大なる麥酒樽を撲せし大建築は、確に入場者の荒膽を挫くならんと思はる。

▲出品部類目録 博覽會見物人の便を計りて、左に農商務省より告示せる出品部類目録の概要を摘載すべし。

◎第一部 農業及び園藝

- 第一類 植物類
- 米麥、雜穀、蔬菜、綿麻、製紙原料、纖維に類するもの、煙草、染色の原料、製油の原料、辛類、牧草、藥艸、種子、苗その他の雜品、植物標本及び圖書等。

第二類 動物類

鰾卵、繭、家畜、家禽及びその卵、蜜蜂、愛玩動物、羽毛、角、骨、皮なご、及び動物の標本圖書。

第三類 製造食品

茶、珈琲、糖、蜜、精穀、粉、麵、乾物類、乳汁製品、肉類貯藏品、蔬菜果實の貯藏品、菓子、飴その他飲食品製造及びその貯藏の方法なご。

第四類 肥料

人造肥料、糟、糠、雜類。

第五類 農業の方法

開墾、土地改良、栽培、收穫の方法及びその成績、家畜及び家禽の飼養、養蠶の方法、その成績、農場經營の方法及びその成績、農用製造物設計及びその模型。

第六類 農業及農産製造器具類

開墾及び耕耘器具、播種及び施肥器具、灌漑及排水器具、收穫、調製、貯藏及び運搬の器具、副業器具、動物飼養及び管理器具、家畜駕馭器具、煙草製造器具、製茶器具、製糖器具、乳汁製品用器具、飲食品製造器具、農業及び農産物製造器具の模型及び其

圖書

第七類 園藝

果實類、花卉盆栽、裝飾植物、園藝植物の種子及び苗、公園及庭園の設計、箱庭盆景、亭榭、椅榻、籠燈、植木鉢、水盤園藝植物栽培の方法、及びその成績、温室、土窖及び苗床の設計、園藝器具、園藝に關する標本模型及び圖書。

第八類 有害及び有益動物

有害動物の標本及びその圖書、有益動物の標本及びその圖書、有害植物の標本及びその圖書、農産動物の病害、虫害、その他被害状態の標本及び圖書、農産動物の病害、虫害、その他被害豫防驅除の方法及び器具、有益動物蕃殖保護の方法。

◎ 第二部 林業

第九類 林産物

建築、土木、その他工專用の木竹材、機械、器具、及び製作用の加工木竹材、皮莖、染料、塗料、その他工業用原料、菌茸その他食料薬料、炭灰その他林産製品、皮、毛、羽、角、牙、貯藏肉等、種子、苗、動植物の標本及び圖書、森林有害及び有益動植物、並に被害状態の標本及びその圖書。

第十類 林業の方法

森林の經理、測量、測樹、等施業の方法及びその成績、造林及び森林保護の方法及びその成績、伐木、造伐、運輸、林産製造等森林利用の方法及びその成績、竹林の施業、造林、保護及び利用の方法及びその成績。

第十一類 林業器具

森林植伐、及び運搬等の器具、林産製造器具、測樹器具、狩獵及び有害動物驅除捕獲器具。

◎第三部 水産

第十二類 漁業

漁具及びその附屬具、並にその使用方法及びその模型具、網地、網糸、釣絲、及びその染料、並に綱網具等、餌料及びその貯藏方法及び器具、鯨その他海獸獵の方法及びその器具、漁船及びその附屬器具、魚類の蓄養及びその運搬に關する方法及び器具。

第十三類 水産製造

乾製、燻製及び鹽藏の食用魚介類、寒天昆布、海苔その他食用苔藻類、罐詰、罐詰、樽詰並に調味及び加工食品、油、臘、膠類、搾粕、干鰯その他魚介肥料、糊料。

第十四類 海鹽

鹽田構造の方法、及びその器具の模型、及びその圖畫、鹽及びその副産物、鹽田土壤海水その他鹽業に關する調査の成績など。

第十五類 養殖

養殖魚介藻及びその發育の順序を示す標本圖畫、魚介藻の養殖、採卵、孵化、及び移植の方法及びその器具並に養殖場の模型及びその圖畫、餌料製造の方法及びその器具、魚介の害敵及び病害の標本圖畫並にその豫防法。

第十六類 水産業の方法

遠洋漁業の方法及びその成績、水産動物植物蕃殖保護の方法及びその成績、漁業用建設物、水産製造所、魚市場等の設計及び模型、漁村經營の方法及びその成績、水産に關する調査試験の方法及びその成績器具、水産動物植物の標本及び圖畫。

◎第四部 採礦及冶金
第十七類 礦物及土石

金屬類、寶石、燃料、建築、土木、裝飾、彫刻用石材、石膏、石灰、セメント、漆、類の原料、壁土、その他雜用土砂、陶磁、玻璃、煉化等の原料その他耐熱土石、磨石、用石砂、硫黄、黒鉛その他の雜礦、礦物及び土石の類聚標本。

第十八類 冶金製品

金銀の製煉品及びその副産物、銅の製煉品及びその副産物、石灰、石油、土瀝青等の製煉品、及びその副産物、合金その他製造冶金の製品。

第十九類 採礦及冶金の方法

地質及び鑛床の圖面及び模型、鑛山地形圖、抗内實測圖、採礦の方法、裝置及びその成績、採礦及び冶金の器具。

○第五部 化學工業

第二十類 化學製品

工業用藥品、醫術用藥品、(但し醫藥を除く)雜用藥品、(同じく賣藥を除く)人工飲料、樟腦、樟腦油、龍腦、龍腦油、人造象牙、人造珊瑚、人造玳瑁、油、脂、蠟、蠟燭、護膜、印肉、墨、インキ、靴墨、顔料、染料、製漆、ワニス、ペンキ、タール、漆その他塗料、薰香、石鹼、化粧用品、火藥、烽火、煙火、マッチ、化學製品製造の

方法及びその器具。

第二十一類 醸造品

清酒、混成酒、銘酒、味淋、白酒、ビール、葡萄酒、サイダーその他果酒、酒糟、焼酎、その他の火酒、酢、醬油、味噌、タマリ、納豆、醬、麴、麥芽、醸造及び蒸溜の方法及び器具。

第二十二類 陶磁器

磁器、陶器、石器、土器、煉化、瓦、敷瓦、土管など、陶磁器の圖案、製造の方法及び器具。

第二十三類 七寶品及び磁器品

七寶品、磁器品、七寶及び磁器品の圖案製造の方法及び器具。

第二十四類 玻璃

玻璃壺、玻璃板、玻璃管、レトルトその他工業用玻璃品、玻璃器、模造寶石、玻璃の圖案、製造の方法及び器具。

第二十五類 セメント、石灰、石膏、漆灰

セメント、石灰、石膏、漆灰、石灰、石膏、漆灰及びその製品、人造石、本類物品の圖畫

製造の方法及び器具。

第二十六類

紙及び紙製品

紙、加工紙、紙製品、紙及び製品の圖案、製造の方法及び器具。

第二十七類

鞣皮、鞣革類

鞣皮及び鞣革、染革その他加工皮革、擬革、鞣皮鞣革の圖案製造の方法及び器具など。

第二十八類

塗物類

漆器、漆を用ひざる塗物、塗物類の素地、塗物類の圖案、製造の方法及び器具。

第六部 染織工業

第二十九類

絹及び綿類

生絲、絹絲、毛絲、その他動物性の絲及び綿、綿絲、麻絲、其他植物性の絲及び綿、金絲及び鍍物性の絲、交捻絲、染絲、染綿、絲及び絲類製造の方法及びその器具など。

第三十類

染織物類

絹織物及び其交織物、綿織物及び其交織物、毛織物及び其交織物、雜織物、染物、織物、絨毯、絨通、由多加織、フェル等、編物、組物、染織物類の圖案、製造の方法及び器具。

第七部 製作工業

第三十一類

金屬製品

鑄造品、打物及彫金製品、板金及び針金製品、轉體製品、電鍍品、鍍金品、金庫、暖爐、厨爐等、金屬製品の圖案、製造の方法及び器具。

第三十二類

武器

軍用及び護身の銃砲、彈丸、水雷及び其附屬品、軍用の輜重具、裝身具、携帶具等、刀、槍劍、刀杖等。

第三十三類

雜工作品

衣類、裝身具、冠物、履物、化粧具、理髮具、喫煙具、携帶具、旅行具、飲食具、瓷炊具、庖厨具、壺、敷物、寢具、座具、建具、家宅用具、室内裝飾具、點燈具、浴具、掃除具、書齋用具、文房具、式典具、遊戯具、容器、貯藏器、運送器、便所用具、雜用具、雜工作品の圖案、製造の方法及び器具。

第八部 機械

第三十四類

原動機

蒸氣機、蒸氣機關、蒸氣タービン、機關車、瓦斯機關、石油機關、蒸氣機、蒸氣及び其附屬品、蒸氣機關、蒸氣タービン、機關車、瓦斯機關、石油機關、蒸氣機

關、熱氣滾關及び是による自動車、水車、ケルビン、風車、人力、獸力等の原動機。

第三十五類 傳動機及び機械

齒輪、滑車、螺手、軸承等、調帶、細帶、鏈鎖等、保安器、保安裝置、制動器、整調器、減摩裝置、給油器、澀、噴子等。

第三十六類 試驗器

材料試驗器、生糸その他纖維試驗器、雜試驗器。

第三十七類 電氣機械

電池、電信機、電話機、電信號機、電氣測定機、發電機、電動機、電氣變成用機械器具、送電、配電、電氣調整用具、電燈及其附屬品、電氣鐵道、電動車、及びその附屬品、電氣化學工業用機械器具、電氣雜機械器具、電線其他電氣機械器具用材料。

第三十八類 運搬器

船舶及其附屬機械器具、水難救助器、潜水器、浮帶、航路標識、浮標等、軌道、架線運搬裝置、車輛、起重機、曳重機、昇降機、風船、空中飛行機。

第三十九類

唧筒、揚水機、送風機、消防及び火難救助器具、乾燥及び冷却裝置並に暖房用器具。

第四十類

農林、園藝及び水産用機械類。

第四十一類

探鑛冶金機械、製造冶金機械。

第四十二類

探鑛機械、冶金機械、製造冶金機械。

第四十三類

化學工業機械、瓦斯工業及び燃料製造機械、脂油工業機械、染料材料及塗料製造機械、爆發物製造機械、マツチ製造機械、醸造蒸溜其他人工飲料機械、窯業機械、製紙機械、製糖機械、製鹽機械、各種化學工業機械。

第四十四類

染織工業用機械、操綿、打綿、製絲、紡績、捻絲、絢繩等の機械、織物、染物等の機械、緇物、組物の製氈等の機械。

第四十五類

製造機械、網、簾、刺繡、裁縫、綴合等の機械、茶及び煙草製造機械、製穀、製粉、製麵、其他食物製造機械、雜品製造機械。

第四十六類

印刷機械、製版機械、印刷機械。

第四十七類

工作機械器具

工作機械、工作器具、土木建築機械器具

第九部

教育學術衛生及び經濟

第四十九類

家庭教育の方法及び用品、幼稚園、小學校及び盲啞學校の設計、教育の方法、器具及び用品、中學校、高等女學校其他中學校教育の方法、器具及び用品、師範學校の設計、教育の方法、器具及び用品、各種實業學校及び講習門の設計、教育の方法及び用品、成績品、各種高等學校の設計、教育の方法、器具及び用品、圖書館及び博物館の設計、管理法、器具及び用品、通俗教育に關する方法。

第五十類

學術

初等及び中等教育における修身教授用品及び圖書、初等及び中等教育における理學科教授用の機械、標本、模型及び圖書、初等及び中等教育における歴史、地理其他文學科教授用の器械、標本、模型及び圖書、實業教育用の器械、標本、模型及び圖書、數學及び力學機械器具、模型及び圖書、音樂學校機械器具、模型及び圖書、光學機械器

具、模型及び圖書、電氣學及び磁氣學機械器具、模型及び圖書、化學機械器具、標本、模型及び圖書、博物學機械器具、標本及び模型圖書、各種學術機械器具、標本、模型及び圖書、繪畫、彫塑、及び製圖用器械器具、及び用品、樂器及び附屬品。

第五十一類

醫學及び衛生

醫學機械器具、標本、模型及び圖書、衛生用機械器具、標本、模型及び圖書、治療用器械、器具及び用品、齒科機械器具、標本及び用品、調劑器械器具、病院其他衛生に關する營造物の設計、模型並に病傷者保護其他病院用器械器具、及び用品、運動及び體操器械器具、獸醫學用器械器具、標本、模型及び用品、並に家畜病院設計及び模型。

第五十二類

測定器

度器、目盛機械、量器、衡器、時計、測量器械、器具水準品、磁石、里程計、寒暖計、晴雨計、雨計、地震計其他氣象學器械器具、比重計、其他檢測器、量氣器、量水器、筒數器。

第五十三類

寫眞及び印刷

篆刻、木版、金屬版、石版、寫眞版、寫眞、幻燈映畫、寫眞版用機械器具、及びその用品、活字、活版、字母、製版及び印刷器具及び用品、複寫版、印刷物、印刷物の圖

案、製本及び其印刷。

第五十四類

建築及び土木

公共建築物の設計及び模型、住家及びその附屬建築物の設計及び模型、工場及びその附屬建築物の設計及び模型、屋内の採光、暖房、通風、給水、排水並に避難装置の設計及び模型、建築用裝飾の圖案及び模型、門、塙壁、垣柵、等の圖案及び模型、土木工事の設計及び模型、上水、下水及び瓦斯輸送の設計及び模型、耐震構造の設計及び模型。

第五十五類

統計及び經濟

統計、經濟上諸機關の組織、管理法及びその成績、職工労働等の管理法及び成績、運輸、交通、貨物包装の方法及び成績、保險及び貯蓄の方法及び成績、職工労働等の管理法及び成績、慈善及び感化事業の方法成績、但し本類に掲げるものと雖も、他の部類に直接の關係あるものは其部類に分類するものとす。

第十部

美術及び美術工藝

第五十六類

繪畫

第五十七類

彫塑

第五十八類

美術工藝

美術工藝、美術工藝品の圖案及びその模型。

第五十九類

美術建築の圖案及びその模型。

以上を出品部類の細目録とす。博覽會に入場して、普くその出品を觀了せんとするもの、先づこの目録を讀で、その記憶を繰返す時は、一見の際において益するところ尠少ならざるべしと、かくは茲に掲ぐる事となしたり。

場内飲食店

▲風月堂

奏樂堂を眞直ぐに往つた處の角にあるのが風月堂の店で下戸黨は見逃がすべからざる處だ、和洋の菓子が一入前十錢、サンドウィッチが三十錢、コーヒーと紅茶が十錢、チョコレートとアイスクリームが十五錢だが此の二品は夏期になつてから賣り出すのだ。

▲小角堂

飲食店街東通りを北から歩いて行くと西側の第一がお馴染の小角堂で、洋酒、正宗に菓物を並べてゐるが、元來は菓子が主で、それ以外五厘のおはき、善哉、汁粉、小倉等何れも二錢と定めてゐる、夏になれば永も賣りますとのことだ。

▲島屋の茶亭

第四回博覽會で當込んだ味が忘られないで今度も奏樂堂の前一寸見附の

好い角店へ喫茶店を出したのは京都の料亭島屋だ、その趣者が平民的で面白い益上餅菓子三ツを並べて喫茶とも三錢といふ御手輕專一、これで京美人二三枚をチラつかせれば先づ外れつゝあるまい。

次がお辨當だ、今度にも限るまいが、博覽會といふと兎角辨當屋が多い。

▲紅葉館 淺黄の紋付に袴着用、京都の配膳といつたらほかに類と真似のなす一流有名なものだ、今度の開場ですれを便ふのは京都の澤文、終屋、俵屋、山城屋の四店が聯合し當地の紅葉館が肝入りとなつてウオーターユニットの北手に開いた京都旅宿聯合支度所紅葉館といふ店、併しその配膳の着衣の柄を特に黒絞付にしたのは思つきの様だが何だか擊劍道場へでも飛込んだ形でチト嚴格過ぎはしまいか、建築は平屋で食堂が二間別へ入口に窓があつて此處には赤前垂の姐さんがズラリお出やすと愛想よく料理券を發賣する、ツマリ此店で飯を喰ふにはこの窓で切符を買ひそれを引換に料理に有附かうといふ仕組みで一寸面白い趣考さ、料理は一等三十錢、二等二十錢の定まりで二等の口は先づ此頃では左様さ鯛の刺身に鮪と獨活乃至蛸と鐘詰の筍の甘煮、それに鶏肉の吸物でも出やうといふ寸法、一等はその上へ肴が加はるので信玄辨當に毛の生へたものと見れば間違ないのな切符發賣の丸蓄の姉さんは今、回博覽會中生れた美人の出品では第一等と

見たは儼目か。

▲魚勝 會席辨當を主として、會席は三十錢と五十錢、信玄辨當は廿五錢と十五錢で御

好みにより十錢の小鉢もある。

▲魚常 信玄辨當に吸物附き價は二十錢、三十錢、五十錢で會席は三十五錢、饅飯は吸

物を附けて二十錢だ。

▲尼吉樓支店 臺灣館廣告の近所での尼吉の本店は粹さま先刻御承知の九郎右衛門町

である、此店では信玄辨當を重にしてお手輕に十五錢と二十錢と直を定め會席は三十五

錢でまづお極り通り五種の料理で甘く喰せるのだ。

▲魚利樓 天狗樓の隣りでこれも信玄辨當に吸物附きこれで價が三十五錢、一寸一杯と

云ふ注文ならお銚子一本十二錢。

▲天狗樓 は魚利樓の隣りで會席料理が三十五錢、焼ものに刺身、煮物に煮豆と云つた

様な献立で辨當は廿五錢で吸物附き、またあるよこの店も饅飯に吸物を附けて廿五錢だ

▲旅宿協 會有志共同店 大層長ツたらしい呼び難い名だが早解りは丸の中に宿と云ふ

字の印、この店は美術館の傍らと電氣應用廣告の向ひ側と二軒になつてゐる、呼名こそ

むづかしいが矢張お手輕の信玄辨當で價が廿五錢、吸物は五錢、而してお酒は一本十錢

麥酒は種々あつて廿五銭だ。

▲壽山 店の九三麥酒の南にあつて、御婦人客にはお詠向どの胸算か、辨當と甘い物とを並べてゐる、辨當は折詰が入銭と十銭で、信玄辨當が十二銭と十五銭だ、甘い物はおはぎと善哉で、おはぎは一人前三銭、善哉は一杯一銭の大安賣。

▲山本ゑん が出店は五友亭の隣におるが、これはまだ開業してゐなかつたゆゑ、お直段は判りかねるけれど辨當と菓子を買るさうだ、その味の好悪は喰つての上で判じるより仕方がない。

▲魚岩 渡邊橋北詰の通人料理魚岩の出店にかゝる魚岩と聞いてお價格も高からうと思ふと左様でもなく一人前三十銭、その献立は刺身に焼物に香の物、吸物は赤出して餅鯨に牛蒡の笹掻き、これが難有い、と言て毎日必ず夫が附屬とは保證する事は出来ない、いはいその時のお客の耳朵の厚い薄いにあり。

稍高尚の部となるとお定まりの會席料理だ、然しその献立も矢張、お刺身に焼物に吸物に香の物、これを瀬戸焼の辨當に入れると信玄辨當となり、塗膳に並べると會席御料理となる……とも言へない、まア言たら手輕料理だね。

▲萬岩樓 鰻、信玄辨當、まじし、會席等の外、海魚の料理もする、この庭には外面より見ぬやうに、樹木を植ゑてあつて、一寸体裁が好い。

▲喜樂亭 岩谷天狗の前にその向ふを張つてゐるまいが、お多福ならぬ女に給仕させて會席五十銭、別に手輕一方では辨當も出來て卅銭と廿銭、壽計が十銭、小鉢か五銭として、御手輕に食へるやうにしてゐる。

和食は何うも……と返返るハイカラ先生にはお詠へ通り西洋料理も御座るよ、先づ美術館横手の

▲大阪俱樂部出張店 を始めと致して、飲食小路の東側におる

▲胸井亭 この邊は何れも普請その他に中々凝て居るから見た處は美しいが食するものは、さア何うだか、パンを切て見る先生方には兎も角、少し食通の連中には、聊かその擧る、就中……と言たやうなものだ。價格は一人前五十銭から七十銭一皿賣は十五銭位

飲料は家によつて一杯賣も致すよ。

▲佐々木自由亭聯合店 恐ろしく長い名前だ、最妙し何とか簡短に呼名があらうと聞いたがないうさうだ、場所はやハリ長い名の旅館協會有志共同店の隣りだがこゝは西洋料理と和食もするさうだ、開會前にはお直段を考案中であつた、西洋料理の方はまづ五十銭七十五銭、一圓と極て居るけれど諸物價が騰貴する見込みだからその價を今こゝで明記

されては困る夫れは機を見て直上をするかも知れぬと云つて居た。

▲五友亭 帝國通信社の前にあつて、矢張西洋料理が専門だ、硝子障子を開けば、直に椅子を周圍に配した卓があつて、洋食は普通五十錢、一皿は十錢のと十五錢のとあるが麥酒は東京麥酒を出しつゝある。

また餘り咽喉が乾く時節でもないのに、ピヤホールとは何うだい、と兎角目の先ばかりの以外は見えない一人が仔細らしく呟いたが、開會期限は七月三十一日迄といふ事を思ひ出してはア、成程、如何にもなアと黙頭た、仰せの如くピヤホールは場内各所に散在して御座る、先づ一番に目につくのは、美術館横の

▲日本麥酒 最も衆目を惹く樽的構造の建物だ然し内部その他の仕掛は普通のピヤホールで、洋食の一皿買も無論致しますといふ。

▲兜ピアホール 東京火災の建物を横に眺んで兜の商標三ツ屋上に陳列した二階建は兜ピアホールだ、下室は此通り中央を酒場に致し卅餘坪の廣間に椅子卓子を並べます、二階はこれが當ホール苦心慘愴のところ御覽下さい壁は赤のホカシ木口を態と剣さばなしの杉丸太にしたところは何んなんでも、それから外二階は純粹獨逸風のルーム、ガーデン、これでも獨逸歸りが設計したのですといふ案内の口上を耳にしながら何でもよい

からと命じて持來つたビールと燻のフライで大小二杯のビールを煽つた、料理の加減は格別賞めるほどでもないがビールは流石腹の虫を承知させたよ直段づけは左の通り。

▲ビール 大(二合五勺)八十錢乃至十二錢 小(一合二勺)入五錢乃至六錢 ▲皿もの 一皿十錢乃至十五錢

▲札幌ピアホール 飲食店では一番端つは美術館の真下に陣取つたので構へもなかなか廣く場所も好いから随分と客足を引く事だらう、併しこゝはビール専門では御座らぬ階段を下つて行くとも最初が西洋料理室、その上が日本料理の會席を遣るので如何にも調法には違ひないが餘り磨き立てゝ居るので五十錢ホツキリな迄では逆も險呑で飛込めな

So. 大概似たり寄たりの飲食店ばかりが並んで居る中で鳥料理の、異種のものを喫すのは

▲鳥粥 た場所は餘りよろしくない主人萬助先生が記者を捉まへて不平たらしく愚痴を並べたのも無理はないが普請はなかく凝つたもの四ツ目垣で圍つた下座敷が三間、一階が六間で何れも六疊敷内外の氣の利た建物、料理は鶏料理二式の中に此奴味を遣り居つた哩と思はれるのは衛生料理といふ皿もの立食だ、それは鶏でもつて和洋折衷のビ

フスツキやカッソツなどお望み次第に調進するといふので、都人士の嗜好に適すか
 何うかはチト憂東ないが田紳連の舌鼓は受合だ、價段は一皿十錢から十五錢といふ御安
 値、三皿まづ四十錢内外も平ければ可なり腹を膨らすに足る、その他は
 ▲鍋 一人前十三錢、二人前二十錢、井 二十錢、茶碗むしと飯 二十錢、辨當 二
 十錢、酒 十三錢

その他をばやには

▲京都尾張屋の出店 あり京都では一寸名を知られた家であつて、呼ぶものは餛飩と蕎麥
 價が五錢天ふら井が十錢酒も十錢、親子どんぶりが十五錢、辨當は二十錢だ、併しこの
 どんぶりの飯は何とか改良して黄ひ度を喰つて來た人の話し。
 ▲福橋軒 こゝは東京府聯合協會便殿の横にあつて單に餛飩と蕎麥を賣る店で他のいふ
 ものをせぬと云つて居た、尤も價も普通よりは少し高くするとの話しである。

雜種としては

▲澤の鶴遊仙舗 銘酒の瓶賣、下物に刺身と串刺、吸物に鯛鮓、價格は一種七錢以上十
 錢止り、酒は大瓶が二十五錢、中瓶が十三錢五厘、小瓶が七錢。
 ▲いろは 牛肉料理の看板を掲げて、浪花汁、鍋蒸小鉢が何れも四錢、浪花汁と小鉢に

香の物を添へた辨當が十二錢。

▲牛乳ホール 當地牛乳組合の仕組で、美術館の横手にある、これを名付けて牛乳ポー
 ルといふ、客の注文によつては随分一人前(三皿)三十五錢の西洋料理と兜ビールの注賣
 も遣るが、本來は牛乳のポップ賣が主なので、正味一合に紅茶か珈琲を混ぜたのが一杯
 四錢といふ正札附、會場をぐる／＼廻つて漸く美術館まで行着きア、咽喉が乾いたとい
 ふ時には一杯ハツムの妙だらう。

……、世界の辻で踏違ひもしないでヤツとの事工業館も林業館も水産館も参考館も無事に
 廻りましたよ、これからが美術館ですが貴郎や妾は一才アノ……といふと旦那殿ウツムら
 かと連れて行くところが臺灣館側の

▲多福茶屋 といふ茶亭だ、此店の主眼は茶亭よりも便所に誘ふのにあるので名を高
 等便所と稱へて居る、高等といふ名をつけるのはチト勿体ない位粗末なものだが、併
 し男女別々になつて居つて一才二疊敷ばかりの化粧の間などもあるから先以て思つこと
 いつてよろしい、重立たものは以上でおしまひ。

博覽會の記事は以上を以て了る、以下大阪を始めとして堺、京都、神戸、及びその他旅窓
 半夜の遊覽に足るべき土地の案内をなすべし、京都の地は由來わが國の旅客が最も多く寛

築する土地として、山紫水明の大公園地なれば何を措きてもわが大博覽會を見るもの、一度歩を向けざるべからざる土地なればと、儲こそ編者自案内者の格となりて兩三日の遊杖を曳くべく適當したる東山、西山の光景及び案内を叙すべし、わが市の案内に就きてはその精細を極めたる事いふ迄もなし。堺は別に水族館あり、必ず一度見ざるべからず、神戸は又わが國五港中第一の繁昌地として、又わが大阪を去ると實に十里の短距離にあれば、汽車に乗て一時間を費さず到着を得べし、海知る人も知らざる人も、帆船林立せるこの海洋の大觀を視ば恐らく壯麗偉大の感に打れざらんとするも得ざるべし。猶その他近畿の温泉案内あり、目に耳に勞れたる心身の慰籍を得べく又適したる休養地ならずとせんや。以下順を追て案内記を掲載せん。



大阪及附近名所案内

○東區の部

○大阪城

大阪名所の第一にて往古はこの地を石山と稱ひ、本願寺蓮如上人が始めて堂宇を建立せられ、顯如上人のとき、織田信長との戦ひ遂に決せずして和睦となり、その後勅命に依つて顯如上人は紀州雜賀に退かれ、天正十二年に至りて豊臣秀吉この所に城を築きしものなり。周圍は凡そ一里餘にして、西南に大手、西北に京橋、東北に青屋口、玉造口の四門を具へ我國第一とも稱すべき名城なり。大阪陣の頃には西に海近く、北には淀川あり、東に大和川を控へ、三重の濠を構へたる實に要害堅固の城なりしも、今はその地勢全く變じ、さしも壯麗なりし金城も慶長元和の兵火と近きは戊辰の兵亂に焼失せし爲め、漸く現時の形を殘せるものなり。

豊臣氏滅亡の後徳川氏より代々城代を置きて之れを守護せしめしが、明治の代となりて大阪鎮臺本營となり、當今は第四師團司令部の所在地となりたり。

青屋口を出し處に大阪砲兵工廠あり、また城内なる本丸には大阪市水道の貯水池あり、馬場の北には大阪階行社あり

○博物院 東區本町橋東詰北へ入る處にあり(本町橋詰町五十八番地)この地は元大阪西町奉行所のありし處にて、明治七年九月内務省の認可を得て工事に着手し、翌八年十一月初めて開館せしものなり、その敷地坪数は五千四百數十坪にして、正面には美術館あり尋常の陳列室は敷棟に分ち、諸雜貨を置く賣店あり、百疊敷の大廣間に續いて茶室あり、能舞臺あり、動物園あり、場内の庭園には四季の花樹を栽培し、所々に茶店の設けもありこの館を借りて折々共進會を催すことあり、茶室にては茶また挿花の會あり、その他能狂言、和洋の音楽、數種の會を開催し、毎日平均千數百名の入場ありて、通券料は二錢なり

○高麗橋 大阪にて最初に鐵橋となりしはこの橋にて、東堀にて北より第二の橋なり(この北にゐるは今橋、南にゐるは平野橋)維新前はこの橋の西詰に櫓屋敷と云へるがおりて大阪城外廓の名残をとゞめたるものなり、東は島町、西に高麗橋筋なりこの橋の東詰に里程の元標を建てたり、まづこより東京及び近府縣その他に達する里程を掲ぐれば

東京府 百四十三里二十六町○京都府 十三里一町○奈良縣 十二里十五町○和歌山縣

十七里二十三町○兵庫縣 九里三十一町○滋賀縣 十五里二十六町
守口 二里三十町○西の宮 五里二十七町○茨木 五里九町○高槻 六里三十一町○伊丹 二里二十三町○池田 六里十八町○有馬 十三里三十三町

また大阪市内の各要所への道程は
▲梅田停車場は廿六町▲淡町停車場へ三十三町▲難波停車場へ三十三町▲網島停車場へ廿五町▲汐見橋停車場へ一里八町▲天王寺停車場へ一里二十町▲京橋停車場へ二十町▲玉造停車場へ廿九町▲博物館へ五町▲大阪城へ十二町▲博覽會場へ一里七町▲川口波止場へ一里▲造幣局へ十五町▲四天王寺へ一里十町▲築港へ二里▲道頓堀へ廿一町▲大阪府廳へ三十町▲堂島米市場へ十四町▲商品陳列場へ二十町▲水源池へ三十一町▲天満天神社へ八町▲豐國神社(中之島公園)へ十町▲座摩神社へ十九町▲御靈神社へ十三町▲難波神社(稻荷と云ふ)へ廿一町▲高津神社へ廿五町▲生國魂神社へ廿九町▲難波御堂へ十八町▲津村御堂へ十四町▲堀江阿彌陀池(和光寺)へ三十二町

この橋の長さは三十九間餘にしてその幅は四間三分あり、またこの高麗橋筋には三井吳服店、三井銀行、第一銀行支店を初め尙ほ二三の銀行ありて、この筋の西即ち西横堀に架けたる橋は筋違橋と稱ふ

○鴻池 有名なる富豪鴻池善右衛門の邸宅は今橋二丁目浪花橋筋の西北角が本宅にして、銀行はその南西角にあり（この今橋筋には日本生命保険會社（心齋橋筋西北角）住友本店、住友銀行、幼稚園、小學校、大阪新報社等ありて、西横堀に架けしは厄ヶ崎橋と云ふ）

○大川町 この近邊一帶は紳士に適する旅舎多し、商業興信所、大阪毎日新聞社等あり、東と北濱と云ひ株式取引所あり、この西なる西横堀に架けたるは西國橋と云ふ

○難波神社 博勞町御堂筋を西へ入る所にてその祭神は仁徳天皇と本宮とし、若宮には素盛尊倉稻御魂を合祀す、この社内に博勞稻荷と云ふを祭る、その故にやこの神社を俗に博勞町の稻荷と稱へて名高し、また社内に天照太神宮を始め末社あり、例祭は七月廿一日を夏祭りと稱ひ、十月廿一日を秋祭りと云ふ、毎月三八の日の夜はこの博勞町（同社の附近）へ夜店を出せり

この社の北門（南久寶寺町）へ出る東側に文樂座と云ふ劇場あり、こゝに出勤の俳優は一定せざれど多くは中等或は中等以下の俳優を集めて興行せり

○座摩神社 南渡邊町（難波御堂の裏手）にありて祭神は生井神、榮井神、津長井神、阿須波神、波比祇神の五座なり、抑も當社はその神体を神功皇后三韓より凱陣のとき、鎮

めたまひし神璽なりと云ふ、舊地は大江の岸なる國府町、即ち今の石町の地（當今も尙はこの石町骨屋町筋東側に座摩神社の御旅所あり）なり、この石町より天正年間淡路町一丁目に移し、その後更に今の地に移したるもの由なり、境内には近來花樹を栽培し、その區域を取擧げて從來の不潔家屋を取拂ひたり、例祭は七月廿二日を夏祭と稱へ、十月廿二日を秋祭と云ふ

○御靈神社 御靈筋平野町と淡路町の中央なる西側にあり、祭神は中央に天照太神、左に入幡宮、右に鎌倉権五郎景政の靈を祭り、天正年間龜井能登守の邸この所におりたれば、維新前はこゝを龜井町と云ふ、また鎌倉権五郎の靈を祭れるに因みて、御靈神社と稱ふ、例祭は七月十七日を夏祭と稱へ、その古へは龜井家と氏子等が盡力にて天神祭の如く

川渡御を執行せしも、今は陸渡御と爲したり（御旅所は西區下博勞にあり）十月十七日は秋祭と云ひ、境内には末社の數多くまた寄席もあり、就中文樂座は人形入の淨瑠璃を興行し、その名全國に隠れなく、當今出勤の大夫にてその重なる者は春大夫、津大夫、呂大夫、染大夫、越路大夫等にして三味線彈きには豊澤廣助、野澤吉兵衛を初め尙は有名の者多く、人形遣ひには吉田玉造、桐竹紋十郎、吉田玉助等なり、例月一六の日の夜は市内第一の縁日にて平野町筋へは數町に渉る夜店を出せり

○内平野町の神明 内平野町二丁目松屋町筋東へ入る北側にあり、照日の神明と稱し、市内三神明の一なり、縁日は御霊神社と同じく一六の夜なり(祭神は天照太神)

○朝日の神明 神崎町(松屋町安堂寺町の北へ入る阪の上)にありて、これも市内三神明の一なり、俗に逆櫓の社と云ひ、源義経が彼の梶原景時を逆櫓の論を爲したるとき互ひに祈願せし處なりとぞ、また朱雀天皇が平将門、藤原純友等を征討のとき勅祭ありて、朝日神明と稱せられたる由緒もある由にて、その古へは社祿もあり、豊臣秀吉が大坂城を築くに際し他の社寺にして他に遷せし向きもあれど、この社のみはそのまゝにせしとの事なり

○玉造の稻荷 玉造にあり豊津稻荷神社と稱す、祭神は倉稻魂、稚日女命、迦俱津智命、月讀命、下照姫命の五座にして、崇神天皇の御宇に創建せる社なるが、俗に玉造の稻荷と稱へ、七月三十日に夏祭、十月十五日に秋祭を執行し、例年二月初午の日は詣人群集す

この玉造には關西鐵道東線の停車場あり、またこの町外れに二軒茶屋と云ふ古き茶店ありて昔は伊勢參宮の送迎をこの茶店にて爲し大阪名所の一なり、またこの玉造(東雲町)には唐弓の弦を製する家多くこれまた名物なりと

○眞田山産湯の稻荷 玉造停車場に近き宰相山町にあり、本殿は仁徳天皇にして、稻荷はその側に祭れるものなれど、世人は稻荷を以つて知りて名高し、元和の戦ひに眞田幸村がこゝに出丸を築きたる跡なりとて眞田山名あり、また同じ元和の役に加賀宰相の陣屋ありし跡なりとも云ひ、今この邊を宰相山町と稱ふる事となり、嶺山とはその舊名なるべし、また此處には明治十年(戦役)に死を遂げたる大阪鎮臺兵の墓あり

○森の宮 森の宮上の町にあり、元森村と稱し城の東南にあり古へは鶴の森と云ひしとかにて、明應の頃この所に本願寺の別院ありしも信長の爲め御堂は破壊となり紀州の雜賀に落しとき彼の地をさぎの森の名を附せしとの事なり、祭神は聖德太子の御父帝用明天皇を祭る、またこの地は四天王寺の舊地なりとてこの邊りには種々の名跡あり、また境内に蓮如の松とて年経りたる一樹の老松あり、之は蓮如上人がこの松の下に座して當社の神、上官靈子に吾宗門繁昌を禱りし處なりとぞ、この宮の附近に龜井水と稱する古井あり

○味原の池 高津味原町にあり、廣さ二丁餘の溜池なれど昔は名所の一ツにて、神代に天降れる比賣古曾神の御影池なりと云ふ

○仁徳天皇皇居の跡 東高津御差町にありこれ難波味原高津の宮跡なり、明治三十二年十一月こゝに碑を建てたり

○生國魂神社 官幣大社にして、高津生玉町にあり、祭神は生國魂、元は大坂城の邊りにありしを豊臣秀吉この地に移す、境内には秀吉寄附の石燈籠あり、靈玉を納めたる神輿を以つて神寶とす、社地は高燥にして眺望に富み境内には櫻樹多く春は殊更詣人群せり、門前には蓮池ありて開花の頃は市人朝まなきに來たりて賑はへり、六月廿八日に御祓の祭典あり九月九日は例祭なるが夏祭は松屋町なる御旅所へ渡御を行ひ氏地は上町一圓なり

○北向八幡宮 生國魂表門前蓮池の側にあり、この北向の名は昔大坂城を守護の意味なるべし

この程にも東區内に神社あれど一々記すに違なければ略しぬ、その中にも○安土町に入幡宮を祭り例年八月十五日(或は九月)にその町内に種々の餘興を催ふし造り物などを爲せり○道修町には少彦の命(神農)を祭りこの例祭は十一月廿二、三の兩日にして造り物の催しあり○伏見町には惠美須神社ありて一月の十日戎と十月二十日には蓄文拂とて祭典を行へり

○難波御堂 東本願寺の別院にして御堂筋南久太郎町にあり、南の御堂とも裏御堂とも稱す、本願寺十二代教如上人幕府よりこの地を賜はり慶長年間に創建せしもの、由、本願寺

尊は安阿彌の作し阿彌陀如來にて、境内には對面所、書院、鐘堂、鼓樓、唐門、茶所などありて寺域廣大なり

○津村御堂 西本願寺の別院にして御堂筋本町にあり、北の御堂また表御堂とも云ひ、南の御堂よりは僅に三丁北なり、寺域は難波御堂と同じ、本尊も同様なり、また此御堂の後部西に向ひたる門を不開門と稱す、明和の頃朝鮮の使節が來泊し譯官某を刺殺したる以來は、こゝを開かさりしより門の名となりしものなりと、當寺の寶物は北殿司の筆釋迦羅漢、雪舟の筆十六羅漢等がその重なるものなり

この兩御堂の邊りにて名高かりし名所は○芭蕉翁修焉の地にて彼の翁が「旅に病て夢は枯野をかけ廻る」の句を残して永眠したる處は南久太郎町御堂筋東へ入る南側に花屋の裏なり○また貞柳が蹟は南御堂前なりしと○夢の浮橋と云ふは南本町心齋橋筋東へ入りたる北側に明治十二年の頃まで石の欄干の形のみに存せしも今は取除かれたり、昔はこの邊りに墓所ありてその道に架かりし橋なりと云ふ○井池に心齋橋筋と三休橋筋との間に南北の筋を井池筋と稱びたるが之は古へ難波築師と云ふ處の境内廣く、こゝに廣き池あり、その池には片葉の青を生せしとかや、この井池の名残は近年まで一ツの井戸のありしも今は無し

○東區内の劇場と寄席 劇場の重なるものは前に掲げし御靈社内と難波神社内との交樂座にしてその他は内本町松屋町東へ入る處に平林座と云ふが有り、この座は常に新俳優にて興行せり○寄席の数は多けれどその重なるものは淡路町御靈筋西へ入る處に幾代亭と云ふ落語の定席ありてこゝは桂派を稱する連中が出勤せり▲平野町三休橋西へ入る處に第一此花館と云ふこれも落語の定席ありてこゝは三友派と云ふ連中が出勤してこの兩座とも毎夜大入なり▲松屋町なる生玉御旅所の境内には女養太夫の定席あり、その他は略す

○東警察署

本町通堺筋東へ入る北側にあり

○東區役所

本町通一丁目東堀筋の北西角にあり

○東區と北區に渡る鐵橋

○天満橋

長さ百十七間六分、巾は六間なり (大川)

○天神橋

長さ百三十一間二分、巾は六間なり (大川)

○難波橋

長さ九十七間、巾四間、この橋の中央は中之島公園なり、但し南の橋は土佐堀川に架り北の橋は堂島川に架り

○その他の橋 東區より北區に架りし橋と東堀の中東區内に渡せる橋と、東區より西區に架けし橋の重なるは左の如し

- ▲淀屋橋(土佐堀川) ▲今橋 ○高麗橋 ○平野橋 ○思案橋 ○本町橋 ○農人橋 ○久寶寺橋 (以上東横堀川にて北より南へ)
- ▲西國橋 ○船町橋 ○尼ヶ崎橋 ○筋違橋 ○吳服橋 ○京町橋 ○新天満橋 ○相生橋 ○敷津橋 ○篠橋 ○新渡邊橋 ○助右衛門橋 (以上西横堀川の北より南へ)
- 東區は船場 上町 玉造 清堀と高津の一部にて北は大川及び土佐堀川、西は西横堀川限り、東は東成郡に連なり、南は内安堂寺町、順慶町にて終り

○西區の部

○大阪府廳

西區江の子島にあり、以前は本町橋東詰なる今日の博物館の處にありしが、明治七年の夏

時の知事渡邊昇氏が斷行してこゝに新築移轉せしものなり

○府會議事堂、また警察本部いづれも府廳の構内にあり

○市役所、これまた府廳の北にあり

○大阪築港

天保町に事務所を置き目下工事中なるが港の全部は内港、外港の二區域に分ち外港は南北突堤より圍繞せられその北の突堤は安治川海口の南涯天保山燈臺より西、南西六百五十間に當る處を基點とし、一直線に海へ突出し、終端に於て少しく彎形を畫し、その延長千四百九十二間なりとす、また南の突堤は天保山燈臺を凡そ南東に距る千五百五十間、即ち尻無川燈臺を距る九百三十間の處を基點とし、北西にて少し西の方向に進むこと四百二十間に於て、更に西、少し南に轉じて一直線に進行すること千八百五十五間、水深以下二十八尺に到り、少しく彎形して北突堤に對し兩者の間水底に於て幅百間を存し、西少し南に面して港口を作成するものなり、内港は木津川海口の北岸舊砲臺跡の附近に起り、北西の少し西へ進むと三百三十間、又轉じて北少し西に進むこと五百八十間にして南突堤の基點に達する船渠堤によりて擁護せらるゝものなり

○瑞軒山、河村瑞賢が天保二年の頃大阪諸川の大浚へを爲したるとき、その土砂をこ

ゝに運びて積上げたる處にて安治川の川尻にあり、波除山ともまた天保山とも云ひその昔は一の遊山場なりしが今はその事なし

○尻無川、安治川と木津川との中間にありこの川尻の堤には櫓の木多くありて秋の末に至り樹々の葉の紅染むる頃にはこの櫓の紅葉を愛してこゝに集ふ人多し、また四月五月の頃はこの川つゞきの沖合へ蛤取りに來て遊ぶもの或は秋の末に沙魚を釣船もこゝに多く來る、この堤に名高き基平の小屋と稱ふ茶店兼飲食店ありて此家の名物はから汁なり

○竹林寺、梅本町（九條）にありて淨土宗にて有名なる寺院なり、惣心山寶樹院と號し本尊は恵心僧都の作にて阿彌陀佛、開基は教譽上人、この境内には三股の竹、香の梅などありて名高し

○松島の遊廓、この遊廓の北端に姪子の松と云ふ古松あり昔はこゝを松が鼻と稱しての處は木津川と尻無川へ流るゝ川の別れなり、廓中を南に行けば天満神社の御旅所ありて夏祭にはこゝに渡御あり

○八千代座、同廓中千代崎橋筋の西花園橋の東にある一大劇場にしてその構造は實に美麗なり、この座に出勤する俳優は一定せざれど年中絶えず興行を爲せり

また其他に寄席あり勸商場あり常に雜沓を極む

この廊に架けし花園橋を西へ渡れば新に開けし大道路にて築港に達する大道なり

○九島禪院 本田町二丁目にあり靈龜山と號して禪宗黃檗派なり、本尊は聖觀音長三尺計りにして九島院の額に支那なる笠庵和尚の筆なりと云ふ、また當山は府下三島郡富田村祥雲山慶瑞寺の開祖龍溪性潛禪師の開居の地にして禪師は寛文十年八月十五日暴風雨の時一偈を遺し水定に入りたる豪傑なり、その後享保年間に公許ありて毎年七月十八日の夜安治川の中流にて水燈會を行なひこれを安治川の大川施餓鬼と俗間に稱へしも近年は絶

ぬてなし

○茨住吉 住吉神社は九條(衛戍島)にあり安治川町の生土神なり、祭神は底筒男・中筒男・表筒男、神功皇后の四座にて寛永元年この島を開發の際香西哲雲と云へるが勸請す

古へこの地に多くの茨ありしより茨住吉の名ありとまた一説には菟原郡の住吉の神を勸請すと云ふもその是非を知らず、例祭は七月廿九日また毎月三六の日はこゝに呉服もの古着の市ありて賑はへり

○元外國人の居留地 府廳の前なる木津川橋を西に渡れば元の居留地にて一小區なれども別天地の觀あり、商館あり學校あり病院あり、こゝは木津川橋通り、端建藏橋より古川橋に通ずる道路となりて殊に川口の波止場より乗船する人また船より上陸せし旅客の

着の市ありて賑はへり

通路なれば賑はしく、また清國人の家多かるゆる舊曆正月の元旦には未明に爆竹を爲し隨分奇觀を呈する事多しこの居留地を西に行けば川口また南に行けば梅本町にて松島の西に出で尻無川の西岸に沿ひ竹林寺の前を通りて甚平の小家の方へ出づるなり

○古川 之は元戎島と云ふ處の西にして古川の辨財天の祠あり古へは羅城門と稱する遊女町ありし由なるが今はその名と共にいづれの處なりしかを知る人もなきが羅城門の名は昔難波の京と云ひしときこゝに羅城門ありしと日本紀に見えたり、然れど遊女町の名となりしは娼家の軒に立てる者が腕を出して往來の人を引とめたるゆゑなるべし

○阿彌陀池 北堀江上通の西にあり蓮池山和光寺と號し本尊は金銅一光三尊佛にして長一尺五寸、往昔伊豆國走陽山淨蓮上人と云ふが佛の告を得て鑄造せしものなりと言傳へるは元祿年間に智善上人が開基せられし爲めなり、また阿彌陀池は本堂の北にあり、俗説には昔物部守屋が佛像を破棄したる浪速の堀江の跡なりと云ひ或は彼の善光がこの池より佛像を得しよりその名の残れる由なれと信すべからず、この池の中には寶塔ありて彌陀三尊を安置すその他觀音堂、普門堂、愛染堂、藥師堂、地藏堂、閻魔堂、鐘堂等あり境内に櫻樹も多し、また舊曆三月十五日の涅槃會と同じく四月八日の釋尊誕生會は詣り群衆七

同寺の附近へはこの兩法會の當日前後數日が間植木の入市を開くこれを阿彌陀池の植木市と稱して市中より參詣を兼ねて出掛けるもの夥だし

○土佐の稻荷 西長堀川玉造橋の南詰にあり今は岩崎氏の所有にて三菱の倉庫となりたれを維新前は土州侯の藏屋敷にて稻荷は同邸の鎮守なり、今は土佐の稻荷と稱へ繁昌し境内も廣く花樹をも植ゑて公園の如くなりたり、祭日は例月十二日にてこの日は殊更賑はへり

○廣教寺 薩摩堀東の町にありこの邊の川を願慶寺堀と云ひこの寺もまた俗に願教寺と云ふもの多し、始め天壽宗にて祝松山と號せしも今は本願寺に屬して眞宗となれり

○雜候場 魚市場の事にて江戸堀下通の西と京町堀通の西にありてこの邊の總稱となれり、毎朝遠近の浦々より魚類をこゝに持來りて市を爲す、その盛んなる事筆には盡せず

○靱の鹽魚 靱通りには鹽魚の間屋軒を並べ、こゝの名物とも云ふべしは住吉神社の夏祭り七月卅一日には鹽魚にてさまぐの造物を爲して衆人に觀覽せしむる事別項に記載せる陶器の造り物と同じく年々盛んに行なひ居れり

○永代演 靱の西にて海部堀の東にあり、この濱にて干鰯の市を行ふ、また住吉神社の祭典には同神社を祭り、賑はし

○長堀の材木市 西長堀川にはその邊りの材木問屋の材木を川に繋ぎありて毎朝市を立つるなり

○堀江の遊廓 北堀江上通と下通にて二丁目三丁目に青樓軒を並ぶ

○明樂座 この北堀江上通二丁目遊廓の中にある劇場なり、常に人形淨瑠璃を興行して御靈の文樂座に對抗す、出勤の太夫は大團太夫、住太夫、粗太夫等が重なる處にて三味線彈また人形遣ひにも名手あり

○堀江座 御池橋の西にありて市の側の劇場とも云ふ出勤の俳優は一定せず或ときは舊劇を或ときは新演劇を興行せり

○四ツ橋 これも名物の一ツなり長堀川と西横堀川に架けし橋にて南區にて長堀川の南北に架けしを炭屋橋と云ひ、西長堀川の南北に架けしは吉野屋橋と云ふ、またこの二橋の南詰にて東西に架けしを下繫橋、北詰の東西に架けしを上繫橋と云ひ、この四ツを合して四ツ橋と稱す、この橋の西南には煙管を商ふ家ありて名物とせり

○新町の廓と新町橋 この廓は寛永年中に初めて公許となりしものにて今の新町通りと云ふは二丁目と三丁目(元瓢箪町)と稱せりこの瓢箪町と云ひしは木村亦次郎とて伏見

の浪人がこの花街の長となり豊公より拜領せし馬印を家の玄關に飾りしゆる馬印の瓢箪よりして名を附けまた亦次郎町とも稱びしとかや、またこの廓内に元佐渡島町、越後町、吉原町、九軒町、佐渡屋町等の名稱ありしがいつれも關係人の家名を取りしものなりと、今にも九軒の吉田屋は彼の夕霧伊左衛門の名と共に人に知られ戸主の名は喜左衛門と云ふ然れど夕霧大夫の抱へられし扇屋は絶家したり▲新町橋は新町通の東にて横堀川に架せる橋なりこの東は順慶町と云ふ

(六)

○陶器神社 初南通一丁目にあり、元は今の社より東の南側にありて山城愛宕山の火除地蔵尊を祭りしものなれど、維新後は陶器神社と改め例年七月廿四日に祭典を執行しこの前後三日間は西横堀西河岸にある陶器商組合にて陶器を以つて造り物を爲す、これ頗る美觀にして浪花の名物となれり、元この邊を瀬戸物町と稱びしは陶器商の多きが故なり、然れば大阪の人はこれを瀬戸物町の造り物と稱す

○汐見橋の停車場 西道頓堀川汐見橋の南數町の所にあり、高野鐵道の基點にてこの鐵道の列車に乗れば住吉、堺にも行かるゝまた終點は南河内長野驛なり(此間十七哩なり)

○區内の劇場と寄席 劇場は別項に記せし八千代座、堀江座、明樂座の外に小劇場

としては九條に繁榮座と云ふがあり、寄席の重なるは松島に數ヶ所その他諸方に種々の興行あり定席としては新町通の瓢亭(桂派の落語)北堀江の賑江亭(三友派の落語)等なり

○川々の橋 西區には尤も川の數多く西横堀の北端が土佐堀川、その南より西へ流るゝが江戸堀川、その次が京町堀、次が阿波堀、この間即ち京町堀と阿波堀の間なる初めの西に薩摩堀あり願慶堀あり、また阿波堀の南には立賣堀(いたち堀と云ふ)その次は長堀、次は堀江川、南端は道頓堀川なればこの川々及びその他に諸川に架せる橋の數は枚舉に遑な

ければその名を擧す

○西區は北は土佐堀川、東は西横堀を境とし南は難波に至り、西は安治川を限る

またこの西區には大阪人がその所を常に口にすることを記載すれば左の如し

○土佐堀○江戸堀○京町堀○靱○阿波座○薩摩堀○立賣堀○新町○北堀江○南堀江○さこば○江の子島○松島○本田○九條○三軒家○川口等なり

○南區の部

○四天王寺

荒陵山四天王寺敬田院は關西鐵道天王寺驛より凡を三町北にあり、古へは八宗兼學なり

しも今は天壽宗となり、その名もまた難波大寺、三津寺、法花園、或は堀江寺、荒陵寺とも稱びし事ありたりと、當寺は聖徳太子の御草創に係るものにて、その由来は世に知る處なればこゝに記するの要なし、抑もこの寺は最初玉造の岸に建立せられしものなるが後にこの處へ引移されしものなれど以來廢擾の爲め頽廢に屬せんとせし事屢々なりしが朝廷及び將軍家の御崇敬厚かりし爲め速かにその修繕を加へられしものにて、今日に至るも舊觀を失せずして嚴然たる一大伽藍なり、元弘年中に楠正成がこの寺にて太子の未だ記を披見せし事は彼の太平記に載せて名に高し、天正四年の夏冠火に罹りしがその後豊臣秀吉これを再興せり、今の東門と寶藏はその頃より遺されしもの由なり、尙ほまた元長年中の兵火の爲めに灰燼に歸せしが慶和年中に徳川家より再興して舊觀に復せり、その後屢々修補あり實に一千三百餘年の星霜を経たる七堂伽藍の靈地なりき、今回第五回内國勸業博覽會を機として大梵鐘を鑄造したり、この地は大坂府四公園の一ツとして大坂城と好一對の名所なり

◎金堂は南大門の内において桁行は京間の八間六尺二寸、南向きなり、この本尊は金銅の如意輪觀世音、彌勒佛、彌勒佛、四天十二支の畫像、婆羅門六形、寶塔一基、中に佛舍利一粒を安置す

昔は例年正月十一日この堂に於て正番匠、樁番匠、副大工等立並び、烏帽子裝束にて手斧始の式例を爲せり、之は聖徳太子、番匠の事を教へさせたまひし遺風なりとぞ、今はこの式を爲さざるもこの舞樂に脚色を奏する事あり

◎青龍池は金堂の南にあり、白石の間に玉の如き清泉の湧出しより白石玉出水と命けまた龜井の水とも云ふ、この白石玉出水の舊跡は一心寺本堂の西にある竹林の中ありとぞ

◎轉法輪石は金堂の前にあり

◎五層法塔は金堂の南にあり、元この寶塔は和州額田郡田部村なる額安寺にありしを慶長年間堂寺再營のとき靈命に依つて引移せしもの由なるが一層毎に雲水の彫刻を爲したれば世に雲水塔とも云ふよし、塔中には釋迦の畫像、四天玉の木像、八祖の畫像を安置す、塔の結構巍々としてさながら天を衝くの思ひあり、この塔に昇るには二錢を番人に渡し頂上より四方を眺望するも一興なるべし

◎講堂は金堂の北にあり、桁行十二間一尺二寸、阿彌陀佛、觀音、聖至、盧空藏、四天王、誕生佛等を安置す

◎鐘樓は講堂の後、蓮池の側にあり、この梵鐘は無常院の鐘と稱し俗に引導鐘とも云ふ

り、その音聲は黄鐘調に適ひたりとかや

◎鼓樓は鐘樓の東にあり

◎樂家は鼓樓の左右にあり

◎舞臺は蓮池の上に石を以つて基へたり、六間二尺六寸と四間二尺二寸なり、毎年舊曆二月廿二日の聖靈會にはこの舞臺の上にて伶人舞樂を奏すまた舊三月二日經供養の日太子堂の下にて舞樂あり、これを俗に椽の下の舞と云ふ

この舞臺の下の池を大池と稱へ多く龜を放ちあり

◎六時堂は蓮池の前にありて桁行十三間五尺五寸、藥師如來、日光、月光、千手觀音

四天王、不動明王、吉祥天女、妙見星、羅喉星、寶頭盧尊者等を安置す

◎食堂は六時堂の後にあり、桁行十間二尺二寸、堂中には文珠を安置す

◎推寺と云ふは北門の側にあり、傳教大師の建立にしてその本尊は藥師如來、こゝに元

三大師及び傳教の作にて普賢菩薩を安置す、こゝを普門院また法華三昧堂とも稱せり

この後の敷の中には芭蕉翁の墓あり

◎寶藏は東僧坊の東にありて十二面觀音を安置す、桁行は十二間一尺二寸またこの庫中には當寺の寶物數多を收めたり、その中にて最も名高きものを掲ぐれば左の如し

▲聖德太子楊枝の御影(四十九歳のとき龜井の水に御姿を映し楊枝を以つて自ら描きたまひしものなり) ▲本願緣起(これは太子の手形廿五個ある眞筆なれば御手印記とも云ふ) ▲同じく緣起(後醍醐天皇の震動にて太子の緣起を寫したまひ御手印あるもの)

▲太子の御守 ▲絳の御衣 ▲丙毛槐林の御劍 ▲六目の鑷矢(守屋を退治せしもの) ▲七星の御劍(鏡に七星現はれしもの) ▲閻浮檀金彌陀三尊(太子の御持佛) ▲京不見の笛

太子の御作にて大小三管ありこの笛は太子の秘藏なるものにして後花園院にはこの横笛を叙覽せんとて都に取寄せたまふ途中にて怪異あり、遂に叙覽に奉つらざりしを以つて

京不見と勅銘ありしとかや、今も聖靈會には伶人この笛を用ふる由) ▲扇面の法華經(太子自書自書) ▲番匠の佛號(太子自ら番匠の具を以つて文字の形と爲したる六字名號

なり) ▲千本の琴(楠正成の寄附) ▲太子の繪傳(土佐將監光信の筆) ▲その他名品珍

器數百點あり

◎守屋の祠は太子堂の後にあり、こゝに參詣する者は守屋の名を惡みそれが爲め祠に磔

を投げ破壊する事度々なるより寺僧はこれを傷み今は熊野權現と表を打ちあれど、守屋

大連、弓削小連、中臣勝海連の三座なり

◎仁王門は南大門の内にあり、金剛力士の像を安置す、こゝに獅子と狛犬を表裏に据ゑ

たるあり頗る名作なり

○南大門は當山の南門にしてこれより南に行く道路を阿部野街道と云ふ(住吉また堺に到る)

○熊野禮拜石は南大門の内にあり、當山四石の一にして俗に熊野權現遙拜石と云ふ

○萬塔院は仁王門の西にあり、千手觀音、四天王、寶頭盧を安置す

○五智光院は萬塔院の北隣りにありて當寺の灌頂堂なり、大日如來を安置しその他徳川家代々の位牌を收め、俗にこゝを御靈舎と云ふ

○西門の西表には阿彌陀、善導大師等の畫像、東の方には釋尊、十大弟子の畫像を安置せり、太子は此門にて御父用明天皇の御爲めに、七日七夜の念佛を修したまふ、また弘法大師もこの西門にて日想觀を修したりと云へり

○引導石と云ふは西門の西にありて昔はこの邊りの者死せし亡者を葬むるとき僧侶の引導を用ゐずこの石の邊りに棺を据ゑ置くとき無常院の鐘三聲撞けば太子はこの石の上に向向ありて亡魂を善道へ導きたまふと云ひ傳へしものなり

○石華表は西門の外にあり、この華表は元衡門にて木にて造りしものなりしがその頃紀實之が「水くさの跡は、かなく残るも忘れず忍ぶ人やなからん」と云ふ和歌を落書し

又その後定家卿も「水くさの跡は果敢なくなりけり忘れず忍ぶ人はわれども」と落書せしよりその木にて文臺を作りて寶庫に收めありと、その後石の華表となれり、その華表の額に「釋迦如來轉法輪所當極樂土東門中心」の十六字を書したり、之は太子の眞蹟と云ひまた小野道風の筆、或は弘法大師の書せしとも云へどもその眞偽いつれとも詳らかならず、この華表は大和國磯城の忍性上人の建立せしもの、由

今は詳らかならねど散田院、施藥院、療病院、悲田院等の四ヶ院の舊蹟ありしと

○東門の門前は河内街道なり、この門と寶藏を俗に釘無堂と云ふ、豐太閤の再興にして今に奉行片桐且元の名を留めその彫刻は美麗なり

○影向石は四石の一にして東門の外にあり天照太神宮の遙拜所と云ふ
尙この外に記載すべき名蹟尠からねど餘白なければ略す、近年公園となりてより四時の花樹草花を培植したれば一層風致を添へたり、春秋二季の彼岸會には市中より當寺に詣する者夥たしく境内の雜沓は立錫の地もなき程なり、また舊二月十五日の涅槃會、聖靈會、舊七月の十日の夜なほは賑はし

この天王寺の名物は無にて天王寺無とて賞翫するもの多し
南門の南に庚申堂あり、庚申の日は詣人多し、この天王寺の西門前を南に行けば天王寺驛

停車場及び博覽會場の東手に出でまた住吉に向ふ鐵道馬車の乗場に到る

○茶臼山

四天王寺の西南にあり、その形の茶臼に似たるよりこの名あり、一名を荒陵と云ふよし、慶長元和の頃徳川家康の陣所とせし處なり、古松翁鬱として周圍に池をめぐらし、維新前は俗に留山とて人の立入るを禁じたるも、陸軍省の用地となり、後に岩崎氏の所有となり、しもまた住友氏の所有となり、昨年この山へ衆人を入れて觀覽せしめたり

○邦福禪寺 茶臼山の南にありて、こゝを雲水と唱ふ、精進料理(普茶)の注文に應じ座敷より茶臼山を望みその景色美なり

○一心寺 逢阪下の町にありて博覽會場の東なり、阪松山一心寺高岳院に稱し淨土宗鎮西派にして圓光大師廿五個所舊蹟の一なり、本尊は阿彌陀佛、鬼首羯摩天の作にて三尺の立像、また方丈に善光寺の如來を模したる一光三尊の金像佛を安置す、二階堂は本堂の南にあり、これを普隆堂とも云ふ、三千佛堂、彌勒堂、御影堂、大師廟所等數棟の建物あり、また書院の庭に駒繫ぎの松と云ふあり之は徳川家康が大阪陣のとき當寺に來り馬を繫ぎしものなりとぞ、寺内には本多忠朝の墓あり、元和元年五月七日天王寺の表にて戦死したるものなりと、こ

の墓に隣りて眞阿上人の墓あり、又名優の聞あり、八代目市川團十郎の墓が當寺中にあり、抑も當寺は文治元年の春天王寺の慈鎮和尚が法然上人を招請してこの地に方四間の草庵を結び、新別所を稱へて上人を住はせたるを始めてす、その後兵亂の爲め願庵に屬せしが慶長の始め然達社本誓存岸上人こゝに來たりて中興し、一心歸命の義を以つて寺號とせ

慶長五年の秋徳川家康この寺に來り上人の勤行堅固なるを賞讃し、上人の望みに應じて殺生禁斷の制書を下され、地名の相阪と云ふによりて、その席の障子の板に筆を染め、阪松山と書せられしを今寶額とせり、また書院の側らに名高き小堀遠州好みの三方明りの數寄屋あり、これは大阪城内より移したるもの由なり、尙ほ種々の珍書名畫等もあれを略す

○合邦辻 天王寺の西、博覽會場の北手なる往還の北側に閻魔堂あり、こゝを昔は合邦が辻と云ひしが、その實はこの處に學校のありしより學校が辻の轉訛なりとぞ、本

○逢阪の清水 三心寺の門前より西にて彼の閻魔堂に並びたる東手なれと今は昔の如く持摩さす、併し七名泉の一ツなり

○安居天神 逢阪上の町にあり、祭神は少彦名命なれと天満宮と云ふ、俗にこの所は彼の菅原道實が筑紫へ左遷のとき暫ら休らひし故を以つて安居の天神の名ありと云ふ

も昔この社頭に七井ありてその一ツに安井と云ふ井戸のありしより安井と稱する由また此の社の脊後を天神山と呼び、梅櫻咲くころは花を賞する雅人、瓢を提げ行く俗人も多し

○大江神社 天王寺西門の西北、勝曼阪の上にあり、祭神は豊受大神、末社には猿田彦大神、日吉稻荷、手力雄命等なり、境内には老松翁鬱として幽静の地なり

○勝曼院 大江神社と同所にてこゝは聖徳太子勝曼經を講じたまひし舊跡なりと、本尊は愛染明王にして例年七月一日には愛染祭と云ふを執行し大阪にて夏祭の第一番の初めの日なりとぞ

またこの邊を夕陽丘と稱し、古木の梅に名も高し

家隆卿の墓はこの夕陽丘にあり、從二位家隆卿晩年幽棲の地にしてその遺體を埋めたる處なり、墳上に古松聳ゆるその名を舊松と呼ぶ、こゝより西を眺むれば尤も絶景なり

○増井の清水 清水の下にあり、天王寺七名泉の一ツなり

○清水寺 天王寺伶人町にあり、昔は有栖川寺と號せしも、寛永十七年京都の清水寺にありし聖徳太子の作千手觀音の像をこゝに移して本尊とせしより今の名は新清水寺と呼び有栖山と號す

この寺の舞臺の下に狂歌師にして有名なる由縁齋貞柳の碑あり、この人は享保年間難波御

堂の(南久太郎町)邊にて鯛屋山城と呼び七菓子商の主人なり

大悲水の瀧は舞臺の南にあれど今は境内なる料亭八百松樓の座敷の下となりたり

この舞臺より見渡せば市中より遠くは淡路島を眺望し風景頗る佳なり

○遊行寺 勝曼阪の下にて下寺町にあり、宗旨は時宗にて寺號は佛智山圓成院極樂寺と呼ぶ、本尊は立像三尺六寸の藥師佛なり、時宗一遍上人天王寺參籠のときこの寓舎なり、遊行五十一世願上人これを求めて藥師堂を再營し、遊行一派の道場となれり

本堂に傍らに芭蕉翁の座像を安置す

○關帝堂 天王寺東門の東一町餘の所にあり、寺號は龜林寺、心越禪師の開基にして延寶五年の建立なり、禪師明國より持來れる關羽の像を本尊とし關帝廟と云ふ、然れば舊正月元日には在阪の清國人はこゝに詣するなり、また近年この寺にて普茶(精進料理)を爲せり

○超願寺○月江寺○鳳林寺○吉祥寺○珊瑚寺○梅舊院○太平寺などいづれも天王寺町の

ほとりにおりて各寺とも由緒ある寺なれどもその古事來歴は略す

○紅葉寺 天王寺東門の北半町餘りの處にあり、境内に古楓數十株あるを以つて紅葉寺の名はあれど壽法寺と號す寺なり

○隆泉寺 生玉寺町にありて糸櫻の名所なりまた齡延寺にも近年櫻を植ゑこの兩寺と

も開花の頃は賑はへり
○觀菊庵 高津梅ヶ辻にありて菊を造る家なり、例年花壇を設へ造り菊を爲す、最も主人は栽培の妙手にてその名高し

○高津の宮

道頓堀の東、高津町一番町にあり祭神は仁徳天皇、應神天皇、履仲天皇、仲哀天皇、神功皇后、葦姫皇后等なり、例祭は七月十八日と十月十八日に、夏祭は高津祭と稱へて賑はへり、社地は高燥にして眺望極めて佳なり、境内に高倉稻荷と云ふがありて常に詣人の絶間なし

またこの境内には有名なる湯豆腐屋あり、當社の北阪の下には黒焼屋ありてこれを高津の黒焼屋と稱ひ歌類、虫類總ての黒焼を商ふ店なり

○吉助の牡丹 高津西阪の下に松井吉助と云ふ植木商あり、庭園には四時の樹花を培養し盆栽も種々あり、就中牡丹はこの家の名物にて例年花期には花壇を設けて衆人に觀覽せしむ、これを以つて吉助の牡丹とて浪花の名物となれり

○新舊の梅屋敷 舊の梅やしきと云ふは生玉と高津の間にあたる上本町通りあり、

園内はさして廣からねども老梅數百株ありて花期には觀梅客多し、新の梅やしきと云ふは高津の東にありて福喜園とも云へり、この梅は若木多し、この舊新の梅やしきは庭園の掛茶屋を設け茶菓の外に酒肴を鬻ぐ、然れど餘り俗化せられて風流客には如何のものにやと思はるゝなり

○二ツ井戸 道頓堀の東二ツ井戸町にあり(有名なる岩かこし商津の清の橋下)

○日本橋 道頓堀川に架けこの橋の北は堺筋と云ひ南は日本橋筋と云ふ、この橋筋を南へ行けば博覽會場に来る、昔はこの邊に旅舎軒を並べ、また南を長町(名護町また那古町と云ふが實名なる由)この橋の南詰より南へ敷町の間は魚市、また青物等を鬻ぐ家その他各種の商店盛んに商ひを爲し晝夜の別なく繁昌すれども殊に午前中は賑はし

○名古屋の毘沙門 日本橋筋三丁目の西裏にあり大乗院と云ふ、本尊は毘沙門天にして毎月寅の日は參詣人多く長町の毘沙門とて名高し

○道頓堀

東堀の南端より西に流るゝ川にて西横堀以西を西道頓堀と云ふ、この東堀と西横堀まで架けたる橋の名を掲ぐれば(東より西へ)下大和橋、日本橋、相合橋、大左衛門橋、戎橋(今の橋標には惠美須橋とあり)新戎橋、大黒橋等なり

《洋一》

この川の名は慶長年間安井道頓と云ふ人初めて發掘せしより道頓堀の名あり

この南岸を川竹とも云ひ單に道頓堀と云ふは南詰にて町名は東にて二ツ井戸町、東橋町、西橋町(この處に五座の劇場あり)九郎右衛門町と分れ、北河岸にて相合橋と戎橋の間は遊廓にてこゝを島の内と稱ふ、この邊は大坂第一の繁華にて劇場の名を記せば、西より東へ浪花座、中座、角座、朝日座、辨天座、の五座なるがこの向ふ側には芝居茶屋軒を並べ昔はいろは茶屋と云はれしものなるよし、この劇場へ出勤する俳優はいつれも大歌舞伎役者と稱へこゝにその重なる處の名を記せば、

老優にては市川右團治、市川荒五郎、市川團藏、中村福助、嵐橋三郎等にて當時人氣ものは中村鴈治郎、片岡我當また中村霞仙、嵐巖笑、尾上多見之助、實川延三郎、中村玉七、中村芝雀、市川右之助、中村政治郎、片岡我童、市川市藏、嵐徳三郎等にてその他瑠璃、三五郎、珊瑚郎、長太夫、卯三郎、荒太郎、等なるが新俳優の重なるは高田實喜多村縁郎、秋月桂太郎、木村周平、小織桂一郎、岩尾慶三郎、山岡如洋、河村神、木下吉之助、永瀬義郎等なり

○千日前 こゝはまた道頓堀太左衛門橋の南詰より南へ數町の間の俗稱にしてこの邊の町名は河原町一丁目と云ふこの兩側に劇場また奇席、観物小屋軒を並べ歌舞音曲の聲喧

すしく晝夜の差別なき大樂天地なり

こゝに小劇場も數ありまた女義大夫の定席にてその構造美麗なるも二ヶ所あり

○自安寺の妙見 千日前の東にあり、本尊は妙見宮にて例月午の日は阪町通りより日本橋筋まで夜店を出し緑日中最も盛んの場所なり

○竹林寺の大師 千日前の西側即ち法善寺の南隣りにありて境内に弘法大師を安置し

○阪町の天満宮 千日前の東裏阪町にあり

○法善寺 千日前の北端にて中座の裏にあり西門は難波新地一番町と二番町にありて東門は千日前阪町筋にあり、浄土宗にして寺内には金毘羅を祀り日夜とも詣人の絶間なくこの境内には小料理屋、鮮屋など數戸ありていつれも手軽さを旨とす、また講談の席あり三友派と桂派の落語の定席にて金澤亭に紅梅亭と云ふ晝夜興行の席あり

○難波停車場 戎橋筋の南難波新地五番町の南にあり南海鐵道の紀州及び岸和田、濱寺、堺、住吉への乗場なり

○湊町停車場 道頓堀の西、新川に架けたる浪芳橋を渡ればこの停車場なり、關西鐵道名古屋行きの本線にして天王寺、平野、また河内の道明寺これは(途中柏原驛に河南線

と乗替へ) 奈良、櫻井、櫻井及び大和の高田また吉野へ行くには王子驛にて乗替へ) 笠置伊勢參宮等の乗場なり

○廣田の社 今宮にあり祭神は天照太神の荒魂なり、例祭は舊三月廿三日にて由緒ある神社なりこゝは難波より住吉また堺へ行く街道にて廣田の森とも云へり

○今宮神社 廣田の社の南、天王寺西門筋の西にありて祭神は中央に天照太神、左に姫子尊、大己貴命、右に素盞鳥命、月讀命、の五座にて祭典は一月十日なるがこれを十日戎と稱して浪花の名物なり

この十日戎はその宵日の九日より賑はしく翌十一日もまた残り福を得るとて詣する人多し殊にこの日は(九十の兩日)南地五花街の遊廊より藝妓を乗せ飾り立たる駕籠を數十挺昇ぎ出すを名物としこれを寶惠駕と云ふ實に奇觀なり

○來山の蹟 今宮は虫所なり蟹なりと云ふ俳句にて世に名を知られたる俳人小西來山の住たる處にて庵の名を十萬堂と稱す(彼の女人形と記は名高きものなれと略す)

○木津の大黒 木津に大國神社と云ふがかりこれを大黒と稱へて甲子の日には詣する太形たし、また參詣する者は燈心を買求むるを例とせり

○難波の八阪神社 難波一圓の生土祭にして昔は牛頭天王また祇園を稱びたり例祭は七月十日なるが例年一月十四日には氏子の若者等が集りて左右に分れ大綱を引合ふて勝負を争ひその勝たるものゝ方はその年福を得ると云ひ傳ふ、これを難波の綱曳と稱してまた名物の一ツなり

○難波瑞龍禪寺 難波元町二丁目にありて山號を慈雲山と稱び禪宗黃檗派の寺院なりこの寺を俗に鐵眼寺と云ふ、本尊は藥師佛と十二神將を安置す、天王殿の中央には彌勒佛は左邊は四天王、後堂は韋駄天を安置す、此寺は元藥師寺と號し數百年前の創建なるが、寛文十年の頃肥後の人鐵眼和尚と云ふがこの寺に住し高徳世に輝かしを以つて人呼んで鐵眼寺と稱するに至れり、その後延寶七年に慈雲山瑞龍寺と改めたりと、鐵眼和尚は木菴禪師の高弟なり、當地第一の禪寺なり

○三津八滿宮 島の内八幡町(木綿橋筋)にあり、祭神は應神天皇にて例祭は七月十五日と九月十五日なり

○三津寺 島の内三津寺町にあり古義真言宗にて大福院と號す、本尊は十一面觀世音、行基の作にて長五尺八寸、境内に楠の大樹ありしも今は枯てなし

○心齋橋筋 戎橋の北、長堀に架けたる心齋橋(鐵橋)より南の通りを云ふ、こゝ通りは實に第一等の繁昌にて兩側の各商店には種々の物品を商ひ、大丸、高島屋(飯田)その他

名ある呉服店あり

○順慶町 この通りは南區の北端にして西は新町橋なり、こゝも心齋橋筋に續きて賑はへり

○重なる川の名は長堀川、道頓堀川、東堀のつゞき、西横堀のつゞき、高津入堀川、新川等なり、但しこの川々に架けたる橋の名は略す

○南警察署は東清水町にあり、難波警察署は難波元町にあり、天王寺警察署は生玉鳥居筋の南にあり、南區役所は長堀橋筋一丁目にあり

○南區は北は順慶町、内安堂寺町通り、西は西横堀を限りとし、東と南は東成郡に接す、また南區にて大阪人の口に稱ふる處の名は左の如し

○南船場○島の内○南地○道頓堀○上町○難波○木津○西濱○今宮○天王寺等なり

○北區之部

○造幣局

川崎町にあり、明治四年に創設せられし洋式金工場なり、舊は造幣寮、稱ひしを明治十年に寮を局と改め開局當時の分課は地金局、分拆局、鑄金局、試験分拆局、極印局、燒生局

秤量局、器具貯蔵局、彫刻所、機關所、銅細工所、鑄造所、鍛冶所、硫酸製造所、瓦斯製造所、散炭製造所等なりしが今は總務部、鑄造部、試金部に分ちて更にその部へ各課を置れたり

造幣局にては毎火曜日、局員の紹介ある者、また前日まで直接願ひ出づる者へは切符を渡し、溶解場、伸延場、極印場、彫刻場等の概覽を許す、この溶解場は精製したる貨幣の地金を溶解する處なり、伸延場は地金を機械にかけて貨幣の厚さに引延しまたは切斷する處なり、極印場は伸延場にて圓形に切斷したる地金に文字や紋章を打込む處なり、彫刻場は貨幣及びメダルの原型を彫刻する處なり、伸金より極印に廻る間また極印の済みたる後、巧妙なる秤量機にかけて重量を試験する處あり、或はまた別に熟練なる職工が極印の済みたる貨幣の音を聞きて、疵の有無を調ぶる處もあり、誰人が見ても有益にて且つ面白きものなり（但し普通の參觀人は硝子窓の外より眺むるのみなれど、特別の觀覽人は工場内に入る事を得る）

この局の前面は淀川に沿ひこの河岸には古木櫻數十株あり、例年四月の花期には三日間特に公衆の門内に入りて花を見る事を許す、この時は泉布觀に通ずる門を開きて通り抜けに往來せしむるなり

○泉布観

泉布観は造幣局と同時に建築せられ、明治五年六月、陛下の行在所に充られし處なり、近年は其筋の許可を得て日本美術協會大阪支會が此處にて美術展覽會を催す事あり

○淀川橋 昨三十五年の冬新に架けたる大阪市第一の長橋なり、長さ百三十六間六分、巾三間三分なり、この橋は造幣局の北端泉布観の北より櫻の宮(東野田町)へ渡せるものなり

○水道水源地

都島(櫻の宮の北)にあり、明治廿八年に落成し同年十一月十三日を以つて通水式を舉行せり

○母恩寺

澤上江町にあり、淨土宗の尼寺にして本尊は恵心の作彌陀佛なり、後白河院の御本願にして、仁安年中御母待賢門院御菩提の爲めに御草創ありし所なり、故に法皇山と號す、數年前までは寺内の蓮池に蓮の花多かりしも今は絶なし

○源八の渡し

この渡しは名物なりしも淀川橋の架りし爲め不用となれり

○櫻の宮

淀川橋東詰より東中野町にあり、祭神は天照太神にして例祭は十月廿一日なり、西岸なる造幣幣の櫻花を相對してこの堤防の櫻樹また名高かりしも明治十八年洪水

の爲め東岸即ちこの櫻の宮の堤を築き、櫻樹は大半枯失たり、近年は追々若木の櫻を植えて舊に復せしめんとしつゝあり、花期には河岸に掛茶屋を設けて、浮れ來る諸人は一日の觀樂を食ばる有様、宛ら雲霞の如く實に賑はしかりき

○櫻の宮と網島の停車場

櫻の宮停車場は櫻の宮より凡そ二町ばかり北にあり、關西鐵道の城東線なり、網島停車場は淀川橋東詰少し南の方を東に横切つたる所にあり、これも關西鐵道にて四條驛津田を経て加茂にて淡町を發する本線の列車と連絡するものなり

○網島の大長寺

網島町にあり、淨土宗にて本尊は恵心作の阿彌陀佛なり、この寺の墓地には彼の近松が作せし淨瑠璃にて名を知られし紙屋治兵衛と紀の國屋小春の墓あり、また鯉塚とて元和の役に戦死せし士の鯉に生れ變り當時の住僧の夢に現はれしを寺内に葬むられしものなりと言傳ふ古塚あり

○國分寺及び鶴滿寺

國分寺は天滿橋筋四丁目にあり(南區天王寺にもあり)真言律宗にて正國山金剛院と號す、本願は聖武帝、開基は行基僧正なり、荒蕪の後快園尼丘中興して律院となり、昔は國分寺料一萬五千束、その他施料の事、延喜式或は文德實錄にも見ゆたり、天王寺邊にある國分寺もこの國分寺といつれかその一ツは國分尼寺の跡なるべし

鶴満寺はこの園分寺の裏にあたりし處にあり、天臺律兼學にして雲松山慈祥院と號す、本尊は慈覺大師の作にて阿彌陀佛なり、この寺の梵鐘は毛利侯の寄附にして、唐土のものなり、銘は西暦の二世惠帝太平十年の撰なり、太平十年は我朝應神天皇の三十二年に相當するを以つて今を去る凡そ千五百餘年前の古鐘なり、また境内に糸櫻ありて花期は賑はへり
○天神橋筋 北は長柄の橋より池田街道に續き、南は天神橋を経て松屋町、下寺町等に續きて博覽會場、天王寺に至る、東天満にて第一の繁昌地なり、就中一丁目より三丁目迄までは日夜賑はしむ

○天満神社

天満大工町にありて天満の天神と稱ふ、祭神は天満大自在天神即ち菅原道真朝臣なり、天曆年中の創建にして社格は府社なるが昔は明星が池の邊りにありしを以つて、舊地を露の秋里と云ふ

この明星が池と云ふ大工町(裏門を直ぐに北へ行く)を寺町に出づる所の西南角の家の後にあり

社説によれば昔この邊を天満山と稱びて廣き森林なりしが天曆の頃どの林に靈光ありて、踏入これに奇異の思ひを爲す、即ち里人に神託ありて、難波の梅を慕ふてこゝに影向すと

告げたまひしより、之れを奏聞して菅神を祭りしと云へり、今の社地は寛文中に遷座ありし處なりと、末社には地主神大將軍の祠、靈府神、姪子祠、菅神眞筆の像、紅梅殿、老松祠、白大夫、神明、入幡、稻荷、住吉、松尾等を祭る

境内には近年新に庭園を修繕し梅花數株を植殖しまた社内及び裏門の邊りには奇席、觀物、料亭、茶店等數軒あり、大工町には天満座と云ふ劇場あり、日々參詣人の絶間なき中に毎月廿五日は殊更に賑はひ、一月廿五日は初天神と稱し彼の今宮の十日戎と一對の雜沓を極めこれまた一の名物となれり、祭禮は七月廿五日にてこれを銚流しの神事と稱ひ大阪全市の祭禮も同様に賑はひこの渡御は世に知られたる名物の川渡御なり、御旅所は元は戎島と云ひし處なれど今は松島遊廓の南端なり、秋祭は十月廿五日にてこれを流鏑馬の神事と云ひこの日も賑はしむ

○堀川の戎神社 寺町筋堀川橋の西詰にあり、祭神は中央に姪子命、左に少彦名命、右に太玉命を祭る、例祭は一月十日にて今宮の戎と同様なり

○天満市の側 天満橋北詰一丁西より天神橋北詰まで數町の間を市の側とて市場とも稱して榮蔬の市を立つる場所なり

○大融寺 北野大融寺町にあり、古義眞言宗にして桂木山と號す、本尊は春日の作長

二尺七寸の千手観音、勝土は地藏菩薩と毘沙門を安置す、これ俱に弘法大師の作なりと、
嵯峨天皇の皇子源融公當地來遊のとき、仁海上人に遺命して大伽藍を造營せられ、彼ら叢
林の中に異香を放ちたる靈樹に因て桂木山と號し融公の諱に依つて大融寺と稱せしなり、
境内には不動、愛染、辨天、庚申等の諸堂ありまた元大阪城の鴨野にありし淀君の墓を當
寺中に移し辨天の傍りに建てたり、寺内には有名なる藤の棚あり、庚申の日は賑はへり

○不動寺 鬼我野町にあり本堂の不動尊は弘法大師の作にて名高し

○眼神八幡宮 不動寺の南にあり眼病者はこの神に平癒を祈る

○圓頓寺 こゝもまた大融寺の附近にて境内に秋多し

○寒山寺 西寺町の西端西側にありて禪宗なり、本堂に姑蘇名刹の額を掲ぐ、これは
吳國姑蘇の寒山寺を模せしなりと云ふ、境内には名高き梵鐘あり

○夕日神明宮 老松町の北曾根崎上一丁目にあり、祭神は天照太神、左大臣融公この
浪花の地に遊歴の初めに勸請にまたみしと云ふ、曾社を夕日の神明と云ひ由緒ある宮居
なれども今は神さびて社頭も寂々たり

○露の天神 曾根崎上一丁目にありて俗に曾社をみ初天神と云ふ、祭神は菅公にして

例祭は七月二十日と十月二十日となり、社説に依れば菅原道真公筑紫へ左遷のとき、福島
に船泊りしたまひて、太融寺へ詣でんとしたまふ、この時船頭茂大夫と云ふが案内者とな
りて此處まで來たまひしに、道のはどりし露いと深かりければ「露とちる涙に袖は朽ちに
けり都のことを思ひ出づれば」との和歌を詠じたまひしより、斯く露の天神と呼ぶ由なり

○梅田停車場 その城内廣大にしてその建築の美麗堅固なる事全國中の停車場に曾つ
て見ざる處なり、この停車場は官線東海道、北陸線及び京都、神戸は云ふまでもなく、山
陽線の列車にも連絡し、關西鐵道の城東線、阪鶴鐵道（伊丹、池田、寶塚、三田、篠山等
を経て福知山行き）、西成鐵道もこの停車場より發車す

○大日寺 (三番村) ○秋の寺東光院(北野三番)

○源光寺 (濱村等) つれも有名の寺院なれどもその縁起は略す

○浦江の歡喜天 西成鐵道福島驛の附近にあり、社若を以つて名を知らる、また蓮花
もあり、菜の花の頃もこゝに來る人多く四時ともに賑はし

○妙徳寺 上福島にあり、黃檗派の禪宗にして龍王山と號す、鐵梅和尚の開基にして
正徳年中南源和尚の造立五百羅漢の寺と云ふ、五百羅漢を佛殿釋尊の巡りに安置す、高

僧眞蹟の額等頗る多し

○福島の天神 上福島、中福島、下福島の三ヶ所にありて祭神はいづれも菅公なり、菅公左遷の初りこゝに船泊りしたまひ、里人に土地の名を尋ねさせたまひしに、餓鬼島なりと答へければ、開は不祥の名なり、福島と改めなば後世必らず繁昌すべし仰せられしより、福島と名附し由なるが、こゝは設原島とも稱へしなりと

○逆櫓の松 上福島杉本某氏の別荘にあり、元暦の昔源義経と梶原景時が逆櫓の争論を爲したる舊跡なり、今は枯木の幹の残れるのみなり

○野田の藤 西野田玉川町の邊り春日神社の社内にあり、花期にはゆかりの色麗はしく、こゝに集ひ來る人また夥たし

○證如上人の舊蹟 同玉川町にあり俗に野田の橋樂寺と云ふも圓満寺とて眞宗なり、天文元年八月廿四日本願寺十世證如上人住職したまふ山科御堂を、江州佐々木六角定頼と日蓮宗の僧侶とに焼討せられ、敗北して大阪に落ち延びしを、此地及び近郷の門徒等が馳集りて、身命を擲ちて防戦せしより、遂にその危ふき難を遁れられしを、又もや天文二年八月再び不意に押寄せし敵の勢ひに、上人の御身今ぞと見ぬし折から、野田、福島の門徒等必死の力にて防ぎ戦ひ漸くにして之れに勝たれば、その時上人は門徒の討死せし事

を深く悼み上人眞筆もて文章を興へらる(文章は略す)當寺の境内に天文二年巳八月九日當村廿一人由緒地と云ふ石碑を建あり

○會根崎新地 一丁目より三丁目に至るを北の新地の遊廓と云ふ、この新地に沿ひし川を鯉川と云ふ、東の端に架けしを鯉橋と云ひ、次を會根崎橋と云ふ、その下流に櫻橋と云ふがあり(この下流に架る橋數多あれを略す)この櫻橋の通りを北へ行けば會根崎警察署及び、梅田停車場へ、南へ行けば渡邊橋、肥後橋を経て、西區土佐堀二丁目にて行當る、またこの櫻橋の北詰に福井座と云ふ劇場ありて絶えず演劇を興行せり

○堂 島 中之島と會根崎との間なり、濱通り二丁目米穀取引所あり、こゝを堂島の濱と云ふ
この堂島の東に浪花小橋(鯉川に架る)を東に渡れば大阪地方裁判所、控訴院あり、これに續きて北警察署、その裏手に北區役所あり、昔はこの裁判所の前を鍋島の濱と云ふ、この筋を尚ほ東に行けば天満の市場に出づ

○商品陳列所 堂島濱通三丁目にあり、正面には参考品室あり、賣品室は四棟あり、毎日午前八時より午後四時まで縦覽せしめ入場料は二銭なり

○商業會議所 商品陳列所の東隣りにあり

○中之島公園地

難波橋より起りて北は堂島川に沿ひ、南は土佐堀川に臨み、大江橋と淀屋橋の詰に到る間を中之島公園と云ふ、唯小松の多きのみにて公園としては不完全なるも夏季は園内の椅子にかゝりて涼風を容るゝに佳地なり

○豊國神社 公園の東部にありて別格官幣大社なり、祭神は豊太閤にて、境内に櫻また萩多し、末社には白玉稻荷の祠ありて詣人多し、この社内に附近より東に茶店數軒あり

○大阪ホテル 豊國神社の東にあり

○大阪納涼臺 中之島公園東端の劔先にあり、臺は船形にして長さ七十五間、幅十五間あり、棧橋は十五間巾四間なるが、夏期はこの臺上に種々の飲食店、氷店、或ときは催しもの等もあり、入場料は大人三錢、小兒一錢五厘なり

○大阪郵便電信局 渡邊橋南詰と肥後橋北詰の間の東側は同局なり

○渡邊橋と肥後橋 この兩橋は梅田停車場への通路にして往來繁し、此肥後橋の北詰西へ入れば大阪朝日新聞社なり

○大江橋 堂島川に架れり、この橋は舊の大江橋の名を繼ぎたるものにして、舊大江

橋は天満、天神の兩橋の間にありて、その頃は淀川を近江川と稱して川幅は二百六十餘間ありしとの事なり

○淀屋橋 中之島より大川町(東區)に架る橋なりこの橋は彼の淀屋辰五郎が初めて架けしものなりと

○川口の波止場 富島町安治川に沿ひし處なり、中國、九州地及び、四國、紀州、その他に出づる漚船また日本形船のこゝに入港する事その數多し、依つてその繁昌も筆には盡されず、大阪商船會社を初めその他の漚船會社、船宿、回漕店、また大阪税關もこゝにあり、晝夜とも漚笛の聲喧ましく賑はし

○北區内の劇場と寄席 前記の天満座、福井座を重としてその他天満神社内及び所々にある寄席の數は一々記すに遑なし、寄席の中重なるものは北新地裏町の永樂館(三友派の落語)老松町の老松座(壯士俄)等なり

○北區は瘦屋川 淀川、土佐堀川以北、西成郡の界に至るまでの區域なり

また大阪人のこの區内を口にするを記せば

○安治川 ○野田 ○福島 ○梅田 ○北野 ○曾根崎 ○天満 ○西天満 ○堀川 ○川崎 ○網島 ○都島 ○堂島 ○中之島等なり

まづ四区内にある名所舊跡また必要の場所は既に掲げし處がその重なるものにてその他は略し、大阪市に接近する名所の重なるものを記載すべし

○住吉神社

東成郡住吉村にありて官幣大社なり、祭神は底筒男、中筒男、表筒男の三神を祀り、神功皇后攝政十一年の創建なるが、後に神功皇后を合せて四座とす、例祭は七月廿一日大祓の神事あり、(南祭と云ふは堺大濱の御旅所へ渡御あり、北祭は西區松島の御旅所へ渡御ありしも近年は北祭の分は中絶せり)この日堺の大濱には夜市と稱へ翌一日午前一時ころより篝火を焚きて魚市を立つる、これを見んぞて大阪市中よりこゝに來たる者實に夥だしく、これが爲め南海鐵道は終日終夜臨時汽車を發する例なり
六月初旬には御田祭と云ふあり、當社の宮居は古雅にして境内には石燈籠多々、社の前には反橋高く、この下の池には蓮花多し、境内に古松また多し
住吉の公園は社前より西往還を隔て十二町餘の松林なり、この西端には有名なる高燈籠あり、この公園の西なる海邊を長峽浦と云ふ春の彌生のころは汐干狩とて集ひ來る人多しまた忘れ草、忘れ貝、忘れ水などみなこの住吉の名物の中にてこれを住吉の三忘れと云ふ、また境内にある攝社末社の重なるものを左に掲ぐ

- 若宮八幡宮 ○榎御前神社 ○鉾御前神社 ○船玉神社 ○海人子神社 ○御井神社 ○立開神社 ○貴布禰神社 ○后土神社 ○總社 ○五所前 ○國盛神社 ○市笑姿神社 ○侍者御前 ○子安神社 ○苗見神社 ○大海神社 ○志賀明神社 ○與天神社 ○大歲神社 ○その他數れれを略す

またこの地の名所にて昔より和歌に詠せられしもの重なるを記せば左の如し

- 墨の江 ○住吉細江 ○住吉浦 ○住吉の田 ○住吉の岸町 ○住吉の岡 ○住吉の津 ○住吉の里 ○墨江の池 ○津守の浦 ○長居の池 ○長居の浦 ○長井の濱 ○濱松の岸 ○出見濱 ○粉濱 ○橋崎 ○淺澤 ○淺澤小野等なり

また車返、櫻とて名高櫻樹あり、この住吉の名産は

- 住吉踊 ○蛤 ○蛸 ○松露 ○海藻 ○香附子 ○筆 ○金魚 ○繫ぎ貝 ○ごろごろ餅 ○土偶類なり

小町茶屋、難波屋の笠松なごこの住吉の名所にていづれも安立町にあり

○我孫子の觀音 住吉より東南十八町計りなる我孫子村にあり、大聖寺と云ふ眞言寺なり、本尊の聖觀音は長一丈七歩にてこの尊像を念すれば厄災を免かるゝとて、節分の日は詣するもの非常なり、南海、高野の兩鐵道はこの日臨時汽車を發する程なり

○天下茶屋 大阪市より住吉に到る街道筋に天下茶屋村と云へるあり、數年前までは豊太閤の舊跡なる天下茶屋と云ふ家二軒もありて、一軒は和中散の薬を商ひ居れり、近年は遊園地を設け、料亭旅舎また別荘なども追々に出來て繁華の地となりたり、關西鐵道線天下茶屋驛停車場あり

○阿倍野神社 天下茶屋村の附近にあり、別格官幣大社にして明治廿一年の創建なり、祭神は北畠親房、同願家の靈を祀れり

○國分寺 東成郡國分寺村にあり、黄檗派の禪宗にして天徳山と號す、本尊は聖觀音、黄金佛長は一尺六寸なり、往昔聖武天皇の御護佛なりと云ひ右手に瓶を持ちたまふ奇作なり、前項に記す如く北區にも同號の寺あり、いづれか國分尼寺ならん

○舍利寺 天王寺の東、舍利寺村にあり、南岳山と號し禪宗黃檗派なり、中興木庵和尚、佛殿は釋尊にて左に文珠、韋駄天、右に普賢、達磨を安置せり

○長柄の鶯塚 長柄村の田圃の中にあり、禪宗曹洞派にして本尊は行基の作長一尺五寸の釋迦佛なり、この寺には遠城治左衛門、安藤喜八郎等兄弟の者が舍弟なる遠城重次の仇敵に

出合てゝにて返討となりしなりとの名高くこれ世に崇禪馬寺場の敵討と云ふ、今同寺にての兩人の墳墓あり、また敵討の遺物も同寺の什寶となれり

○大願寺 同郡佛性寺村にありて古刹なり初め佛性院と云ひまた橋本寺とも稱ふ、後に日蓮宗となりて瑞光山と號す、今は諸人この寺を瑞光寺と稱へ子の無き婦人は此寺に詣て、妊娠の祈願を籠める事あり、本尊は釋迦佛なり、境内に橋柱地藏尊を安置す、この地藏の長は五寸計りにして、後一條院の御宇に長柄の橋柱の水底より揚りしを帝に奉つりければ佛匠に命じて地藏尊に造らしめたまひしもの由なり、また堂前に鯨橋と云がありて寶曆年中紀州熊野浦より寄附じたる鯨にて初めは橋板も鯨なりしが、今は朽損じて板石と

かはり高欄のみに鯨の腮の用ゐられたり

○江口の里の君堂 日蓮宗にて寶林山寂光寺普賢院と號す尼僧寺にて江口の君の像は本堂に安置す、境内には西行塔、江口君の墓あり、西行の眞蹟の和歌あり

○大阪府下の四公園 天王寺、濱寺、住吉、箕面の四ヶ所なり、住吉と天王寺は別項に記載したるが他の二ヶ所は方角に分ちてその部に掲ぐべし

○府下泉北、泉南(和泉國)二郡の部

この二郡中なる名所舊跡は左の如し

○家原寺 泉北郡八田莊村大字家原にありて高僧行基菩薩の出生の地なり、文武帝の

慶雲元年自ら發原を拓いて精舎を創めたるもの是れなり

○百舌鳥神社 同郡西百舌鳥村大字赤畑にあり、祭神は應神天皇にして、百舌耳原の

古跡なり

○大鳥神社 同郡鳳村大字大鳥にありて官幣大社なり、祭神は日本武尊、創建は尊

の陵と同時なり、例祭は八月一日にして堺の大濱なる御旅所へ渡御あり、今の社殿は徳川

時代に造營せしものなるが、社内には老樹叢生して幽寂なり

○信太森 同郡信太村にあり、信太の萬の葉稻荷によりてその名高し、この森の中に

は大樟樹あり、例年三月の初午に參詣人多く、南海鐵道は臨時停車場を設くる程なり

○穴師神社 同郡穴師村大字豊中にあり、祭神は天忍穗耳尊、携幡千々姫命の二座な

り、千年以上の古社にして社の南一町計りの處に寶龜年間海に漂ひ來たりし藥師佛を安置

せる藥師寺あり、大津停車場より十町なり

○濱寺公園

同郡濱寺村と下高石村に跨りたる海濱にあり、古へ高石の濱と稱したるは此處なりと、濱

寺の名の起因と云ふは元享年間僧三光と云へるが後醍醐帝の管顧を得てこの處に大雄寺と

云ふ寺を建てし事あるゆゑなりと、此地の風景は今更こゝに贅筆を採るまでもなく頗ぶる

佳なり、園内には旅館、割烹店、賣茶店等あり、夏季は殊更遊客多し、南海鐵道濱寺停車

場は直ぐこの公園に接して便利なり

○久米田寺 泉南郡久米田池の邊りにあり、久米田池は門前にあり

○牛瀧山大威徳寺 同郡牛瀧村にあり、眞言宗にして本尊は大威徳明王を安置す、

この山は紅葉の名所にして名高く秋の末には紅の錦織が如くにして、麓より照かやく紅

葉は坊中の書院に映じ、寄絶壯觀また類ひなし

○水間寺 同郡水間村にあり、龍谷山と號して世に名高し

○犬鳴山 同郡大土村大字大木にてこの山は紀の國との境にして高山なり、山間の風

景甚だ佳なり、山上には名所舊跡最も多し

○金熊寺 同郡東信達村大字金熊寺にありて、南海鐵道梅井驛停車場を距る二里計り

の處にて寺の後の山には梅林あり

○府下三島郡の部

その重なるものは

○勝尾寺 豊川村大字粟生にあり、眞言宗にして本尊は栴檀香木の観音なり。西國三十三所の中、第廿三番の札所なり、天平年中の開基にして源頼朝再建せし寺なり、寺中には紅楓の大樹多く秋の末には笑面山よりこゝに來たる觀楓客多し、

○惣持寺 三島村にあり、眞言宗にして此寺の本尊も十一面觀音なり、西國廿二番の札所にして寛平二年藤原山蔭の創建、一條帝の勅願所なり、寶物頗る多くして由緒ある寺院なり

その他當郡に名所多けれどこゝには略す

○府下豊能郡の部

○久安寺 細河村大字伏尾にあり、眞言宗にして神龜二年行基の開基なり、後弘法大師の住する所たり、近衛帝の勅願所にて昔は僧坊千戸に及びし大寺院なりしと

○池田町 是當郡中繁花の市街なり

○木の部 池田町に接近し牡丹の名所なり

○妙見堂 吉川村大字野間にあり、多田滿仲の孫源頼國、長元年中この地に移りしとさ勸請せるものなり、日々參詣人多くこの堂は海拔千七百尺の山頂にあり

○箕面公園

阪鶴鐵道池田停車場より五十町計り箕面村にあり、全國にその名を知られし紅葉の名所にして廣さ八十五町歩餘、山を包み谷に臨みて風景絶佳なり

箕面の瀧は高さ十一丈一尺、幅三間餘にして飛沫雪を噴きその眺め凄然たり
瀧安寺は笑面山を號しこの寺の庭にもまた紅楓多く秋の末は文人俗客の別なく杖を曳きその雜沓は云々計りもなき有様なり

○服部天神社 中豊島村大字服部にあり、祭神は女毘古那命、天滿天神の二座にして昔より脚氣患者が信仰し、同患者はこゝを避療所と爲せり

○府下北河内郡の部

○佐太神社 庭窪村大字佐太にあり、祭神は菅原道真、創建の年月不詳、寛永年中永井尚政新に社殿を造營す

○蹉陀神社 蹉陀村大字中根にあり、祭神は菅原道真、神体は菅公自作の像なり

○星田の妙見 星田村にありて、小松神社の在る山なり、山の前には櫻楓ありて春秋は佳景なり、山の邊りには鮎返しあやかへしの瀧あり

○四條畷神社 四條畷飯盛山の麓にあり、祭神は楠正行及び一族の靈なり、明治廿二年の創建にして別格官幣大社なり、境内には櫻、躑躅の花多くまた眺望佳なり、正行の墓は本社を西に距る事九丁の所にあり、關西鐵道四條畷停車場より九丁

○野崎の觀音 四條村大字野崎にあり、印度波羅奈國觀音を移したるものにて境内の小池を波羅奈澤と云ふ、例年四月には無縁經と稱へ數日の間法要を營み大阪市中より詣ずる者頗る多し、これを野崎まいりのまきまいりと云ふ

○府下中河内郡の部

○石切劍箭神社 大戸村神並の南にあり、祭神は饒速日命にて古社なり

○枚岡神社 枚岡村にあり、官幣大社にして祭神は天兒屋根命なり、神武天皇初めて命を祭りたまひし以來の舊社にて今の社殿は豊臣秀頼の再建に係る、境内の南西に梅林あり、花期は節を曳く者多し

○瓢箪山の稻荷 枚岡南村大字四條にあり、近年信徒を増し瓢箪山の辻占とてその名

高くなりたり

○木村長門守の墓 八尾町より一里餘西郡村にあり、元和の古戰場なり

○物部守屋の墓 將軍寺龍華村大字太子堂の東一丁計りの道傍にあり、今の碑は明治二年、堺縣令なりし小河一敏の建つる處なりと

○顯證寺 久寶寺村にあり、眞宗にして文明十一年蓮如上人の開基、俗に久寶寺と云ふ

○府下南河内郡の部

○觀心寺 川上村大字寺本にありて高野鐵道長野驛を距る凡そ半里餘の處なり、眞言宗にして文武天皇の御宇役の行者の開く所、初めは雲心寺と號せしを弘法大師暫らく錫を停め觀心寺と改めたりと、由緒ある古刹にして寺中に楠公の首塚あり

○金剛寺 天野村大字天野山にあり、三日市村より一里十五町にして、行基菩薩の再建本尊は大日如來なり、境内には後村上天皇の觀月亭あり、當寺は由緒ありて寶物もまた頗る多し

○光瀧寺 高向村大字瀧畑にあり、融通派念佛宗にして本尊は不動明王なりこの地幽

遷にして附近には四十八瀨あり、避暑には好適の處なり

○安福寺 玉手村大字玉手にあり、河南鐵道道明寺停車場に近し、行基菩薩の開基にして、境内の風景佳なり

○道明寺 道明寺村にありて、本尊は十一面觀世音、菅公の一刀三禮の彫刻なりと云ふ、初め土師寺と稱せし由、當寺は彼の菅公の伯母覺壽尼の住せしを以つて世に名高し、當寺の名産は糯にてこれを道明寺糯と云ふ

○土師神社 同村にありて以前は道明寺の天神と稱して名高し、祭神は菅原道真、天穗日命、覺壽等を祀れり、毎年三月廿五日は菜種御供の祭典を行ひ參詣人頗る多し

○譽田神社 古市村にあり、祭神は應神天皇、仲哀天皇、表筒男命、中筒男命、底筒男命、神功皇后、八后神を祭る、由緒ある古社なり

○壺井八幡宮 駒ヶ谷村大字壺井にあり、祭神は仲哀天皇、神功皇后、武内宿禰を合祀す、源頼義の勸請にしてその神像は源義家の刻みしものなりと傳ふ、寶物には源家重代楯無の鏡、楠公菊水の旗をも藏せり

其他各郡中こゝに洩れし名所舊跡あれを略して記さす、いでや是れより堺市を案内すべし

○堺市の部

○水族館

水族館は大濱公園(舊砲臺)の後にあり、二階造の西洋館にして階下に養魚槽を設け、階上を休憩所とす、水族館の前には福羽逸人氏の意匠に成れる佛蘭西式美麗なる庭園を設け、壯大なる噴水器もあり、此館の建坪は二百八十八坪、水槽は十二坪餘、養魚槽の設備は理學博士飯島魁氏の考案に成りて新機軸を出し、魚族の生活する眞景を示すの趣向にて、巖石の有様は彼の保津川の實地を移せるものなりと、その中央の魚槽は甲乙二種に分ちたる裝飾にて、實に美麗なり

○堺市の名所舊跡を掲ぐるに先立ちてこゝに同地の重なる産物を掲ぐれば

○双物類 ○段通 ○木綿 ○酒 ○醬油 ○玉簾 ○水晶玉 ○煉瓦 ○線香 ○足袋 ○櫻鯛 ○芥子餅等なり

○大濱公園

元は堺の新水門と云ひし處にて、近年公園となり高樓美麗なる割烹店兼旅舎軒を並べ、四時ともにこゝに來りて遊ぶ人多し、公園は南濱の浪打際にて燈臺のある處なれど、北公園

と稱し我島の方も近來追々開け行きてこゝにも料亭、掛茶屋あり、四月の汐干にはこの北公園に來たりて蛤を探る人夥たし

○開口神社 甲斐町の東にあり、祭神は事勝食勝國長狹命、元は眞言宗密乘山念佛寺と云ふ靈場にて俗に大寺と稱せし處なり、末社には辨天、天満宮、金比羅、船玉社、外宮

大神宮、内宮太神宮、蛭子、大黒天、稻荷、荒神、秋葉權現等を祀る、また境内には金堂、三層塔、鐘樓、食堂等あり、此社は常に繁昌し、近年この南門の傍に大寺餅と云ふを商ふ家ありて名物となりたり

○宿院 開口神社の南にあり、住言神社の御旅所なり、この境内には劇場(卯の日座)及び寄席また観物小家などありて賑はし

○方違神社 高野鐵道堺停車場より一丁東にあり、末社に入幡宮あり、方違とあるより方違と讀み轉宅を爲すものはこの神に詣で、方除の祈禱を請ふ者多し

○向泉寺 市之町の東にあり、三國山と號し眞言宗なり、本尊の千手觀音は鞍作鳥佛師の作なり、方違神社はこの寺の境内なり

○南宗寺 旅籠町の東にあり、紫野大徳寺に屬する禪宗なり、本尊の中央は釋迦佛、左に文珠、右に普賢、また左脇檀は達磨大師、右脇檀は梵天王、毘沙門天、摩利支天なり

開基は正覺普通國師大林和尚にて中興は澤庵和尚、當寺内には牡丹花宵柏の塔、一開齋紹圃の塔ありてこの石塔に耳を當れば湯の沸る音の聞こゆると云ふなり、その他千利久の塔もあり、當寺には利久の室茶ありて世に名高し

○海會寺 南宗寺の境内にあり、禪宗にて宿松山と號す、正暦元年の創建なり

○大安寺 南旅籠町の東にあり、禪宗にして佛殿には聖徳太子の作長一尺八寸の聖觀音を安置せり、當寺の方丈は元堺の町人納屋助左衛門なる者の居宅なるが、この助左衛門はその身富有なれば書院には七寶を鑲め庭には珍木奇花を植ゑ利久の好みに隨ふ、あるとき松永久秀こゝに來たり、その美麗なる處を見て一として缺くる處なし、滿れば災ひ生ずとて刀劍を以つて柱を打つとの痕今に遺りありて名高し

○少林寺 少林寺町の東にありて禪宗なり、本尊は阿彌陀佛長一尺餘の座像なり、開基は桃源和尚、元徳年中の建立なり、當寺は初め小林某と云へるが檀越として創建せしゆゑ小林と書したるを、達磨大師の少林寺に表して少の字に改めしとぞ、境内に通心靈祠と稱ひ稻荷を祭りし祠ありて釣狐の社と云ふ、永徳年中に耕雲庵と當寺の塔頭ありその住僧を白藏主と云へり、この僧日來より稻荷の神を信仰して毎日法施怠らず、或とき明神の感應にて竹林より三足の白狐現れ出しを抱き歸りて養愛せしにこの狐靈あつて隨仕の用を達

しまた盗難を避る事あり、伯藏主の甥に獵を好むものあり、彼の白狐この者を恐れ伯藏主の姿に化けてその甥の家に行き、殺生の罪をさましく語り戒めけるを此男は敏くも狐の化け來りしを知り密に道に出で術を盡し却つてその狐を獵しけるとなり、之れを狂言師大藏は狂言に作りて釣狐また吼嚙とも命けたり、今も尚はこの狂言を演ずるときはかの白狐の棲し竹林の小篠を伐つて杖となす事この狂言の故實なるよし

○引接寺 少林寺の北隣にて時宗、勅願山と號す、當寺も由緒ある寺にて名高し

○旭蓮社 寺地町の東にあり、淨土宗中華廬山派の一本寺鎮西流義なり、甘露山大阿彌陀經寺と號す、本尊は上品阿彌陀佛にて開山澄圓上人の作、長は丈六なり、佛還上人の塚は蓮池の傍にあり、この蓮池は本堂の前にありて池には多くの蛙棲めども曾て鳴さし事なき由なり

船松神廟と云ふは當寺の鎮守にて神功皇后異國より歸朝の御時軍船九艘を松に繋ぎたるより船松の名ありて舊跡なり、旭蓮社に就いての所謂あれを略す

○祥雲寺 宿院の東にありて禪宗なり、佛殿は聖觀音の座像長三尺計り、左に達磨大師、右に澤庵和尚、また開基は澤庵和尚なり、方丈の庭中には名高き五葉松あり、枝葉左右に流れて六七間ばかり、高さは一丈五尺、笠五蓋を重ねし風情あり、また南の庭中には

蘇鐵の大きなものあり、

○菅原神社 戎町の東にあり、祭神は菅原道真、元は威徳山常樂寺と云ふ大臺宗の寺院なり、社内には影向の梅あり、末社には荒神、大黒天、梵天王、春日、多賀、熊野、蛭子、八坂、辨天、稻荷、船玉、愛宕、八幡、金比羅等の祠あり、その他伊勢兩宮、白太夫社等もあり

○東本願寺の別院 同町にあり元は東門跡御坊羅漢院と云ふ、本尊の阿彌陀佛は聖徳太子の作なり

○妙國寺 材木町の東にあり、廣普山と號し日蓮宗なり、當寺の庭中には世に名高き蘇鐵の大株あり、一根地上にて十有餘株となり四方に繁茂して大枝は二十三本、小枝は七十本以上、周圍は二丈五尺、高さ二丈餘なり、この蘇鐵二百數十年殆ど三百年の星霜連綿として堺市の名物なり

○本派本願寺別院 神明町の東にありて元本御門跡御坊信證院と云ふ、當院の開基は蓮如上人なり

○神明社 神明町にあり、祭神は兩太神宮にして例祭は七月十六日と十月十六日なり

○七堂濱

北莊の西濱と云ふ、古へ高瀨寺の七堂伽藍ありし舊跡なりと言傳ふ

○善長寺

神明町の東にありて淨土宗なり、當寺は三好善長の由縁ありて將軍松と云ふ古木あり、敵の首をこの松が枝にかけて酒宴を開き軍卒の勞を慰さめしと云ふ

この外に尙は記載すべき寺院また舊跡あれどもまづその重なるものは前記の如くなればその餘は略し、更に擧げて古來名譽の人物を撰みてその名と略傳を載すべし

○牡丹丹

具平親王の遠孫にて早く俗塵を離れて宵柏と號し、また自ら牡丹花と稱せり、人これを呼ばは喜んで書を讀み和歌を詠じ、豫て連歌を善し、後に攝州池田に卜して夢庵と云ふ、牡丹花を栽培して樂しむ、その後再た泉州に居を移し遂に大永七年四月に卒す、骸を南宗寺に葬る、年八十五なりと

春さかぬ花やこゝろのふかみ草 曾 栢

○千利久

南莊今市町の人なり、初めの名千の與四郎、薙髮の後千の宗易また拋筈齋と云ふ、十七歳の頃より茶道に心を寄せ、道陳に従ひて名を得たり、道陳あるとさ、紹鷗へ物語りの序に、與四郎と云ふものありて茶道に心を籠めてとさ、く來りけるが數寄の道見悪からず、雜談もやさしく聞ゆるなま、語りたるに、紹鷗は然らばその者に茶を呑せんとて、夫れより常に妙手を傳へけるこれよりして利久の名天下に高く世の人の崇

敬せる事とはなりぬ、利久居士の名は太閤秀吉より賜はりしものなるが、その後讒言の事ありて遂に滅びけるとぞ

○鼠樓栗新左衛門

南莊目口町と云ふ所に住して刀鞘師なり、細工に名譽を得て刀の鞘口ソロリと能く合ふゆゑこの異名を得りしとがや、その上口輕き男にて頓智斷しの巧手なりしが、秀吉に召出され常に伽を爲し、また詩歌をも嗜みてこゝろも優しく、或どさは狂歌など詠じて人を笑はせる事の多かりしと

指先でつまみたまひし富士の山

天下をたもつ御ちからなり

朝鮮征伐のとき御渡海連日ありければ

秀吉が一石米を買ひかねて

けふも五斗買ひあすも御渡海

また新左衛門病氣に罹り危篤なる事を秀吉に聞ければ、上使を下され何事にも望みはなさかと思ふなる上意ありければ

御威勢で三千世界手に入らば

極樂淨土われにたまはれ

○瑞溪和尚 諱は周鳳、臥雲山人と號し、また北禪と稱す僧祿司なり、善隣國瑞起を撰んで世に行はる。

○三好存保 十河民部大輔一存の子なり、三好長慶が命に隨ひ堺に住して、和泉河内の政事を執行、政所の始祖なり、その後阿州勝瑞の城に居して長曾我部宮内少輔元親と戦ふ夫れより秀吉の命に隨ひ豊後國年滿に赴く、遂に天正十四年十二月十二日に討死す、齡三十三歳なりしと。

○喜多七太夫長能 市の町中濱の産にして北莊、櫻町の住し幼名は八之丞、父は願教と云ふ醫師なり、この長能の兄を萬之丞と云ふ、また七太夫は幼年より同じ堺に住せし勘太夫と云ふ能師の弟子となりて舞曲の妙手を得たり、その後この喜多流天下に弘まりたり、七太夫は豊臣秀頼に召仕はれ遂に大阪の亂に討死す。

○車屋道説 元は今春太夫が弟子にて車町中濱に住し、師傳の中より一流の唱句を撰び、自ら書して彫刻し世に弘む、これを車屋本と云ふ、元は七十五番なりしを新に加増して百番の謡曲本と爲す。

○土佐久登 繪畫の名人にして天正年間の人なり、その子を源左衛門と云ふ、また合弟土佐將監光起は寛永年中より京都に住す。

○沅南江 諱は宗沅、字は南江、濃州の人なり、洛陽相國寺雲溪和尚の上足にして永享四年、堺南莊葦原の海濱に草庵を結び自ら無庵と號せり。

○木戸作右衛門 小西行長の家士にして朝鮮國に於て武功ありし人なり、後主殿頭に任せられ、その支族今も尚ほ堺市にありと云ふ。

○甫竹 茶杓の細工に名を得、彼の利久より傳授を受け又古田織部の習ひを受けて世にその名を知らる。

○蓮歌師宗椿 牡丹花の門弟にして歌道に志し深く、道通院殿にもときぐ調し又源氏物語を書寫しける事二十部に達りと云ふ。

○今井宗久 永祿八年茶器を平信長に獻す、天正六年に茶を獻せし事あり、同十三年秀吉洛の北野に茶會を催すこのとき堺津の茶道家の珍器を座間に置しめしが、宗久が秘藏の茶器第四番となりしと、その子宗薫ついでて茶道を善す、この父子は實に茶道を善くするのみにあらず時に臨んで忠節なるより所領千三百石を賜はりしとぞ。

○松井友閑法印 信長の刺史として堺にあり、元龜元年四月信長濃州より上洛し、京都に於て名物の茶器を上覽あるべしとて、此法印と丹羽五郎左衛門尉長秀の兩人に仰せ附けられ、これを奉行す、また高野山へ武士三千人を遣はされけるときもこの法

印にその魁將を命せられたり

◎岐翁 一休和尚の弟子なり、あるとき師命に背き擯出せられ堺の津市の町六間筋に住んで集雲庵と號す、その後一路居士と宗祇法師を懇んで師の勘當を免されける、一休然らば我大刀持にすべしと云ひしより、今に一休の肖像の傍らに大刀持はこの岐翁なり

◎松山新助 永祿年中三好家にあつて爪牙の臣なり、その初めは本願寺の番士なりしが天性優にやさしく物事まめやかにして萬の裁判諦かなり、その上に小鼓、尺八、早歌の藝に達し高家貴人へ立入りて酒間の興をたすく、稍もすれば戦陣に及ぶべきをこの新助が辯舌にて和を布きければ治りし事も多かりしと

◎意雲 園菴の巧手にて、可竹と號しまた陸隱とも云ふ、後土御門帝の時の人なり
◎泉南 商家に産れしも僧となり眞言律宗を修む、老後京師梅小路水藥師寺に住し、手跡を専らとし世に譽蹟多し

◎堺舜慶 數代堺の津に住居の人なり、尾州に赴き瀬戸にて茶器を製しまた伊勢にても製す、いづれも堺舜慶と呼ぶその子孫は利久居士の代まで堺に住居しけることぞ

◎道陳 船松町北向と云ふ處の産なるが數寄の道を執心したる初めは洛陽東山銀閣寺に慈照院義政公をしますと云ふ、その茶道に、能阿彌、相阿彌と云ふ二人の者あり能阿彌

老後にこの堺の津に來りし空海と名を改めける、世の人これを聞きて弘法大師と同名なりと難じたるに空海答へて世には釋迦院また阿彌陀寺とさへ附けるに弘法の名なりとて何か苦しからんと云へり、また大林和尚の徒弟となる、道陳が家は元來富有にして財寶珍器田畑まであまた持けり、紹興と心を合せ南宗寺と再興せり

◎高三隆達 元日蓮宗の僧にして堺顯本寺に住す、故あつて還俗し藥種を商ふ、年を経て小歌節の一流を謳ひ出し世に隆達流とて持譽されたりと
◎宮尾道三 今春及連の家人にて、今春流の謡の中より又一流を謳ひ出し、これを宮尾流とて世に用ひらる、然のみならず利久に隨ひ茶道を嗜む、この人の女は即ち利久の室となる

◎遊女地獄 北莊高須に住せし遊女にてつらく思ふに憂き川竹の流れの身となる事前世の戒行つたなきゆゑなり、未來も地獄にや落ちざるらめ、せめて懺悔の爲めに名を地獄と附けて阿責の罪を今の世にて進れ、後の世は安養淨土に生れ、美しさに佛とならんとは口には風流の唱歌を誦へど心に佛號をとなへて彌陀の誓ひを願ふ、その名世に高く一休和尚もこれに來たり、この遊女を見て

さしより見ておそろじき地獄かな

一休

こゝろの鬼に手びさせられて

避女地獄

○惠藤源左衛門 横笛の上手にて北莊矢藏下町に住す、その頃常樂寺の成就坊が什寶に名笛のありしを所望し我師匠の中村備中入道一噌と云ふ者の教へを受け、京指田に直させ常樂寺に能わりしとさその笛を継ぎければ、金室に響きて軒の瓦落けるゆゑ、名譽となりこの事近衛殿に聞は笛の記を書せられ、銘を瓦落と號られしと
○一節道清 鞍の胴をつくりて商ふ、塗胴は鳴劣れりとて木地のまゝを用ゆ、世の人これを呼んで一節胴とを賞したり

○碁利玄 日蓮宗の僧侶にして碁の名人なりその名世に高し

○中象茶温故 妙國寺の境地法林坊に住して日蓮宗の僧侶なり、將某の名手にてその名高く、法橋宗知と勝負して二回の勝を得たりと

○九鬼右馬頭嘉隆 信長の命にて堺に來り兵船數多を掌る

○鉢鍛冶宗鐵 甲の鉢鍛冶の名人なるが利久の頃より數寄屋の鐵物の細工を爲し名譽ある人なり
また堺に舞入一休と云ふ面白き話あり、和尚が住吉林業庵に住たるころ、堺の津甲斐町中濱に扇屋甚右衛門と云ふ者と懇意になりてとさく立寄る事あり、この甚右衛門の家は

貧にして何事も不自由なるを憐れみ扇の地紙を取集せて烏の繪を書き、また銀臺の蓋などを書きたまふ、世の人はこれを賞玩し買者市をなせければ暫時にして徳づき大福長者となりける、俗諺に一休和尚は扇屋へ入舞したまひしと云ふ者ありしと、その頃某はこれを興じて

一休が黒ころも着て舞入は

扇にかいた鳥なるらん

尚ほこの堺市に因める古事も多けれど略して記さず

今回第五回内國勸業博覽會開設に付き各地より大阪に來たられる人々の爲め不都合なからしめん事を主とし大阪旅協會なるものを組織し夫々規約を設けたるが、こゝには四區内加盟旅館を記載すべし

○東區にて北濱、今橋、大川町	多景色樓	寶田寅之助
○その他船場一般の部	金仁樓	金澤仁三郎
北濱一丁目	高麗館	山田たせ
伊賀喜	西村喜助	川村屋
同	同	川村
同	同	川村
同	同	川村

末吉橋二丁目 井筒屋 宮本 九兵衛
 同 四丁目 芳雲館 増田 辰次郎
 ○同區 八軒家 上町 玉造 清堀の部
 京橋二丁目 和泉屋 三村 福松
 同 三丁目 大和屋 谷村 彌平
 同 同 竹廣屋 福田新左衛門
 同 同 檜波仁 今井 仁兵衛
 同 同 今彦 今井 彦兵衛
 同 同 山熊 阪井 恒太郎
 同 同 北餅屋 大村 留吉
 同 同 南餅屋 中島 留吉
 同 同 高麗橋詰町 北川 留吉
 同 同 船越町二丁目 小田 辰藏
 同 同 農人橋詰町 小田 辰藏
 同 同 谷町一丁目 小田 辰藏

谷町一丁目 永田 ふさ
 同 三丁目 早川 とう
 同 五丁目 那須 嘉三郎
 同 九丁目 大和屋 西谷 甚三郎
 上本町六丁目 花月亭 小野木 政吉
 幸相山町 春春楼 小西 市松
 ○西區にて土佐堀 江戸堀 京町堀の部
 土佐堀通一丁目 永井樓 永井 仙太郎
 同 二丁目 中西 澤次郎
 同 同 國本 鶴藏
 同 同 山田 鶴藏
 同 同 備中屋 山田 鶴藏
 同 同 天王寺屋 西宗 鶴藏
 同 同 梶屋 武内 鶴藏
 同 同 環龍館 後藤 泰一
 同 同 播磨屋 津田 松助

(五五)

南久太郎町三丁目 紀の文
 北久寶寺町一丁目 山崎 文助
 同 同 黒田 舜太郎
 同 同 矢野善右衛門
 同 同 伊丹 與助
 同 同 加納 雄三郎
 同 同 塚本 音吉
 同 同 小川 保松
 同 同 森岡 つね
 同 同 池田 勘七
 同 同 河合 篤三郎
 同 同 但馬屋 今津 寅吉
 同 同 中國屋 原田 政助
 同 同 川崎屋 永田 政助
 同 同 福岡屋 雜賀 常吉
 同 同 含輝樓 安場 かな

横堀三丁目 大西屋 大西 利作
 同 同 兵庫屋 川畑 甚三郎
 北渡邊町 厄ヶ崎屋 尼崎 太録
 上難波北之町 北村 なを
 同 同 薩摩屋 加賀山善兵衛
 同 同 八人南之町 山川 利兵衛
 同 同 順慶町一丁目 貴田 榮三
 同 同 丸五 佐伯 さよ
 同 同 松本 やつ
 同 同 古川 安治郎
 同 同 篠田 かく
 同 同 竹本 宗吉
 同 同 住の江源藏
 同 同 和合舎 田中 仁兵衛
 同 同 泉屋 泉林 之助

(五十四)

西長堀北通五丁目 日高屋 楠市太郎
 南通一丁目 日高屋 中村ひる
 北堀江上通一丁目 小泉屋 稲葉健八
 下通一丁目 菊盛館 中川さく
 北堀江通一丁目 吉六 澤口さし
 二丁目 岩田屋 吉田六兵衛
 三丁目 加賀伊 神田信吉
 北堀江下通三丁目 和泉屋 富田らく
 四丁目 泉吉兵衛 黒田やす
 武田武助 城山たさ
 北堀江一番町 浪華屋 岩崎秀
 三番町 同 丹羽よつ
 南堀江通二丁目 同

南堀江通一丁目 堺亭 土岐孝助
 四丁目 加賀屋 磯川真吉
 同 篠村さと
 同 山本はな
 南堀江上通一丁目 中川宗吉
 同 〇南區にて島の内道頓堀、日本橋筋、難波新地の部
 日本橋一丁目 榊屋 榊市兵衛
 河内屋 明石瀧十郎
 大和屋 天野たに
 伊達春 伊達はる
 川喜 公原喜太郎
 角屋 角脇さ
 同 吉田ひめ
 九郎右衛門町 同 戎屋 新保さう
 (七九)

同 山正松傳 鈴木傳次郎
 同 解屋 水原源吉
 同 米屋 岡本伊助
 同 三和屋 西本壽市
 同 田所徳馬
 同 富田屋 鎌田宗次
 同 天満屋 米倉せん
 同 播磨屋 濱田直八郎
 同 細喜 露重助
 同 細川駒三郎
 同 和泉屋 八田常次郎
 同 中島屋 鎌井さぬ
 同 同 内田まさ

阿波座上通一丁目 岩井樓 日下好
 立賣堀北通一丁目 丸八 八尾つや
 同 丸八 吉田春吉
 同 南通二丁目 九山 後藤與七
 同 和泉屋 和泉ふく
 同 豊田屋 山中馨
 同 三丁目 村上しげ
 同 四丁目 吉本みつ
 同 五丁目 川島芳太郎
 同 浪花館 二宮あつ
 同 鶴島屋 川島芳太郎
 同 新町南通三丁目 善光江龍
 同 新町南通五丁目 井筒たか
 同 西長堀北通一丁目 小泉利助
 同 同 今西喜藏

(七六)

目) ▲造幣局(北區川崎町) ▲大阪郵便爲替貯金管理支所(東區京橋三丁目) ▲大阪海軍局(北區中之島) ▲大阪大林區署(東區内久寶寺町二丁目) ▲大阪小林區署(同上) ▲大阪稅務監督署(北區中之島四丁目) ▲中之島稅務署(同上) ▲船場稅務署(東區北久寶寺町二丁目) ▲大阪稅關(北區富島町) ▲大阪專賣支局(南區難波) ▲大阪控訴院(北區網笠町) ▲大阪地方裁判所(同上) ▲大阪區裁判所(西區土佐堀四丁目) ▲大阪衛生試驗所(東區京橋三丁目) ▲大阪痘留製造所(南區天王寺)

尙は陸軍部内及び、前記諸官衙の支所出張所等もあれど略す
 ○尙は大阪に來たりし他國人の便を謀りて、左に各種の商家の集まりし所その他必要と認むる事を掲ぐべし

まづ市中にて第一の繁華と云へば既に別項にも記載せしが心齋橋筋なり、この心齋橋筋も順慶町より北へ平野町までは御商店が重にてその中にまた小賣店もあり、書籍商、時計商、舶來品を商ふ家また多し、順慶町より南心齋橋と戎橋までの間尙は戎橋を南に渡り南海鐵道難波停車場の邊りまでは小賣専門の店多し、青物市は天滿市の側の第一とし木津、難波、北野邊が重なり、魚市は難波場を本場として天滿市の側の長通、難波、九條を重として尙は各所にあり、乾魚は靱を第一として東堀、博物館前より北、材木は

西横堀、西長堀、新炭の類は西長堀、南堀江等に集まれり、藥種は道修町、解船板は阿波堀筋、古着商は座摩の前筋より佐野屋橋筋一帶、天滿の裏門筋、堀江にもあり、古洋服は谷町筋、諸道具(建具もあれ)筆筒長持その他世帯道具また骨董類は八幡町、南堀江の字橋通り、船場下は井池筋、上町にては御板筋、北にては天滿裏門筋の西にあり、藍玉は北堀江、陶器類は西横堀の西河岸一帶、草と竹細工の類は唐物町、佛具は難波の類は御堂筋またこゝに履物の花結を商ふ家も多し、砂糖は堺筋、大物商は本町にて洋反物商も多し、鯉節は新町南通りの西鯉座と云ふ處、雜菓子問屋は松屋町に難波に九條の新道にもあり、煙草入は淀屋橋にてさせるは四ッ橋なり

○大阪とその附近にて四季の眺めと遊覽の場所を案内すればまづ概畧は斯くの如し
 ●梅の花、浪花の地は昔より梅の都とまで稱はれし程なれど、さて梅の花を見んと思へば一向にこゝぞと云ふ程の處はなし、然れど昔より名に高きは上本町通りにて舊の梅やしきなりこゝの梅はさすがに古木多く花期には節を曳く人多し、新梅やしきと云ふは東高津の福喜園の事にてこゝの梅は若木多し、高津神社の境内にも少しあり、夕陽丘は流石にまた一層の眺めあり、天王寺の公園の南にも數十の梅樹あり、その他は強て案内する程の處もなし、市内を離るれば河内枚岡神社の境内に梅林ありこゝは大阪より四里

計りなれど道は平坦なり。岡本の梅林は官線下りの瀟車に住吉(三)の宮の東の停車場より下車すれば数町の處なり。大和にて有名なる月の瀬へは關西鐵道湊町發の一番にて行き上野にて下車して往復の人力車を雇ひ行けばその日に歸らるゝなり。

●桃の花 天王寺の桃山にありこれまた見事のものなり。官線上り吹田驛にて下車すれば數町にして佐井寺山に澤山あり。大和の阿田が峯にもありこゝへ行くには關西線にて高田に行き南和線に乗かへて葛驛にて下車すれば一里餘の處なり、これも日返りの出来る處なり。●また伏見の桃山も名高し。

●摘草 北野より十三堤、また森の宮附近或は櫻の宮の北、天王寺邊も面白し。

●菜の花 櫻の宮より東を眺む處、十三堤、北野、浦江、櫻島のあたり。

●櫻の花 櫻の宮と造幣局の前、生國魂の社内、天王寺の公園、中之島の公園、高津の社内、また糸櫻は北にて鶴瀨寺、南にて隆專寺。●京都と奈良は云々までもなく吉野へも瀟車の便にて行けば容易なり。

●汐干狩 尻無川に櫻島、住吉浦に堺の大濱は賑はし。

●藤の花 西野田の春日の社内、北野の太融寺、生玉西照館、天満天神の龜の池、北野の茶屋ぐゝに多し。

●菅 浦江の丁徳院、住吉、天下茶屋にもあり。

●牡丹 高津の植木屋吉助の庭園、博物館の庭園。●阪鶴鐵道にて池田に行けば名に高き木の部また山本など頗ぶる多し。●また大和長谷寺にも名高き花多し、こゝへ行くには關西線にて櫻井に行けば同驛より一里の處なり。

●若葉 茶臼山、紅葉寺、天下茶屋また瀟車にて奈良の公園に行けば一層の風情あり、笑面の新緑もまた佳なればこれも阪鶴線にて池田に行きこゝより五十町餘なり。

●逆の花 浦江、生玉、天王寺、住吉をはじめ北野の鶴の茶屋にもあり。

●牽牛花 これは別に見に行く程の所とてなけれど、博物館の庭園には多く培養しあり、また時々同場には朝顔會あり。

●秋の花 天王寺の公園、上の宮、中之島豊國神社の境内、浦江、北野にては圓頓寺に東光院の庭、櫻の宮にもあり。

●菊の花 天王寺、梅やしき、東高津の翫菊庵、福喜園、博物館の庭園にもあり。

●紅葉 これも大阪にては見るべき處とてなし強て案内すれば天王寺、茶臼山、紅葉寺などなり、箕面は有名の紅葉の本場なりまた例の瀟車にて大和の多武峰また奈良、京都へ行けば名所多し。

序に料理屋、飲食店の重なるものを案内すればまづ左の通りなり

(六十一)

●集會なごに適當の家は中之島の大坂俱樂部これは和洋とも●同じく銀水樓●北新地東町
の靜觀樓●網島の鮎字樓●東區平野町の堺卯樓●備後町の備一亭●博勞町の魚利樓●
桃山の産湯樓●難波新地の明月樓●生玉の西照館●西長堀の岸松館●眞田山の香春樓●
川魚類にては北新地裏町の菱富この家は近年より海魚も扱へり●江の子島の伯太山●南
地にては東吳に伊勢萬に二々熊に九郎右衛門町の柴藤●備後町の富南貴●大川町の柴藤
に浪花橋の綱彦●心齋橋北詰のはり半(海魚もあり)●即席料理のうまいもの云へば北
濱の灘萬●江戸堀の槌田●南地にては南吉、日柄喜、みどり、東、入船●御靈筋の魚治
等なり●鶏肉にて名高きは大黒橋の北で大豊●松島の現長●道頓堀の鳥六●道修町の鳥
菊●新町橋の鳥菊●京町堀通り現長こゝは鰻の他の魚類もあり●牛肉は淡路町の改進
亭●新町橋東詰の北村●西詰の新門亭●淀屋橋の江戸安●南地の源氏●天麩羅は御靈筋
の梅月●すき焼は南地の丸萬に京興●西洋料理の重なるは中之島の大坂俱樂部●大川俱
樂部●北濱の天五樓●浪花亭●高麗橋筋の三好亭●内北濱の日本俱樂部●支那料理は川
口の豊樂園

この外にも數百軒あれを一一記すに遑なし

◎京都及び附近の案内

京都の名勝を記述するに當り、先づ讀者の注意を乞ひたきは、この小冊子よく、全都の名勝地を掲げ盡して、遺憾なきに廻さを得るや否や、といへる事なり。素よりその大略を記載するに止むれば、なし能はずとも言ひがたけれど、及ぶべくんば、詳細に且つ興味ある記事を挿さん事を期す。故にこの書の編者は、机に對してこの書を編するに當り己れ先づ遠國より旅し來りし一旅客の心となり、假に一二泊、多くも三泊を越さる程度に範圍内に於て、見物し廻り得るだけの重なる名所乃至舊跡を茲に記述する事となしたり。これ確にこな書の、他の凡百の案内記と異なるるところにして、彼の徒らに古書を抜萃して、眼に見て可笑しからず、心に感じて何等の得るところなき些々なる古跡のみを多く陳列したるものとは聊か趣を異にせるものなる事を信す。又一面に於て、日數と旅費とを儉約する利益あり、讀者の希くは諒とせられん事を。記事は先づ順序として京都の關門たる、七條停車場より始まる。

◎七條停車場 京都以東以西、乃至以北以南より、汽車に乗じて來る旅客の、必ず先づ茲に下車して、足一歩、始めて京都の地を踏むの關門なり。即ち大阪以西山陽線を経

(六十二)

神戸よりこの官線鐵道に乗り込み來りし旅客は山城の國の範圍内にては山崎向日町兩驛を經て。又東方東海道線を経來れる旅客は天津の南方馬場驛を通過して茲に。又北方京都鐵道(京都園部間)を往復する旅客にて京都鐵道株式會社の私設にかゝる(より來る旅客は、丹波龜岡、山城は櫻の名所嵯峨、嵐山なを經、二條、丹波口兩驛を通過し茲に來る。)

(注意、この鐵道によりて北方より來る旅客にして、もし未だ京都に初對面の客ありとすれば、二條もしくはこの七條驛にて下車するを便とす)

また南方奈良鐵道(京都奈良櫻井間)を往復する旅客にして沿線には伏見桃山宇治驛なをいへる名所地に停車場あり別に又この鐵道の終驛なる奈良よりは關西鐵道線路に接續して大阪、名古屋各方面に到る事を得べし、奈良鐵道株式會社の私線なり)より來る客も、此にその漸車旅行を終るものなれば、その繁華雜沓は想像にたも及ばざる程にて、晝夜乗降の客待合處に充溢し、場外には又電車人力車不絶客を待てり、地は東西の本願寺に近く、附近には旅宿軒を並ぶ。

旅客はこゝより電車なり、人力車なり、將た徒歩にても、そは隨意に先づ三條附近に到るある旅館に投するものと假定す。この附近に旅宿を求むるも心任せなれど、十中の六七、單に兩本願寺の參詣客ならざる限りは、三條邊迄歩を延して宿泊するが例なればわれも。

又假にこれに習ふ事とすべし、さればこれより案内せんとするは、三條附近を中心とせる各所の名所なり。

◎舊御所 畏くも今上陛下御降臨の御地にして歴代の天皇が御起居をなしたる御場なれば、何は措きても先づこの御所より拜觀せざるべからず。御所は二條通りの北、御苑内の北部中央にあり。御苑を申すはこの舊御所の御外庭をいへるものにて、舊公卿御邸のありたるところなり。今は市民遊樂の公園地として、雪月花の覽めよきところなり。

◎仙洞御所 幕府が後水尾天皇の爲に造營せしものをいふ。御苑内の東部にあるものにして、その御庭園は諸人の拜觀を許可せらる。

◎三條大橋 三條通りは旅宿商店軒を並べ、頗る雜踏を極むるところなり。下に流るは有名なる加茂川にして、欄干の紫銅製擬寶珠は有名なるものなり、橋の東詰には京都府道程原標立つ。こゝを起點として諸方への里程を示す。この橋を渡りて東に行けば蹴上を通りて大津街道となる、東海道是なり。蹴上の以東以南、この邊り凡てを東山と呼ぶ、彼の蒲團着て寝たる姿を詠るはこれなり。

◎東山 花洛名所圖繪に曰く 東山は洛東山々の總名にして山城國愛宕郡より紀伊郡に係れり古くより東山三十六峰を

た西山四十二峰ありといへども何れの峰々を指してその數に宛たるか詳ならず
と入る實にその數の果して眞なりや眞ならずや詳ならずとするも加茂川の西岸よ
り烟籠たる岸邊の柳の梢を通して眺望したる、中にも花頂山、圓山、鷲ヶ峰、音羽山ある
は又豊公の偉徳を頌せる大石輪塔を祈れる阿彌陀ヶ峰等の翠微は四季を通じて何れの時を
善とも悪しともいはれず、實に言ひしらぬ好景なりかし。京都に入るの旅客第一の遊覽地
なれば、これよりこの東山を見るに足るべき諸名所を案内せんとす、その始めに三條橋の
かゝれる加茂川より先づ筆を執り始むるに、東山を關するところ多けれなり。

◎加茂川 洛北より流れ出る貴布禰川、岩屋川などいへる諸流の合にし都の東郊を過
る名高き川なり。往古より洪水の時は洛中に暴漲汎濫して庶民を苦しめたる事多ければ、
白河法皇が嘗て朕の心に任せざるもの、双六の采、山法師、加茂川の水と仰せられたるも
道理なり、雍州府志といへる書を見れば、加茂川北方雲の烟より出で水上村を経て上下の
加茂に出で、その間に石川、蟬の小川等の名あり、而して糺社の南に於て高野川と合す、
これによつて糺、或は河合と稱す、而して二條三條の橋下を過ぎ大和橋の西に於て白川と
合し(中略)第四第五橋小枝橋等を経て又桂川と合し淀橋の下に至つて宇治川と合し、遂に
浪華津に出で海に入る云々と書たるはよぐ簡にして意を盡したるものといふべし。

春夏秋冬何れを問はず、朝暮の覽めいと心ゆくばかり、水流漚々多からずといへども、その
水極めて清ければ、彼の都名物の一つに數へられたる友仙染を洒すも多かり、京の女の色
口も、又この川の水に磨き洗へばなりといへるも、強ち偽りにはあらずと覺ゆ、夏は
四條の納涼とて、江戸の兩國、浪華の大川と並び稱され三都の大納涼地として聞へたるも
此河の磯なりけり。編者が嘗て某誌の爲に筆を執りたる文あり。左に録して都繁昌の一斑
を示す。

紅の蹴出、かゝげし優しの女性が往來繁き花浴の納涼は、大江戸の豪壯なるとも異なり
又浪華永代濱の一時に幾何の黄金散らすそれとも異りたる優しの流れの磯原に、いさこ
川の流れの如き水音の耳にして、小田巻、茶碗ひしのいろく、都ならではなき夏には、
特殊の下物を呼で、酒や辛き、美淋、美淋や甘き柳かげ、それすら口紅の剣を厭ふか
ちほ口に、僅ににぎくくの握り飯抓ひも了得の心遣より、二人三人、或は五人六人、心
合るが打寄りでの酒宴、彼處にも、茲處にもと橋下の淺瀬に並び設けし床机の上に居並
びたる何れも湯上りの化粧のそれすら、他所に比してはやく厚き花の容貌を、そゝる歩
きの浴衣軽く、比叡下しといは、寒くも聞ゆれ、微酔の心地可笑しき旅鳥の浮れく、
河原に下立なる時見しこそ風情勝れて優しけれ、川の名を加茂と呼べるすら、直にそれ

を冠詞とせる加茂川千鳥、鳴音の可笑しさを聯想するが常なるに、往來人への大概が都育ちの優男、京は名所の美しいの婦人のみなるこそ萬事の名物に勝れる名物中の名物なるべけれ

◎インクライン 三條大橋を東に渡りて一直線に進けば、頓て疏水のインクラインに到るべし。インクラインとは水力電氣の力も船を陸上に昇降せしむる機械にして、彼の京都府知事たりし北垣國道氏の經營になれる江州琵琶湖より引く疏水中の一難所なりそこを過れば

◎南禪寺 石川五右衛門の棲たりと傳言ふる山門には二八の少女頼りと登覽を勤め、日本第一と稱する石の大燈籠には外人の舌を捲もあるべし、本堂は先年火災にかかりたるも新殿既になりて松樹の間に隠見せるところ捨難き覽めなきにあらす、一道松樹の間には別に山縣合雪侯の別邸、半熟の卵を以て名高き瓢亭などあり。是より北方に進みゆけば

◎永觀堂 あり、淨土宗西山派に屬する寺院にして境内の風景拾がたき趣なきにあらす、その北には、
◎若玉寺 避暑地として名高く

◎平安神宮 是舊第四回の大博覽會場の後方にあり、大極殿に模したる拜殿は人目を眩す、官幣大社にして桓武天皇を祀る。

◎黒谷光明寺 粟生の光明寺と稱す、熊谷の遺跡なり。

◎眞如堂 天臺宗。

◎銀閣寺 足利義政の別荘にして、二層の高樓は金閣を模したるものなり、この庭園は有名なるものなり。

◎吉田神社 神樂岡に祀る。古來より神樂、紅葉の名所なり、京都帝國大學、第三高等學校など亦この岡下にあり。

◎修學院離宮 山端の東にあり、林苑極めて幽遠閑雅なり。

以上を東山南禪寺以北の稍見るべき名所地なりとすれば、一銀閣寺、一神樂岡の吉田神社を除きては必しも見ざるべからざるどころを言へるものはあらず。去らば南方は如何。先づ

◎智恩院 の大巨利あり。淨土宗の總本山にして、驚張の廊下、大梵鐘など見るべきもの多し、其處を南すれば

○圓山公園 あり京洛人士が四季を通じて遊杖を曳き來るの土地、旗亭軒を並べ、温泉あり、射的場あり、寫真店あり、殊に有名なる大幹の枝垂櫻は、春の夜電燈を點じて、諸人の群集するもの極めて多し。地は西にて、

○八阪神社 接す、俗に祇園神社と稱するは是なり、例年七月の祇園會は、有名の神事にして、遠近より來り見るもの多し。

○東大谷 大谷派本願寺の廟所なり、紅葉の名所として聞ゆ。

○高臺寺 萩の名所。素とは法觀寺といへる寺内にありたるものなりしも、今は塔のみ存せり。

○八阪塔 大和大路四條の南にある。別に門前には惠美須神社の鎮座あり。

○建仁寺 音羽山清水寺はその法相眞言兩宗の兼學地としてよりも寧ろ多くの遊覽

○清水寺 の地として聞ゆ、新築の舞臺は高くして新高尾の紅葉谷は深し。

○西大谷 東大谷が大谷派本願寺の廟所なるに對して、西大谷は本派本願寺の廟所なり、五條阪上にありて、殊に門前の蓮池と目鏡橋とに名高きところなり。

○大佛方廣寺 本尊の大佛は雷火の爲に燒棄したれば目下は木製の半身像を安置す

別に巨鐘あり、小錢一錢を投すれば大槓木を以て搗き鳴すことを得べし、門前には耳塚あり、又有名なる大佛餅屋あり。

○豐國神社 別格官幣大社にして豐太閤を祀る。その南隣に、

○帝國京都博物館 あり。

○三十三間堂 は又その南隣なり。

○稻荷神社 に到つて全く東山の遊覽地は盡く。この境内は極めて廣潤にして、後山いなり山は松茸の名物地なり。この山廻りには可笑しきこと、面白きこと數あれど紙幅に限りあれば略す。これより再度踵を返して、最初の三條橋畔に歸れば、先づ見る、

○先斗町遊廓 三條より四條に到る間鴨川に添へる遊廓あり、こゝより去る事僅に三四町にして

○新京極 あり三條四條の間に、大阪の千日前と同じく各種の興行物軒を並ぶる

土地なり、直ぐ傍に、

○蛸薬師 ありその南に、

○安養寺 あり。

◎鑄天神 又た新京極にあり。

◎五條大橋 加茂川三大橋の一にして、兩岸凡て遊廓なれば、日夜弦歌の聲水聲と和して喧敷雜踏を極む。

◎六角堂 六角通り鳥丸の東

◎因幡薬師 松原鳥丸の東

◎東本願寺 眞宗大谷派の本山にして、七條停車場の附近にあり。

◎西本願寺 眞宗本願寺派本願寺俗に本派本願寺ともいふ西六條にあり。

◎東寺 西八條。

再び去て洛西に移る、洛西に於て最も見るべきところは嵯峨、お室邊りにあることいふ迄

◎嵐山 大堰川の東岸にあり、滿山櫻樹に加ふるに楓樹の茂れるあり、春秋の覽め

を最も可しとす、大悲閣あり、三軒家と稱する料理店あり、殊にこの川を丹波の龜山より

小舟に乗じて下るは壯快極りな遊戯として外人なきの賞賛するもの多し、龜山の到る

には京都鐵道の便あれば、嵯峨驛より乗車するを近道とす。

◎天龍寺 下嵯峨にある名刹にして彼の近事の高僧岷山和尚が住持せる寺として最も多く聞ゆたり、寺内廣く庭園の覽め又可なり。

◎三尾 洛の紅葉の名所としては、高尾、栲尾、榎尾の三尾を最なるものとす。

◎仁和寺 お室の仁和寺は聞ゆたるものなり、境内に櫻樹多く、花時頗る雜踏を極むる名勝地なりとす。

◎金閣寺 平野神社の西數町にあり。庭園の幽邃なること本邦の中稀に見るところなりとす、足利義滿の築くところ。

◎北野神社 官幣中社にして、菅公を祀る有名なる大社にして境内に梅花多く、河畔の紙屋川の堤防又重詰を開くの便あり。



◎神戸 (神戸市及び附近) 案内

(三)

▲湊川神社 楠社又は楠公社と稱す多聞通二丁目にあり神戸停車場を下りて北に通ずる街路を行かば其正門に達すべし、境内には水族館、勸商場等あり、水戸光國卿の建てられたる「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑は正門右方にあり、正門を出で東に向へば

▲相生橋 あり、此橋は鐵道線路の上に架けたるものにして橋側に兵庫縣里程元標あり橋の東に相生橋警察署、神戸市役所、神戸商業會議所、電話交換局あり、橋の東に進めば上方は暗溝にして下方小川となれる所あり是を宇治川といふ、川に沿ひて下れば赤煉瓦にて疊める家あり之を

▲神戸郵便電信局 とす、更に下れば川の左側に

▲殿島神社 あり、折れて海岸に出づ、是れを

▲海岸通 といふ内外の船舶林立、煤烟、濃霧、晝夜絶えず、内外商店、回漕店、旅館等相連る、海に面して中税關あり海路神戸に來るもの、乗降場なり、其門前に自動電話あり

東して遊園場に接する所に海中に突出せる石垣あり、

▲米利堅波止場 これなり内外人の船舶乗降場なり海岸通りはこれよの起り、西に數へ

六丁目宇治川に至りて盡く、米利堅波止場より北西に向ふ道路を

▲榮町通 と稱す、銀行會社商店等大厦軒を并べり人道車道を分ち車道には煉瓦を疊めり、此街も亦六丁目まであり郵便電信局は新街の盡くる所なり、海岸榮町の間に小巷二あり亦兩街に屬すれども俗に内海岸、内榮町と稱す

▲元町通 は榮町通りの北街衢にして亦鯉川筋より西に一丁目二丁目と數ふ元、榮、海岸の三町は神戸にて目貫の地にて殊に元町は商店櫛比最も繁華なり、元町の範圍は鐵道側に涉り頗る廣く、裏通りには料理店多し、中檢、元檢と稱する藝妓檢番あり、鯉川筋には三宮郵便分局あり、元町一丁目を更に東すれば左は三宮町とす、三宮町には元河原兄弟の塚ありしが今は他に移さる

▲三宮神社 は生田神社の裔神にして境内には寄席、露店、興行物ありて夜分は殊に賑はへり

▲歌舞伎座 は元朝日座と稱したるものにて近來改築したるものなり、三宮町の南

▲舊居留地 あり今は一般は江戸町、京町、浪花町、明石町等の名稱を付せらる、外人の居住地なれども内商も亦此中に店舗を有せるものあり神戸税關は海岸にあり、東端に

▲遊園場 あり、堤防の如き小丘に沿ひ一面の芝生にして小亭あり、散策、遊戯をなす

(三)

に宜し、丘上に松林あり夏日涼を納るゝに適す。此は小丘舊生田川の堤防たりしもの丘を
際して北に通ずる長街路は生田川の舊川床にして俗に瀧道と稱す、布引の瀧に通ずるを以
てなり

▲湊山温泉 湊川の上流にあり、酒樽數軒ありて賑へり、是より石井に通ずる所に千鳥
瀧あり鳥原に願成寺あり、平通盛塔、小宰相局塔等あり夢野に氷室の古跡あり奥平野
を出で、直ちに南すれば

▲縣立病院及商業學校 あり其南の小丘は

▲安養寺山 にして眺望宜し山下に

▲廣嚴寺 あり俗に楠寺と稱す、楠公の自殺せられし所なりといふ公の遺物あり、其
隣は

▲安養寺 にして浄土宗なり前面の新道は近來開く處にして之より下山手八丁目に通ず
楠社の東門に

▲神戸地方裁判所、神戸區裁判所 あり目下新築中にして假廳舎は奥平野にあり

▲西門筋 楠社西門筋は町名を橋通といふ、小料理屋、楊弓、射的各種の遊戯場興行
場勤商場等ありて頗る殷盛の所なり、橋通を西すれば

▲福原遊廓 あり、湊川堤防に沿へり、稻荷新地亦之れに隣れり

▲多聞通 橋通の南楠公社正門通りの稱にして楠社の前に

▲大黒座 の劇場あり、多聞通の南は

▲仲町通 とす、福原新都經營地劃の基點とせし標石あり

▲相生町 は其南にして町内に

▲相生座 あり、敷町に涉りて北に通ずる二條の道は

▲鎮靈筋、有馬筋 と呼ぶ有馬道は奥平野に通ずる大道にして、生魚、青物の乾物市
なせり

▲川崎造船所 は東川崎町にありその附近には鐵工所多し

▲湊川 楠公戦死の地として有名なる湊川は神戸市の中央を流るゝ礫川にして六條の橋
を架す、洗心橋、金毘羅橋、新橋、湊橋、中橋、土橋といふ、近來政修會社の事業として
洗心橋の下方より隧道を鑿ち西河湊川に通じ新橋以北を公園とする設計にて今や川床開拓
工事中なり、川の西に

▲兵庫 とす川崎町の踏切附近の中橋を渡り西出町に出づれば「日向神社」あり、其前
に教盛の兄「平經俊塚」あり其北佐比江町は昔の遊女町のありし地なり

▲七宮神社 是生田神社裔神の一なり是より海岸に島上町あり四國紀州淡路等に往來する船客の乗降場とす其附近に「魚市場」あり、北神明町に

▲明治座 あり元村の芝居と稱す、永澤町に

▲嚴島神社 あり辨天社といふ境内に寄席龜甲亭あり茲より西南に至れば柳原にして山陽鐵道會社及兵庫驛あり、柳原には酒樓相連り本檢旭檢の二檢番あり

▲兵庫警察署 あり

▲米穀取引所 あり

▲兵庫郵便電信支局 あり 小物屋町にあり

▲築島寺 是島に町にあり、平相國が築島の時、童松王が爲めに創設せしものと傳ふ寺内に松王塔、好王妓女塔、俳人大魯の碑あり

花鳥のそよへば春のくるゝ哉

▲新川 築島の前面の川にして明治九年の開鑿にかゝる、現時は運河に通じて尻池の海に至る船舶風波の難なく頗る便利なり

▲能福寺 逆瀬川町にあり、傳教大師の開山なり、寺内に大佛あり

▲長樂寺 には一遍上人の御笠松あり

▲眞光寺 是須佐野通にあり、一遍上人廟、遊行上人墓、遊行柳あり、同寺にも又露佛あり、其他寺院江川町に「藤の寺」あり「極樂寺」あり、惠林寺あり、西宮町に長傳寺法界寺西幸寺等あり

▲平相國塔 逆瀬川町にあり清盛塚と稱す十三層の高塔にして西勝寺貞時の建設なり其前に

▲琵琶塚 あり但馬守經正の墓なり經正は琵琶の妙手なるを以て云ふ

▲茅御所石標 運河と新川と相會する處にあり平相國が後白河法皇を押こめ奉りし所なりといふ、是より南すれば

▲藥仙寺 あり、後醍醐天皇隱岐國より還幸の時、泉水を汲みて藥を奉りし所なり

▲新川遊廓 今出在家町にあり、新川に沿ひたるを以て名く、廓内に藝妓檢番、料亭あり

▲和田神社 和田岬に通ずる所にあり、元海濱にありしを近來茲に移せり、社殿宏壯なり

▲和田岬 兵庫の南端海に突出せる所といふ、風光頗る佳、和樂園あり

▲檢疫所 あり、吉田新田には

▲鐘淵紡績會社支店 あり東尻池の寺山といへる處は福原内良湊と稱せし處なりと此附

近「寶滿寺」あり平氏に由緒ある寺なりと

▲句梅 尻池にあり菅公左遷の時一首の歌を詠せしものなりといふ

風寒み雪にまかへて咲花の

袖にそうつれ句ふ梅が香

▲眞野浦 此海邊を古眞野浦といふ古歌多し

▲荊藻川 新湊川を合流す其前面、海中に

あり、近來俱樂部の設置あり、遊人の來るもの多し、是より山手に至る

▲長田神社 長田里にあり、事代主神を祭る、毎月一日來賽するもの多し、之を長田詣

といふ、此附近は源平の古戰場として「武藏守知章墓」「監物太郎頼方墓」「越前三位通

盛塚」「木村源吾重章墓」「越中前司盛俊塚」等あり、駒ケ林には「薩摩守忠度塚」等あ

り、懐古の士は行て物色せらるべし

旅館及料理屋

旅館の重なるは其料理屋を兼ねるものにて兵庫に常盤花壇、音羽花壇、諏訪山に西常盤、

東常盤、中常盤、吉田、一力、布引に門懸、天王に金佐、熊ヶ嶽、三河屋あり、旅館のみ

のものは海岸榮町に西村、後藤、蓬菜舎、常盤舎、田中、出口、中居、竹井、安場屋、兵

庫に魚養、駒庄あり、神戸停車場附近に加藤、萬龜、菊水、千秋樓、吉田、山陽館、三宮

に松葉屋、相生橋東詰に樹屋、縣廳上に三光舎あり、ホテルはオリエンタル、イーヌメン、

自由亭あり、料理屋は現長(多聞通、元町二丁目、北長狹通)江戸幸(福原口、穴門)月花亭

(關門)すし秀(福原下山手)三つ輪(元町、有馬道)鳥音(多聞通)相生亭、丸山亭(以上元七)

伊勢清(神明町)鳥祐(三宮)吟松亭、玉川、播半(以上北長狹)玉村屋(元町)松月庵(湊町一)

紀の松(鎮臺筋)江戸爲(多聞通)鳥榮(西門)等あり又西洋料理には宇治川自由亭及神戸驛内

同支店、三宮驛西常盤支店、北長狹改良亭、楠社内水新、榮町西洋亭、元町松利亭、縣廳

前寶亭、三宮、私養館等あり

▲鷹取驛 兵庫を西に下る第一驛にして海濱に石油貯藏所あり

▲清友園 鷹取驛より北七町餘大手村にあり、梅を以て名あり

▲福昌寺 板宿村にあり鷹取より東北十八丁、楓樹の名所にして俗に紅葉寺と稱す

本尊は釋迦か阿彌陀か紅葉哉 瓢 水

▲鷹取山 福昌寺の上方の高嶺なり山上に稻荷の社あり

▲須磨浦

兵庫縣を距る二里、氣候よく風景佳なり、古來勝地として知らる

▲網敷天神

須磨驛の東の松林にあり、菅公左遷の時、禱を敷きて風景を賞せし處なり

▲須磨寺

驛の北八丁許にあり仁和中の開基にして源平時代の寶物多し境内櫻樹數百株ありて花時遊人多し又「若木櫻」あり

▲現光寺

須磨警察署の傍にあり、似雲風月庵の跡なり、芭蕉の句碑あり

見渡せばなかに見れば見れば須磨の秋

▲關屋趾

其西方街道の左右に小高き處ある是なり

淡路島通ふ千鳥の鳴聲は幾夜寝覺めぬ須磨の關守

兼 昌

▲千森川

其西にある小川にして昔一の谷城の外壕なりしといふ、瀬西すれば石橋あり

其奥の入れば

▲一の谷

にして源平古戰場として有名なる所なり、谷の上に平坦なる處あり是を

▲内良蹟

といふ、古松兩三株あり其西に「一の谷」「三の谷」あり上方は源家の快男

▲鐵拐嶽

にして阪落し、岩石落しあり、海濱は今も

▲戦の濱

と稱し源平の激戦せし處なり、三の谷の西

▲教盛塚

あり、實は北條貞時が平家戦死者の爲めに建てたるものなりといふ塚の前に

教盛樓名物教盛そばあり其他須磨には中納言行平卿、光源氏平家の遺跡等少なからず

▲厄除八幡

須磨の北三十餘町多井村にあり、此村には義經の嚮導たりし鷲尾氏の宅

松風村兩二女の墓等あり

▲旅館及料理屋

保養院は二の谷と三の谷の境、松林中にあり、温泉あり旅館料理屋を

兼ね、海月館は其西にあり松の家は其隣にあり

▲榎屋驛

源平合戦の時、土肥實平が陣立せしは此邊ならんにて老風景よく別荘多し、

旅館にビーナハウスホテルに西洋料理と外人旅館にして春廬家望海樓

▲舞子

須磨を距る二里、播州西垂水田の間にあり、海濱老松無數蟬蛻して風光絶佳な

り今縣の公園たり、濱の後の丘上に石川宮殿下御別邸あり

▲海神社

舞子驛の東垂水驛附近にあり

▲千壺

五色山といふ、舞子驛の東七丁許其東に

▲遊女塚

あり

▲旅館及料理屋

萬龜樓、左海屋、松菊樓、龜屋は何れも公園内にありて海に枕り

▲明石 彼のくゝの詠ありし以來世人に知らるゝ名所なり、曉霧に宜しく夜月によろし
▲八丸神社 明石驛より八丁許東北丘上にあり、境内に盲杖櫻、八房梅等あり、海上の
眺望願る佳、芭蕉句碑あり
蝸壺やはかなき夢を夏の月

▲明石城 北方高き所、松間に白壁の城壁を望むものは是なり

▲太山寺 明石の北二里、大藏冠、鎌足公の創立にして仁王門の額は小野道風の筆なり
櫻樹あり、瀑布あり

▲旅館及料理屋 山口旅館は驛前にあり、惠美須屋は相生町にあり、何れも旅館料理屋を兼
ぬ、近安は東本町にある料理屋なり、海濱に衝齋館、錦明館、長春樓あり、王子村に千秋樓

あり

▲天郷梅林 大久保驛を距る北二十五丁、梅樹數百、老幹多し

▲金崎松林 同驛の西北十五丁の丘上にあり、眺望宜し

▲屏風ヶ浦 風光佳、海水浴に適す、旅館海秀樓あり

▲手枕松 別府村にあり、土山驛より西南一里十町、播州巡りは東よりするものは土山驛
より下車し此松より巡覽す

▲相生松 高砂神社境内に在り

▲尾上鐘 神功皇后三韓より齎らし給ひしものなりといふ

▲鶴林寺 刃田山といふ聖徳太子の創立にして播州の四天王寺と稱す

▲石寶殿 印南郡米田村の内監市村山腹にある一大石室にして社殿の横れるが如し、
播州名所中の奇觀なり

▲觀瀾處 石の寶殿の南小山の上に此三字を刻せる巖あり、眺望佳なり、其他志方村に

は「高御座山」「天神山」「法華山」等あり、「八十の石階」は自然の石段をなせるものに
して神吉村にあり

▲會根の松 會根村天満宮境内にあり、菅公左遷の時手栽する所なりといふ、阿彌陀驛の
東に

▲時光寺 あり、時光上人の建立せしもの又路傍に兒島範長の墓あり

を は り

明治三十六年四月五日印刷
明治三十六年四月十日發行

定價金拾錢

編輯者 山下雨之助

發行者 岡本仙助
大阪市東區北久太郎町四丁目百二十八番屋敷

印刷者 吉村源次郎
大阪市南區堀町二丁目四十一番屋敷

印刷所 山田元吉
大阪市南區安堂寺橋通二丁目二十六番屋敷

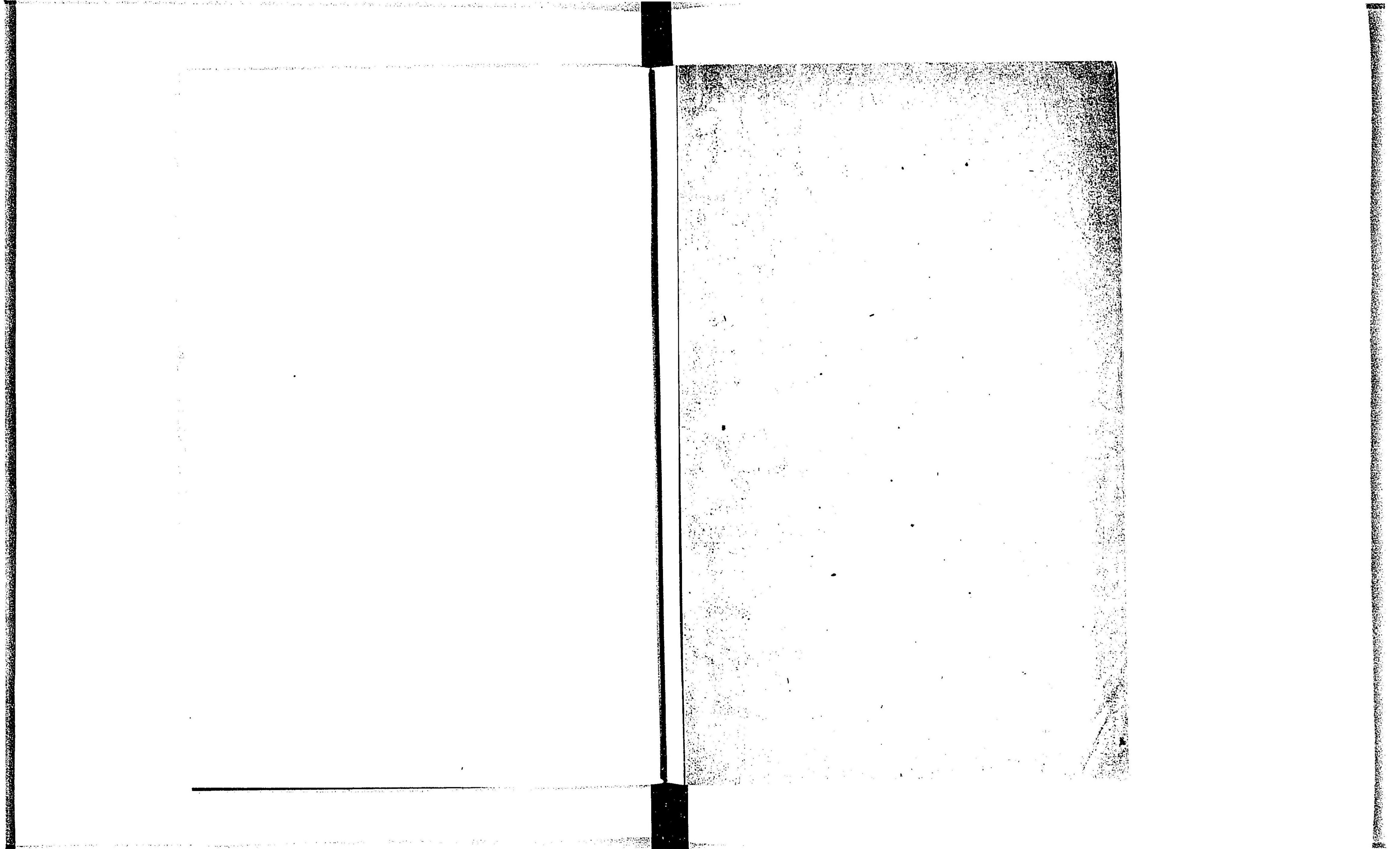
複製不許

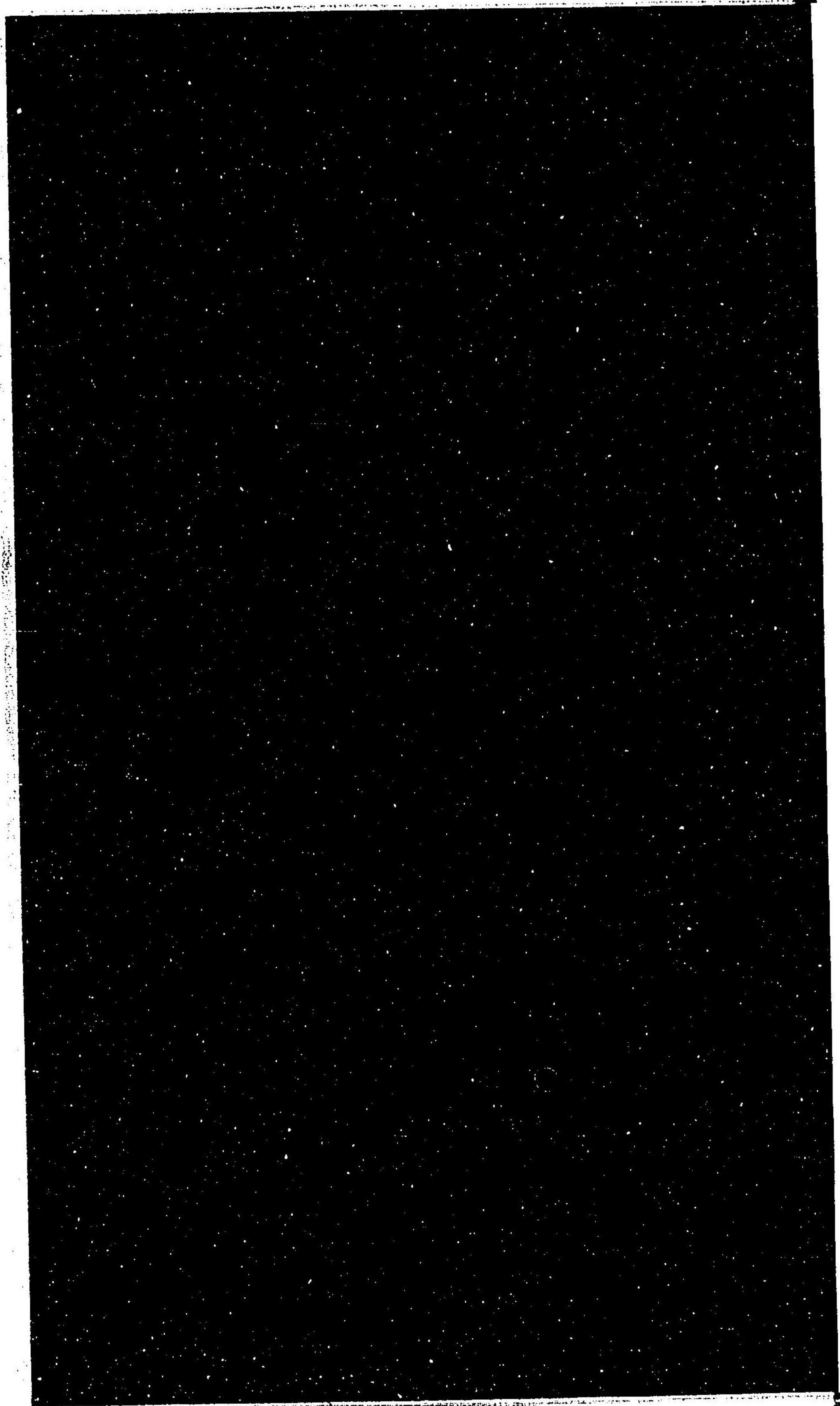
發行所

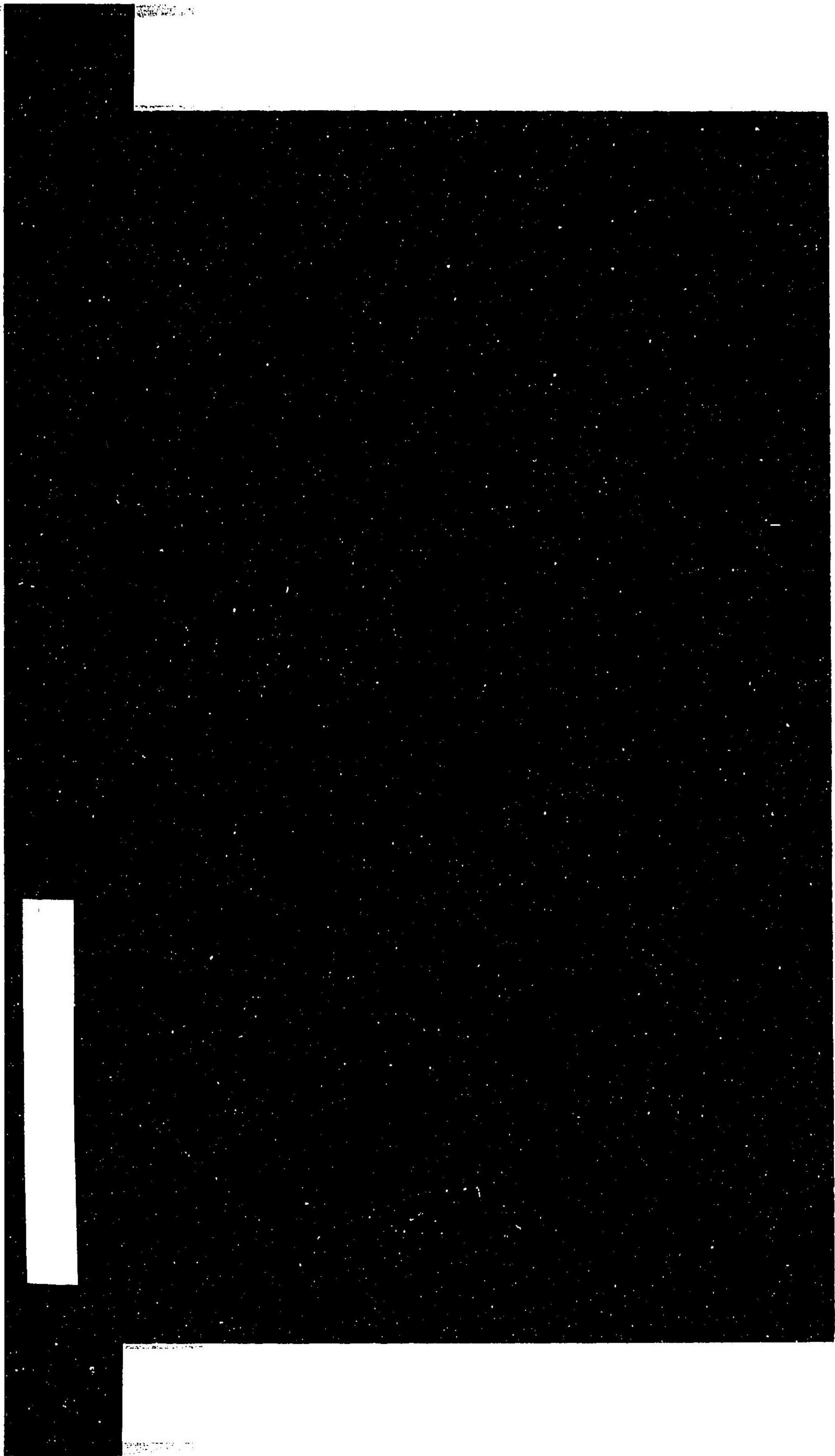
大阪市東區北久太郎町四丁目心齋橋筋東へ入

岡本偉業館

電話東二一八七番(長距離加入)







特20

403

博覧会土産

国立国会図書館

025584-000-1

特20-403

博覧会土産(大阪及び附近の名所案内)

蓬州, 雨花/編

M36

ADC-3075



